1 準備と設定

「あなたのパソコン」として使うために

VALUESTAR W

●マニュアルガイド●

このパソコンには、次のマニュアルが添付されています。
目的に合わせてご覧ください。

パソコンを使う準備をしよう

『準備と設定』

ケーブルの接続やパソコンのセットアップ／基本中の基本の操作／インターネットに接続する方法／パソコンを買い替えたときは　など

パソコン活用のヒントはこの本

『活用ブック』

マウスやウインドウの使い方／日本語入力をマスターしよう／メールやホームページの楽しみ方／便利なソフトの活用術／セキュリティ対策について　など

トラブルが起きたときは

『パソコンのトラブルを解決する本』

パソコンの電源が入らない、パソコンが急に動かなくなったときは／画面が表示されない／ウイルスに感染してしまったら／再セットアップ方法　など

パソコンでテレビを見てみよう

『テレビを楽しむ本』

（デジタルハイビジョンTVモデルのみ）

パソコンで簡単にテレビを見る方法／おてがる予約や追っかけ再生／録画番組の編集／ DVDなどへの保存方法／一歩進んだテレビ操作　など

853-810601-795-A

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで
「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

箱の中の添付品やパソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windowsのセットアップ）手順を説明しています。

第4章　「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROMやDVDなどのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章
「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章
「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章　「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章　「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

第9章　「このパソコンのおすすめ機能」

このパソコン特有の機能を設定するには、この章をご覧ください。

付　録

パソコンのお手入れの方法、仕様一覧など、さまざまな情報を記載しています。

853-810601-795-A
2009年1月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

⚠注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

	使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。
	一般禁止 その行為を禁止します。
	電源コードのプラグを抜くように指示するものです。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

	そのページで説明している手順で、特に大切なことです。
	してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキー、またはリモコンのボタンを指します。
DVD/CDドライブ	ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)またはDVDスーパーマルチドライブを指します。
「ソフト&サポートナビゲーター」	「ソフト&サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。 「ソフト&サポートナビゲーター」は、デスクトップの(ソフト&サポートナビゲーター)をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル(機種)を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン、本機	表の各モデル(機種)を指します。
ブルーレイディスクドライブモデル	ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)を搭載しているモデルのことです。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-R/RW with DVD+R/RWドライブ(DVD-R/+R 2層書込み))を搭載しているモデルのことです。
デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデル	地上デジタル放送、およびBS・110度CSデジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
Draft 11n対応ワイヤレスLANモデル	IEEE802.11a(5GHz)、IEEE802.11b/g(2.4GHz)、およびDraft IEEE802.11n(2.4/5GHz)の規格に対応したワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
Windows Vista Home Premiumモデル	Windows Vista® Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Office 2007モデル Office Personal 2007またはOffice Personal 2007とPowerPoint 2007が添付されているモデルのことです。

Office Personal 2007モデル Office Personal 2007が添付されているモデルのことです。

シリーズ名	型名（型番）	表記の区分				
		DVD/CDドライブ	TV機能	ワイヤレスLAN	OS	添付ソフト
VALUESTAR W	VW790/SG（PC-VW790SG）	ブルーレイディスクドライブモデル	デジタルハイビジョンTV（地デジ/BS/110度CS）モデル	Draft 11n対応ワイヤレスLANモデル	Windows Vista Home Premiumモデル	Office Personal 2007モデル
	VW770/SG（PC-VW770SG）					

◆VALUESTAR Gシリーズについて

VALUESTAR Gシリーズの各モデルについては、添付の『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の記載について

・ 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・ 記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆周辺機器について

・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
・ 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任においておこなってくださるようお願いいたします。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows Vista	Windows Vista® Home Basic with Service Pack 1（SP1） Windows Vista® Home Premium with Service Pack 1（SP1） Windows Vista® Business with Service Pack 1（SP1） Windows Vista® Ultimate with Service Pack 1（SP1）
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版 Service Pack 3
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版 Service Pack 3
Windows XP、Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007（Microsoft® Office Word 2007、Microsoft® Office Excel® 2007、Microsoft® Office Outlook® 2007（Microsoft® Office ナビ 2007）） ※Microsoft® Office 2007 Service Pack 1をインストール済み
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007	Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007 ※Microsoft® Office 2007 Service Pack 1をインストール済み
Outlook、Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows転送ツール	Windows® 転送ツール
Windows Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista® スタート ボタン
ウイルスバスター	ウイルスバスター ™ 2009
WinDVD for NEC	InterVideo® WinDVD® for NEC
WinDVD AVC for NEC	InterVideo® WinDVD® AVC for NEC
WinDVD BD for NEC	InterVideo WinDVD BD® for NEC
セーフコネクト／サーバ	セーフコネクト™ ／サーバ
セーフコネクト／クライアント	セーフコネクト™ ／クライアント
Roxio BackOnTrack	Roxio BackOnTrack Suite
BeatJam	BeatJam 2009 for NEC PCOMG119NBG
スカパー！ Netてれび	スカパー！ Netてれび for Windows Media Center

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® Business または Windows Vista® Ultimate および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Office ロゴ、Excel、Outlook、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
ATI、ATI logo、Mobility、Radeon は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
“Blu-ray Disc”は、商標です。
TRENDMICRO 及びウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
InterVideo、WinDVD、InterVideo WinDVD BD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
SmartVision, FontAvenue は日本電気株式会社の登録商標です。
SD および miniSD ロゴ、および SDHC ロゴは商標です。
“MagicGate Memory Stick”(“マジックゲートメモリースティック”)および“Memory Stick”(“メモリースティック”)、MEMORY STICK、、MEMORY STICK、MEMORY STICK PRO、MEMORY STICK DUO、“MagicGate”(“マジックゲート”)、MAGICGATE、OpenMGはソニー株式会社の商標です。
xD-Picture Card、「xD- ピクチャーカード ™」は富士写真フイルム(株)の商標です。
SmartVision、FontAvenue、121 ポップリンクは、日本電気株式会社の登録商標です。
BIGLOBE はＮＥＣビッグローブ株式会社の登録商標です。
Smartphoto、セーフコネクトは NEC パーソナルプロダクツ株式会社の商標です。
「Image Intelligence」、「イメージ・インテリジェンス」、「フェイスサーチナビ」は、富士フイルム株式会社の商標です。
Roxio BackOnTrack は米国 Sonic Solutions 社の登録商標です。
MaxxBass、MaxxTreble、MaxxStereo、MaxxVolume、MaxxAudio、WAVES MAXX AUDIO はアメリカ合衆国およびその他の国々における Waves Audio ltd. の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

■輸出に関する注意事項
本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export
This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*[1] will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*[1] does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第 1 章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

この章の所要時間：10〜15分程度

はじめに

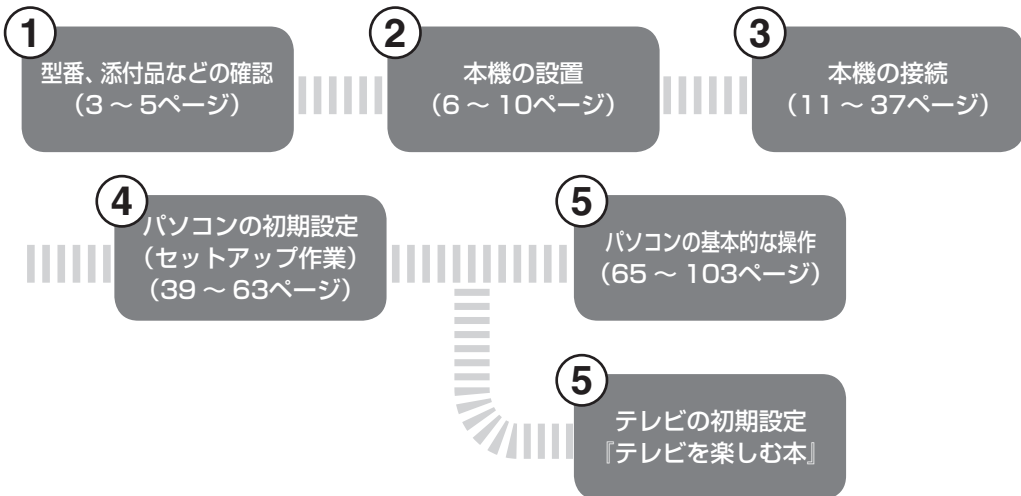
● テレビとして使う場合も、パソコンの準備が必要

接続とセットアップ作業について

このマニュアルの第1章から第3章では、ご購入後、箱から取り出してから、パソコンやテレビとして使えるようになるまでを説明しています。
まずはこのマニュアルの説明を読んで、パソコンやテレビとして使う準備をしましょう。

・テレビとして本機をお使いいただけるのは、デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみです。

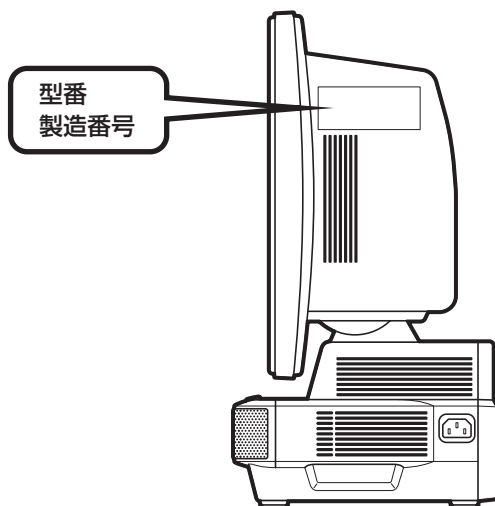
・本機をパソコンとしてではなく、テレビとしてお使いになりたいお客様も、パソコンとしての接続、設定が必要です。

設定の流れ

型番と製造番号を確認する

ポイント

● 保証書と本体のラベルが一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

本体右側面

- 記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 保証書は、所定事項(販売店名、お買い上げ日など)が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

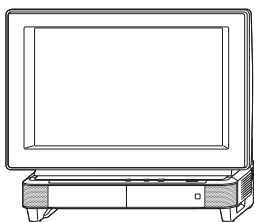
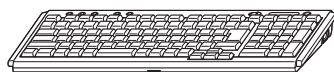
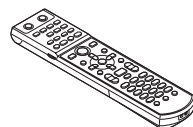
添付品はそろっていますか？

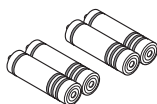
ポイント
●添付品がそろっているか チェックリストで確認する

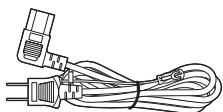
1 添付品を確認する

次のチェックリストを見ながら、添付品がそろっているかを確認してください。

VALUESTAR Gシリーズをご購入の場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

全モデル共通

□ パソコン本体

□ キーボード

□ リモコン

□ マウス

□ キーボード、マウス用乾電池（単3形×4本）

□ リモコン用乾電池（単4形×2本）

□ アース付き電源コード

マニュアルなど

- □ B-CASカード
- □ BS･110度CSデジタル放送パンフレット／加入契約申込書
- □ ソフトウェアのご使用条件(お客様へのお願い)／ソフトウェア使用条件適用一覧
  ※1枚になっています。
  箱の中身を確認後必ずお読みください
- □ 安全にお使いいただくために
  ※箱の中身を確認後必ずお読みください
- □ デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ
- □ PC修理チェックシート
- □ 準備と設定(このマニュアル)
- □ 活用ブック
- □ テレビを楽しむ本
- □ パソコンのトラブルを解決する本
- □ 121wareガイドブック
- □ インターネット活用ブック

Microsoft® Office Personal 2007の添付品

- □ Microsoft® Office Personal 2007 パッケージ

添付品が足りないときは

万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

困ったときには…

NEC 121(ワントゥワン)コンタクトセンター

(フリーコール) 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

※携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000(通話料お客様負担)

持ち運び時の注意

ポイント

- ●必ず手掛け部を持つ
- ●電源を切った後、しばらくたってから持ち運ぶ

⚠注意

●本体を設置したり移動したりするときは、側面にある手掛け部を持ち、ゆっくり持ち上げてください。

このパソコンの重さは約20～21kgあります。無理に持ち上げたり、乱暴に扱って落としたりするとけがをするおそれがあります。

●本体使用中および使用直後は、通風孔部分が高温となっていることがありますので触れないでください。

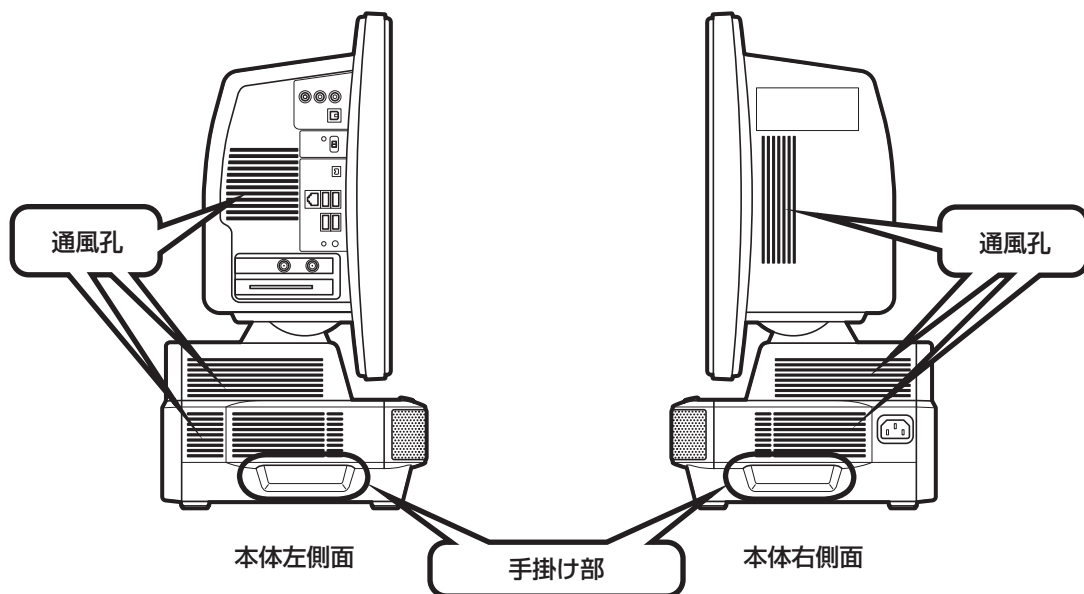
やけどの原因になることがあります。電源を切った後、しばらくたってから持ち運びをしてください。

●ディスプレイの角度を調節するときは、本体台座部の上面に手を置かないでください。

ディスプレイと本体の間に手をはさみ、けがをするおそれがあります。本体台座部の側面または、両手でディスプレイを持って調節してください。

手掛け部を持つ

このパソコンを持ち運ぶときは、電源を切って(シャットダウンして)、電源コード、周辺機器などのケーブルをすべて取り外してください。

また、このパソコンを持ち上げるときは、必ず本体の左右にある手掛け部を持ってください。

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

⚠注意

「水冷システムについて」

本装置では、CPUの冷却のために水冷システムを使用しています。水冷システムの中には冷却液（プロピレングリコールを主成分とする赤色の水溶液）が入っています。安全のため、次のことに注意してください。

●万一、液漏れが発生した場合には、電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。

ショート、感電の原因になります。
電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いた後、NEC 121コンタクトセンターにご相談ください。床などに冷却液が漏れた場合には、乾いた布などでふき取ってください。

●冷却液に直接触れたり、口に入れたりしないでください。

液漏れが発生した場合には冷却液に直接触れないようにしてください。
冷却液が口に入った場合は、すぐにうがいをしてください。また、皮膚に付着したり、目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄してください。体に異常を感じられた場合は、直ちに医師に相談してください。
※プロピレングリコールは、化粧品、シャンプーなどにも使用される物質であり、劇物・毒物ではありません。

また、水冷システムには動作を監視する安全機能がついています。ご使用中に予期せぬビープ音がなり、その後パソコンの電源が切れた場合は、水冷ユニットが故障した可能性があります。すぐにACコンセントを抜き、下記窓口までご相談ください。

NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター

0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

※携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000（通話料お客様負担）

水冷システムの取り扱いについて

・冷却液の補充・交換はしないでください。
水冷システムの中には冷却液（プロピレングリコールを主成分とする赤色の水溶液）が入っております。冷却液の補充・交換は必要ありません。

・水冷システムの故障・液漏れの原因になりますので、以下のことはおこなわないでください。
-水冷システムを分解する。
-水冷システムに衝撃を与える。
-水冷システムを傷つける、または変形させる。

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること
屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上
パソコンの重さを安定して支えられるテーブル、机を選んでください。
また、音の響きやすい台に設置すると、パソコンの振動が台に伝わり、低い振動音が聞こえることがあります。この場合は設置場所を変更するか、パソコンの下に緩衝材を敷くことで振動音を軽減することができます。

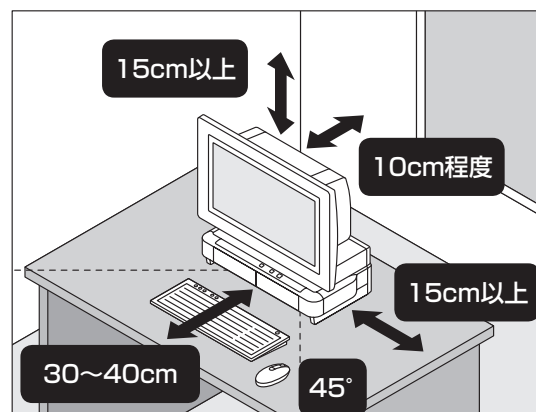
◆温度は10 ～ 35℃、湿度は20 ～ 80%
室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴が付いてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに1時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

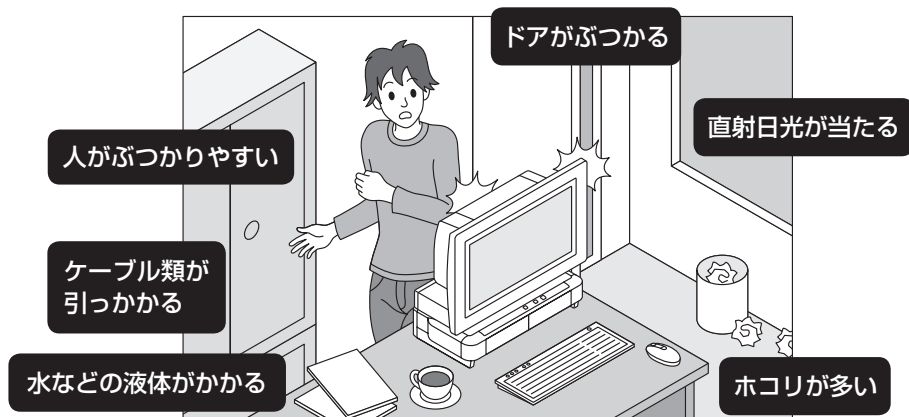
◆ホコリの少ない場所
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因になることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

2 パソコン周囲の広さ

本体前に30 ～ 40cm
キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。
また、キーボードとマウスは、パソコン本体から45度の範囲で使用することをおすすめします。

本体後ろに10cm程度
本体の後ろ側に通風孔があり、ケーブル類が本体の後ろ側に伸びているため、壁などから10cm程度離してください。

本体側面、および上面にも15cm以上
本体の側面、および上面は、通風孔をふさがないように15cm以上の空間を確保してください。

パソコンを使っているときは、本体の上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで！

小さなお子様がいる場合は、ケーブルの付いた機器をお子様が落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

4 コンセントや電話回線などの近くに置く

◆コンセントについて

- ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。
- 添付の電源コードを直接コンセントに接続してください。
- コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。

◆電話回線について

インターネットを有線で利用する場合､電話回線につながっている機器（モデムやルータなど）とパソコンを、ケーブルでつなぐ必要があります。それらの機器にケーブルが届く範囲にパソコンを設置してください。

◆アンテナケーブルについて

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナケーブルの位置や長さに注意が必要です。アンテナケーブルの接続については、「アンテナケーブルを接続する」(26ページ）をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど(磁気を発生するもの)
強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもかまいません。

◆ストーブなどの暖房器具
暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

◆ほかのディスプレイやテレビ、ラジオ
ほかのディスプレイやテレビの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声に雑音が入ることがあります。

6 パソコンの近くにあると影響を受けるもの

◆コードレス電話、携帯電話
通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

アンテナケーブルを用意する

デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルでは、テレビを見るためにアンテナケーブルを接続する必要があります。市販のアンテナケーブルを用意しておいてください。お手元にない場合は、そのまま作業を進めてかまいません。パソコンとしてのセットアップは問題なくおこなうことができます。
テレビの設定は、アンテナケーブルを接続した後で、始めることができます。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

パソコン本体の置き場所を決めたら接続です。B-CASカードのセットやアンテナケーブルの接続、キーボードとマウスを使う準備もします。じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源コードの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：20〜40分程度※

※本章の説明を読んでアンテナケーブルなどの接続方法をご理解いただいており、このパソコンの添付品以外の必要な品(アンテナケーブルや分波器など)がすべてそろっている状態での目安の時間です。

インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

テレビを見るために準備するもの

本機に添付されていないものについては、市販品を用意してください。

ポイント

- デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ
- テレビを見るための接続と設定に必要なものを準備します

本機に添付されているもの

接続と設定をするためには、次の添付品を使います。

□ 電源コード
□ キーボード
□ マウス
□ リモコン
□ キーボード、マウス用乾電池(単3形×4本)
□ リモコン用乾電池(単4形×2本)
□ B-CASカード(ビーキャスカード)

別に用意するもの

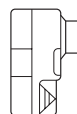
本機には添付されていません。別に、市販のものを用意してください。

必ず用意するもの

□ F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル※

※ ご購入されたモデルやご家庭のアンテナ、ご使用になる混合器／分波器の種類によって、必要なアンテナケーブルの本数が異なります。詳しくは各機器のマニュアル、または電器店にお問い合わせください。

ご家庭のアンテナコネクタの形状をご確認の上、F型コネクタプラグ付きアンテナケーブルは、コネクタの片方、または両方の形状がネジタイプのものを用意してください。ネジタイプ以外のコネクタでは、ノイズの影響によって正常に放送を受信できない場合があります。片方のみネジタイプの場合は、パソコン本体側にネジタイプのコネクタを接続してください。

ネジタイプ

箱型

必要に応じて用意するもの

代表的なものについて紹介しています。必要に応じた市販品を電器店などでご購入ください。

- 分波器(セパレーター)
  屋内壁面のアンテナケーブル端子の1つに、BS･CSの受信電波とUHF･VHFの受信電波が混合して送られている場合に、BS･CSの電波とUHF･VHFの電波を分離するときなどに使用します。
- 分配器(ディバイダー)
  屋内壁面のアンテナケーブル端子が1つしかない場合など、1つの受信電波を複数のテレビやテレビチューナーを搭載したパソコンに分ける(分配する)ときなどに使用します。

・ **混合器(ミキサー)**

BS・CS、UHF・VHFなど、複数の放送電波を1本のアンテナ線に混合するときに使用します。

・ **ブースター(増幅器)**

受信電波が弱い場合に、電波を増幅するためのものです。

・ **アッテネーター(減衰器)**

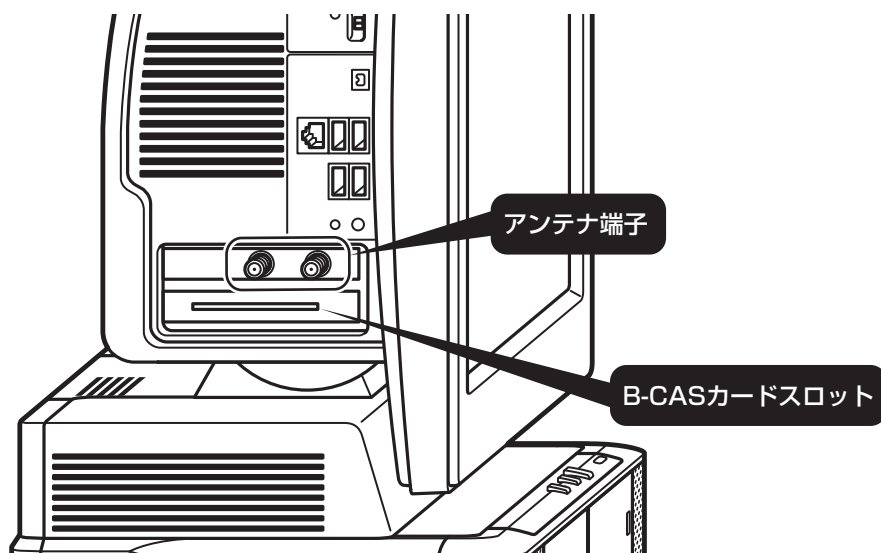
強すぎる電波を減衰するためのものです。

※いずれの機器も、BS・CS用アンテナをご使用の際は、電流通過タイプが必要となることがあります。

衛星放送の電波とUHF(/VHF)の電波を混合している場合は、パソコンへの接続時に、分波器を使用してBS/CSとUHF(/VHF)に分けてから本機に接続してください。

アンテナケーブルの接続/ B-CASカードのセット場所

アンテナのケーブルおよびB-CASカードは、本体左側面にあるアンテナ端子、およびB-CASカードスロットにセットします。

詳しくは「アンテナケーブルを接続する」(26ページ)以降をご覧ください。

テレビ放送の受信環境を確認する

● デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ

受信できる放送とアンテナ

本機で受信できる放送について

地上デジタル放送、BS/110度CSデジタル放送が受信可能です。地上アナログ放送は受信できません。
ケーブルテレビ経由では「BS/110度CSデジタル放送」を受信できません。

地上デジタル放送用のアンテナについて

地上デジタル放送を視聴するには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを、地上デジタル放送の電波送信塔に向けて設置する必要があります。
これまで地上アナログ放送を受信していたUHFアンテナで、地上デジタル放送を受信しようとしてアンテナの向きを変えると、今まで視聴していた地上アナログ放送が映らなくなることがありますので、そのようなときは、地上デジタル放送用のアンテナを、別に設置することをおすすめします。

◆UHFアンテナを選ぶときは

使用するUHFアンテナは、電波の強さに応じて選んでください。お住まいの場所が放送サービスエリア内かを社団法人デジタル放送推進協会(Dpa)(http://www.dpa.or.jp/)で確認し、放送サービスエリアからの位置によってアンテナを選んでください。
なお、設置場所などの条件によっても電波の強さは異なり、それに応じて設置するアンテナの種類も変わってきます。
アンテナの種類や設置について詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

◆ケーブルテレビをご利用になっている場合

ケーブルテレビをご利用になっている場合は、受信契約をしているケーブルテレビ会社によって接続方法が異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
このパソコンでは、同一周波数パススルー方式と周波数変換パススルー方式に対応しています。

BS/110度CSデジタル放送用のアンテナについて

BS/110度CSデジタル放送を視聴するには、BS/110度CSデジタルアンテナを設置する必要があります。アンテナの向きの調整方法については、アンテナのマニュアルをご覧ください。また、ケーブル、ブースター、分配器などをお使いになる場合は、BS/110度CSデジタル放送に対応した製品をお使いください。
従来のBSアンテナでもBS/110度CSデジタル放送を視聴できる場合がありますが、お使いの環境によって不安定になることがあります。そのような場合は、BS/110度CSデジタルアンテナをお使いください。また、BSデジタル放送のみ視聴する場合は、BSデジタル放送用アンテナもお使いいただけます。
なお、スカパー！ e2用のアンテナでは、110度CSデジタル放送を受信することはできません。

BS/110度CSデジタル放送用のアンテナの電源について

BS/110度CSデジタル放送用アンテナに取り付けられたコンバーターに供給する電源をアンテナ電源といいます。このパソコンのアンテナ電源は、ご購入時は「切」(アンテナ電源オフ)に設定されています。BS/110度CSデジタル放送用アンテナをこのパソコン専用に用意している場合のみ、アンテナ電源を「入」(アンテナ電源オン)に設定してください。同じアンテナに接続されているほかのデジタル機器からアンテナ電源を供給している場合は、パソコン側は「切」のまま(ご購入時の状態)にしてください。

アンテナ電源の設定方法については『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

地上デジタル放送が見られるか確認する

まずはこのページと次のページで、地上デジタル放送が見られるかどうか確認してください。さらに詳しい環境の区別や、BS/110度CSデジタル放送については、17ページをご覧ください。

テレビをケーブルテレビで見ている場合

ケーブルテレビの再配信方式を確認してください。

再配信方式について詳しくは、ご利用のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

同一周波数パススルー方式の場合
周波数変換パススルー方式の場合

対応

本機で地上デジタル放送を見られます。
「テレビの受信環境について」(17ページ)に進んでください。

それ以外の方式の場合

対応

本機ではケーブルテレビで地上デジタル放送を見られません。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

テレビをケーブルテレビ以外の方法で（アンテナを立てて）見ている場合

次のチェックで、お使いの環境を確認してください。

❶ 現在、テレビなどで地上デジタル放送を見ていますか？

見ている → 対応
本機で地上デジタル放送を見られます。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

見ていない

❷ お住まいは集合住宅ですか？
戸建て住宅ですか？

集合住宅 → 対応
集合住宅の管理会社、大家さんなどに、地上デジタル放送が受信できるかどうか確認してください。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

戸建て住宅

❸ お住まいに、UHFのアンテナは立っていますか？

立っている → 対応
多くの場合、地上デジタル放送を見られます。
ただし、アンテナの調節やUHFのアンテナを増設することが必要になる場合があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

立っていない

対応
地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを立てる必要があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

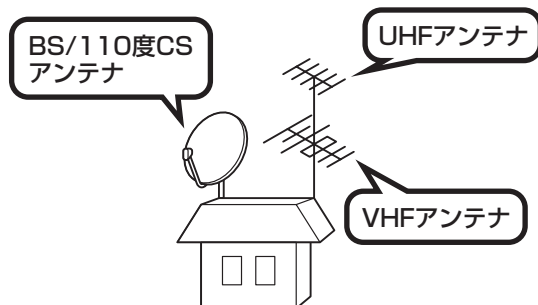
お住まいのテレビ受信アンテナの種類や、受信方法によって、接続方法が異なります。どの受信環境に該当するか確認してください。

テレビの受信環境について

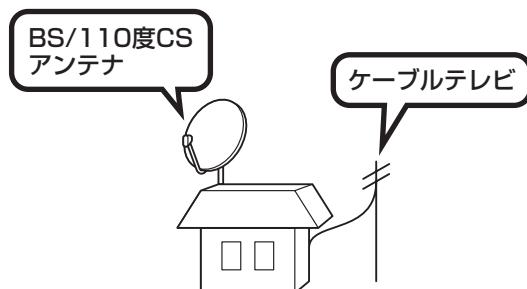
テレビの受信環境は、大きく分けて次の4種類があります。

戸建てで、個別受信の場合

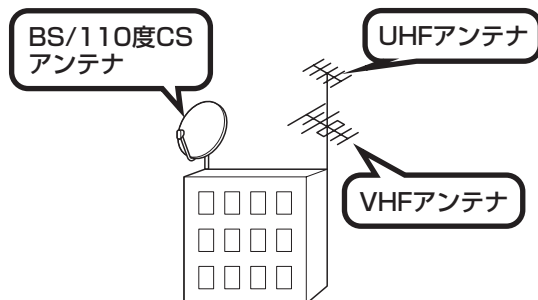
ご自宅にテレビ受信用のアンテナを立てている場合です。

19ページに進む

戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合

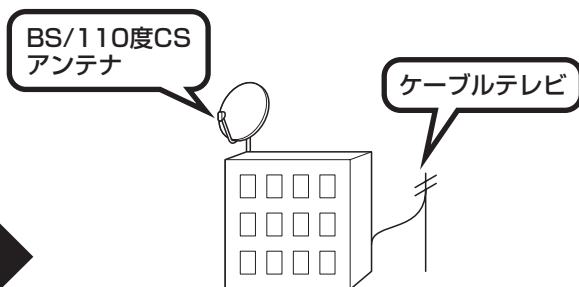
ケーブルテレビと契約してテレビを見ている場合です。

23ページに進む

集合住宅で、共聴受信の場合

集合住宅で、共同のアンテナが立っている場合です。

25ページに進む

集合住宅で、ケーブルテレビ受信の場合

集合住宅で、ケーブルテレビでテレビ受信をしている場合です。

25ページに進む

アンテナに関する注意

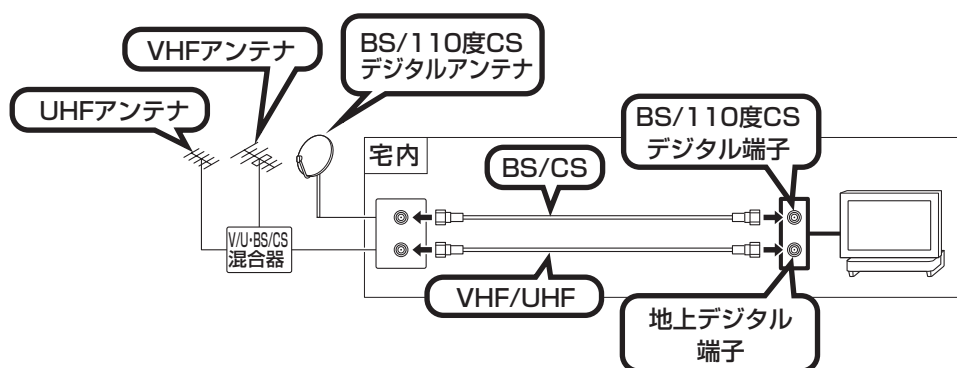
※1: ご使用のUHFアンテナが地上デジタル放送に対応していない場合や、アンテナが地上デジタル放送の電波送信塔の方向に向いていない場合は、地上デジタル放送を受信できません。また、お住まいの地域で地上デジタル放送が開始されていない場合は受信できません。

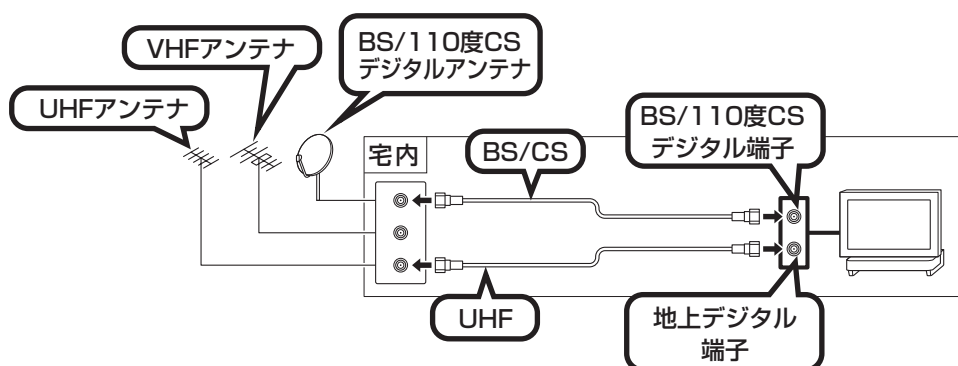
※2: ご使用の衛星デジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様宅内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

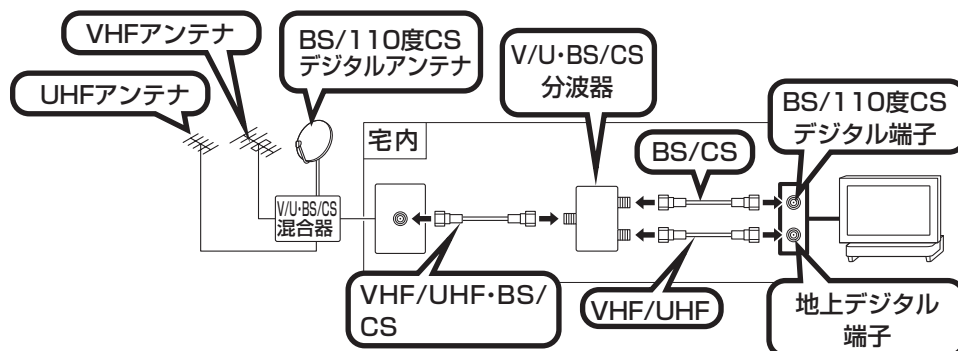
※3: お客様の環境によって、衛星デジタル放送を受信するためには、アンテナに電源を供給する必要がある場合があります。

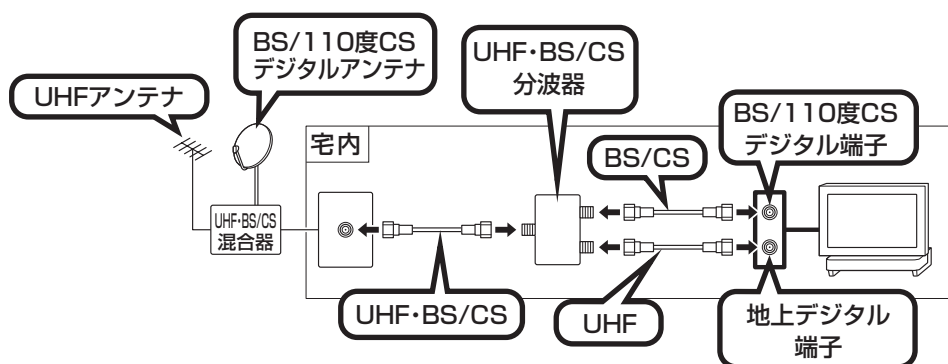
アンテナ線や受信環境について詳しくは、お近くの電器店にご相談ください。

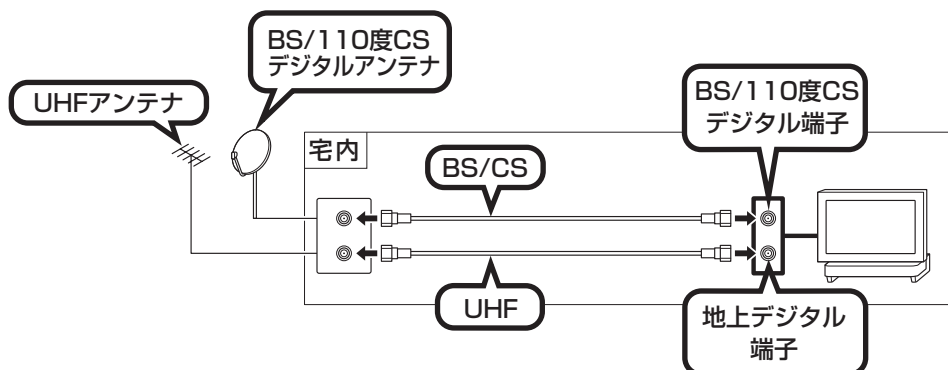
戸建てで、個別受信の場合の接続例を確認する

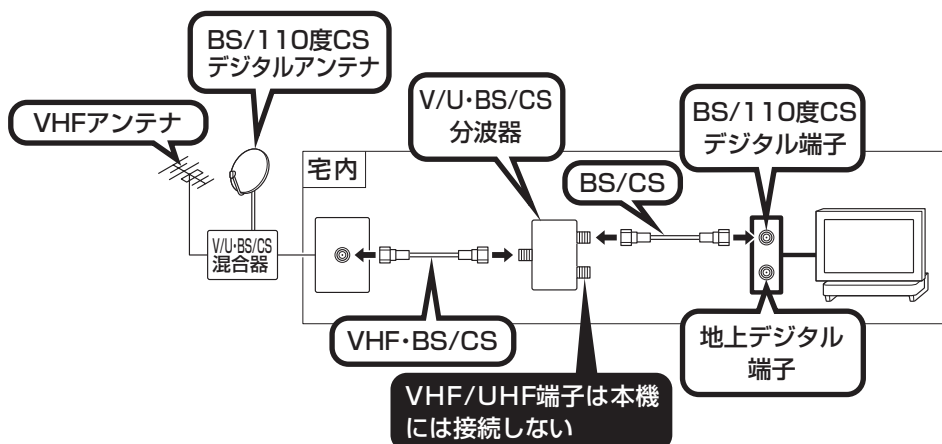
VHF・UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(1)

- 地上デジタル放送:受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。
- 衛星デジタル放送:受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。

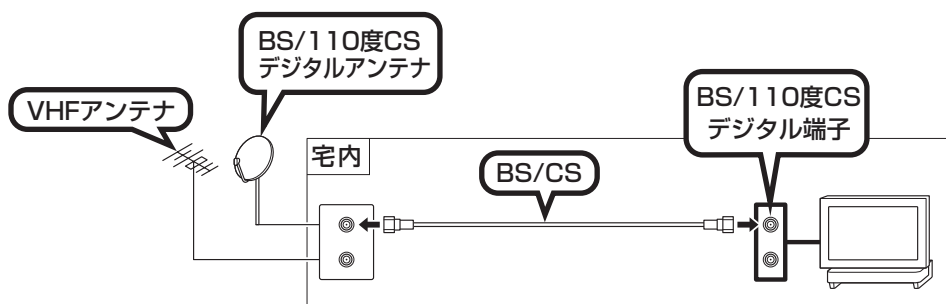
VHF･UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(2)（VHF/UHFアンテナ端子が別々に用意されている場合）

・ 地上デジタル放送：受信できます（「アンテナに関する注意」（18ページ）をご覧ください）。
・ 衛星デジタル放送：受信できます（「アンテナに関する注意」（18ページ）をご覧ください）。

VHF･UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(3)（VHF/UHFアンテナとBS/CSアンテナの端子が分かれていない場合）

市販のVHF/UHFとBS/CSの分波器が必要になります。
・ 地上デジタル放送：受信できます（「アンテナに関する注意」（18ページ）をご覧ください）。
・ 衛星デジタル放送：受信できます（「アンテナに関する注意」（18ページ）をご覧ください）。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(1)
(UHFアンテナとBS/CSアンテナの端子が分かれていない場合)

市販のUHFとBS/CSの分波器が必要になります。
・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。
・ 衛星デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(2)

・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。
・ 衛星デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(1)
(VHFアンテナとBS/CSアンテナの端子が分かれていない場合)

・地上デジタル放送：受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・衛星デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタル放送を受信している場合(2)

・地上デジタル放送：受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・衛星デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(18ページ)をご覧ください)。

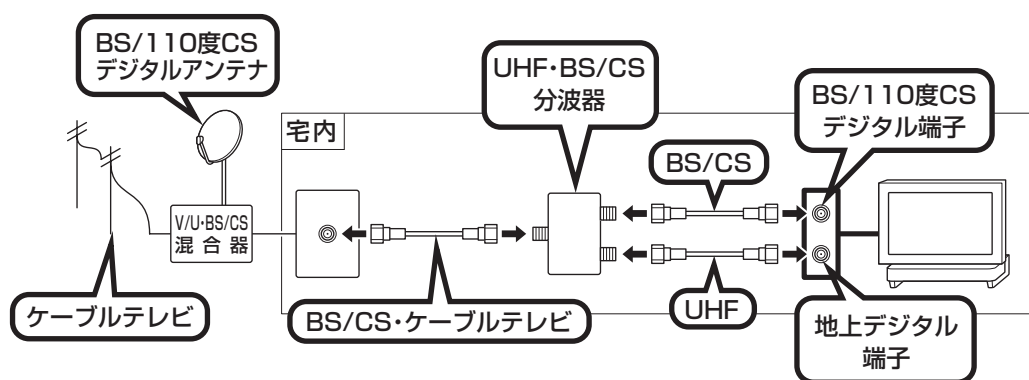
ケーブルテレビに関する注意

・ケーブルテレビ事業者により、視聴制限(スクランブル)を設定されたチャンネルは受信できません。

・ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

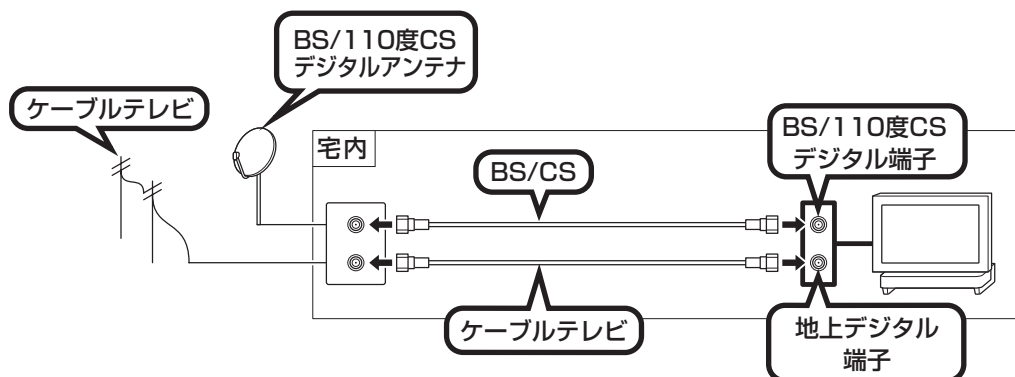
・アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、またはお近くの電器店にご相談ください。

戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合の接続例を確認する

ケーブルテレビで地上アナログ、地上デジタル、BS/110度CSデジタルアンテナで衛星デジタルを受信している場合

市販のUHFとBS/CSの分波器が必要になります。

・ 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。

・ 衛星デジタル放送：受信できます(上記の「ケーブルテレビに関する注意」をご覧ください)。

ケーブルテレビで地上デジタル放送を受信し、衛星デジタル放送はアンテナで受信している場合

・ 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
・ 衛星デジタル放送：受信できます（「ケーブルテレビに関する注意」（23ページ）をご覧ください）。

集合住宅で、共聴受信の場合

「戸建てで、個別受信の場合」(19ページ)と同様になります。ただし、お住まいの集合住宅の受信形態によって受信できない場合があります。詳しくは、集合住宅の管理者かお近くの電器店にご相談ください。

ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様宅内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

- **ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。**
- **アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、集合住宅の管理者、またはお近くの電器店にご相談ください。**

集合住宅で、ケーブルテレビ受信の場合の接続例を確認する

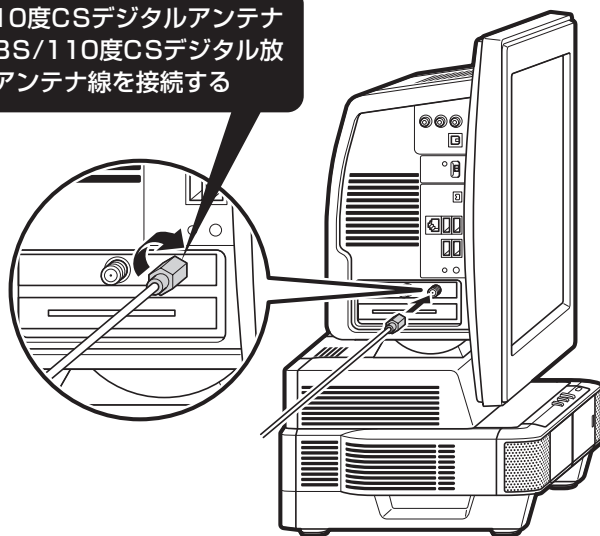
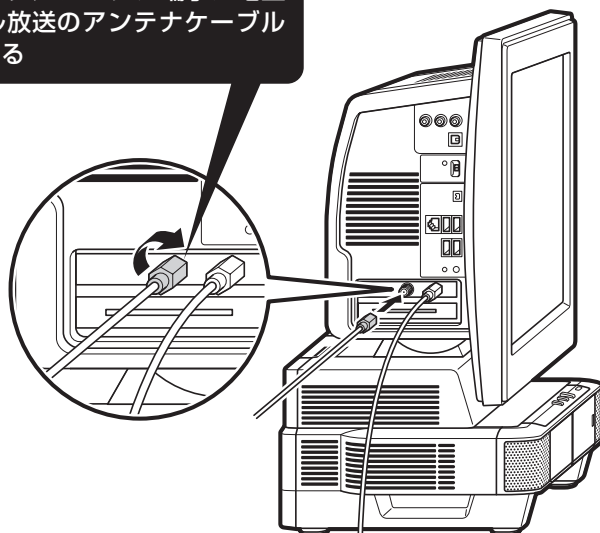
「戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合」(23ページ)と同様になります。ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。アンテナケーブルや受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、集合住宅の管理者、またはお近くの電器店にご相談ください。

アンテナケーブルを接続する

ポイント

- デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ
- F型コネクタプラグのネジはしっかりしめる

アンテナケーブルの接続方法

あらかじめ「テレビの受信環境について」(17ページ)をご覧になり、お住まいの受信環境に合わせて、壁側のアンテナコネクタにアンテナケーブルと必要機器を接続しておいてください。
本機左側面にある地上デジタルアンテナ端子、およびBS/110度CSアンテナ端子にアンテナケーブルを接続します。
F型コネクタプラグのネジは、まわらなくなるまでしっかりしめてください。

「B-CASカードをセットする」(次ページ)に進む

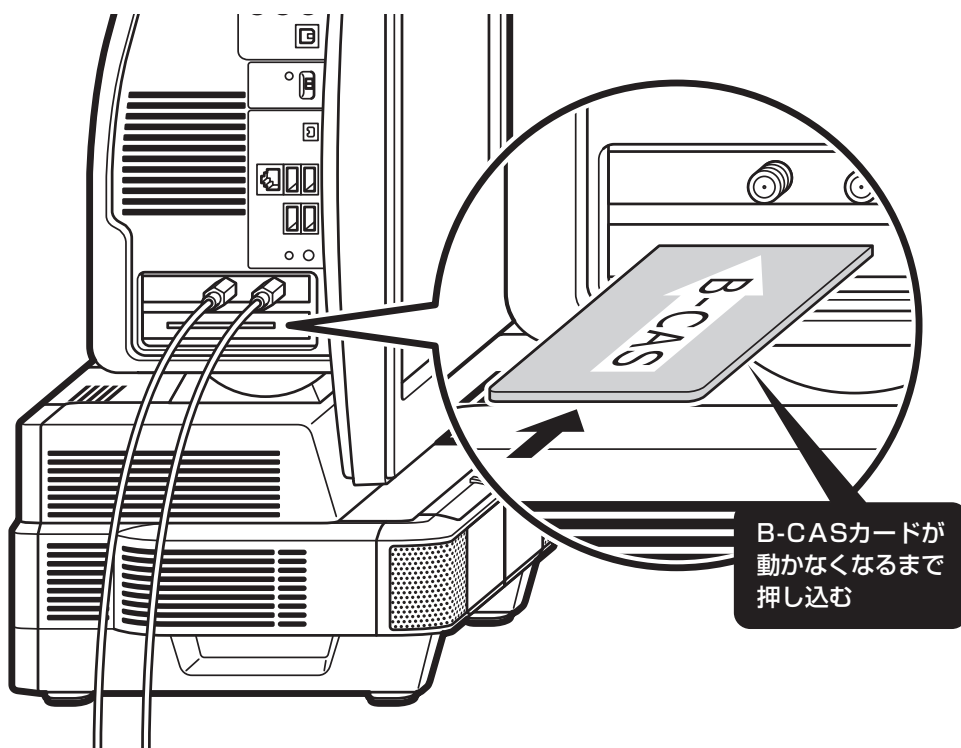
B-CASカードをセットする

デジタル放送を受信するためには、本機に添付されている「B-CASカード(ビーキャスカード)」をセットする必要があります。B-CASカードをセットしないと、デジタル放送を受信できません。
B-CASカードについて詳しくは『テレビを楽しむ本』付録の「B-CASカードについて」をご覧ください。

ポイント

- デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ
- B-CASカードは必ずセットする

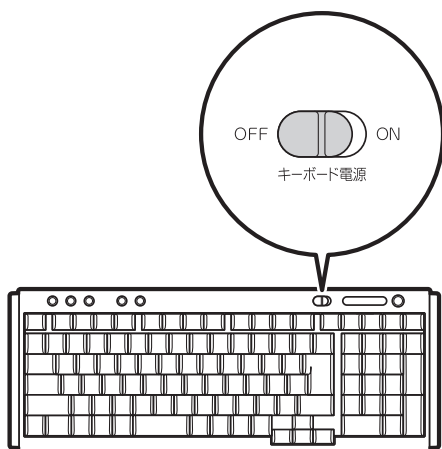
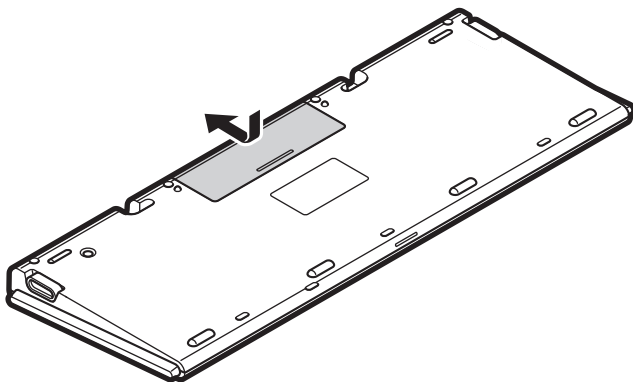
B-CASカードのセット方法

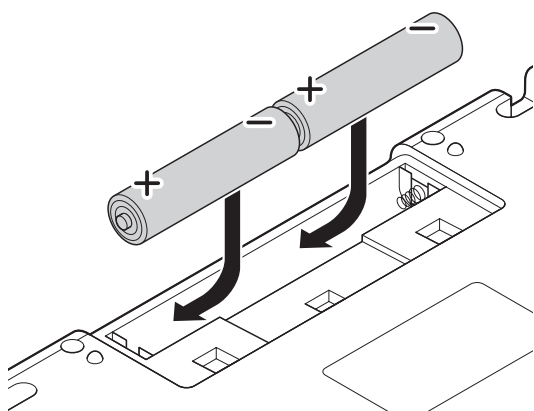
下の図のように、B-CASカードをセットします。「B-CAS」の印刷面を上に向けて、矢印の方向にしたがいB-CASカードをセットしてください。

B-CASカードの向きに注意してセットしてください。

キーボードを使う準備をする

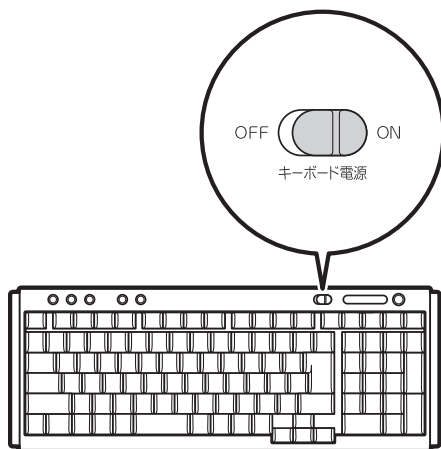
ポイント
- 乾電池を入れる
- ＋(プラス)と－(マイナス)の向きを間違えないように

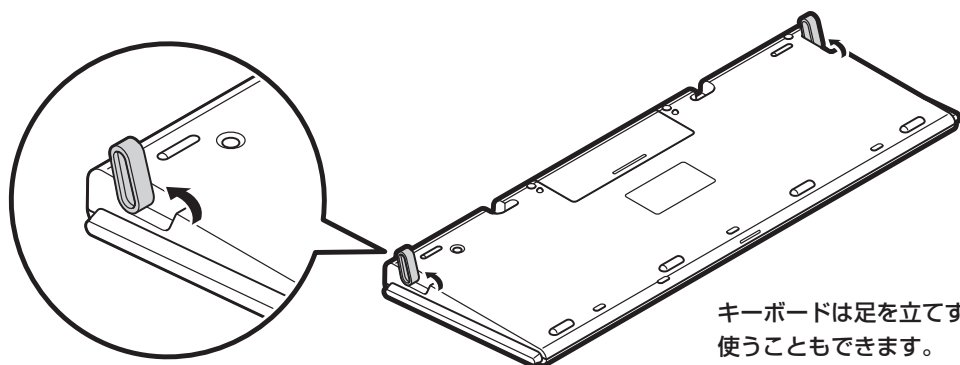
1 キーボード右上のキーボード電源スイッチを「OFF」にする

キーボード電源スイッチを左にスライドし、「OFF」になっているか確認してください。

2 キーボード裏面のカバーを外す

3 乾電池を入れる

単3形アルカリ乾電池、またはニッケル水素充電池2本を入れます。入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご使用の環境や方法にもよりますが、キーボードの使用時間は連続使用で約1000時間です。
- マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

4 キーボード右上のキーボード電源スイッチを「ON」にする

キーボード電源スイッチを右にスライドし、「ON」にしてください。

キーボードを長時間使わないときは、キーボード右上のキーボード電源スイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

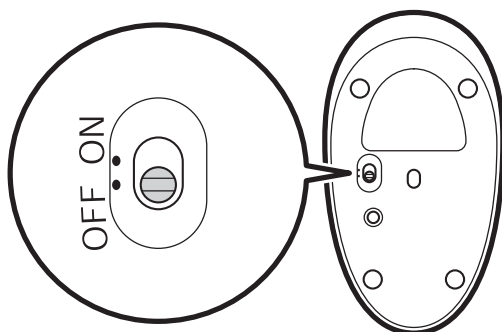
5 キーボードの足を立てる

キーボードがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」(192ページ)をご覧ください。

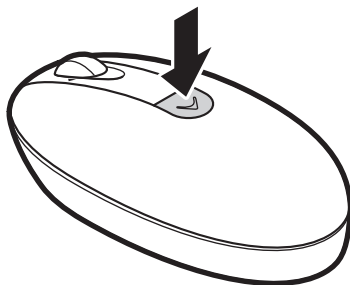
マウスを使う準備をする

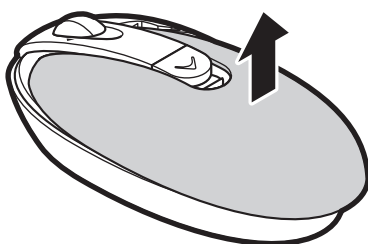
ポイント

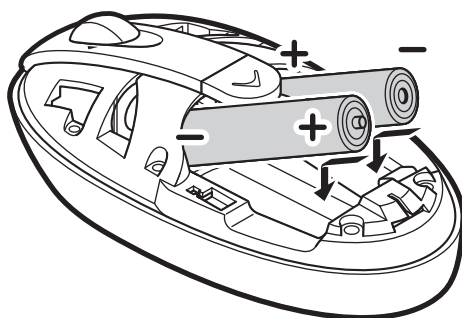
- カバーを外して乾電池を入れる
- +(プラス)と−(マイナス)の向きを間違えないように

1 マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にする

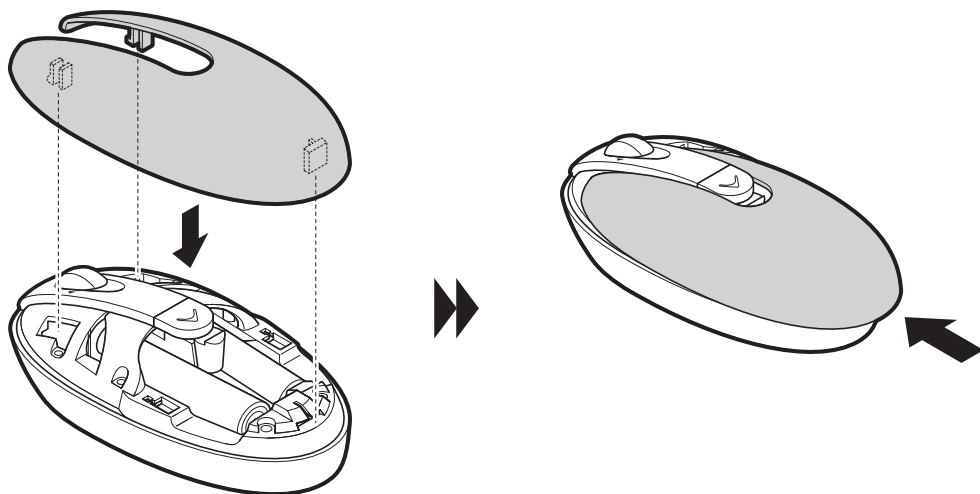
マウス底面のON/OFFスイッチを下にスライドし、「OFF」になっているか確認してください。

2 マウス上面のボタンを押す

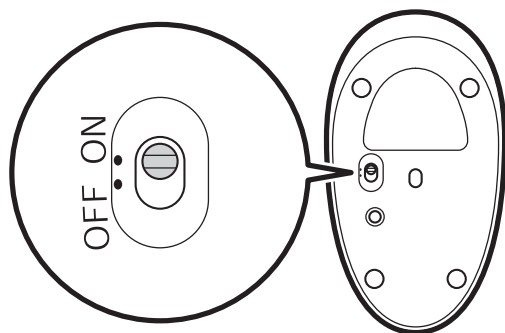
カバーのロックが外れます。

3 カバーを外す

カバーを上に持ち上げて外します。

4 乾電池を入れる

図のように、単3形アルカリ乾電池、またはニッケル水素充電池をマウスの前方に向けて押し込んでから、後方を端子に合わせて入れてください。

- 乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- マウスの後方の端子が変形しないように乾電池を入れてください。
- マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

5 カバーをもとどおりはめる

カバーのツメが穴に入るようにはめこみ、マウスの前方に向かってカチッと音がするまでスライドさせてください。

6 マウス底面のON/OFFスイッチを「ON」にする

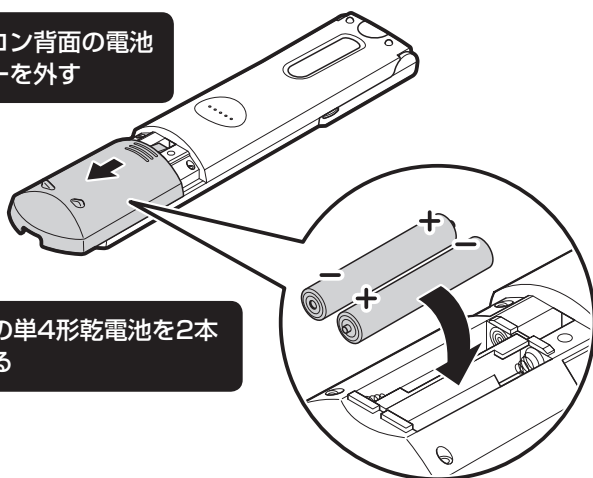
マウス底面のON/OFFスイッチを上にスライドし、「ON」にしてください。

- レーザーが出ている穴の部分を見つめると、視力に障害が起こる可能性があるので見つめないように注意してください。
- マウスの電池寿命は、ご使用の環境や方法にもよりますが、連続して操作した場合最大約150時間です。
- マウスを長時間使わないときは、マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

マウスがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」(192ページ)をご覧ください。

リモコンを使う準備をする

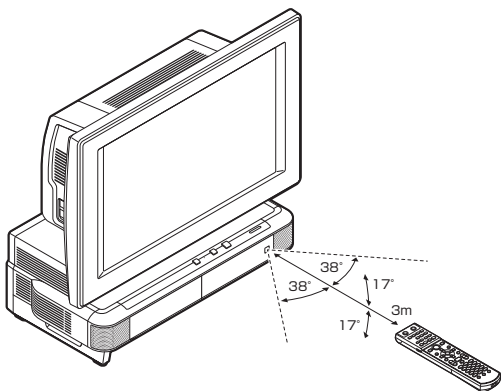
ポイント

- デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ
- 乾電池を入れる
- +(プラス)と−(マイナス)の向きを間違えないように

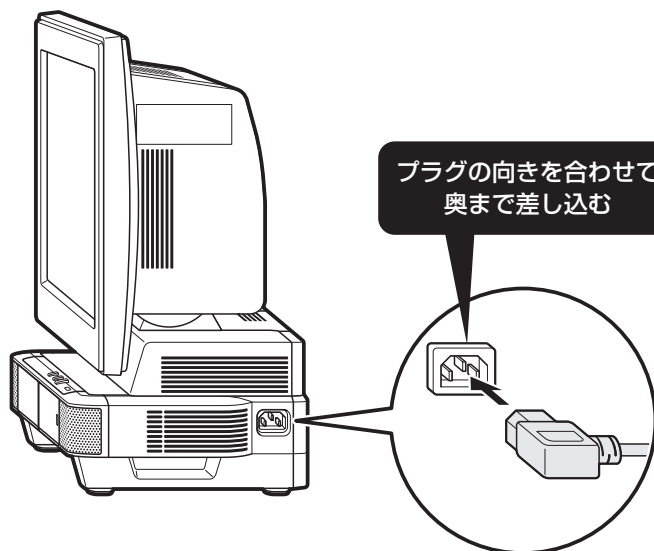
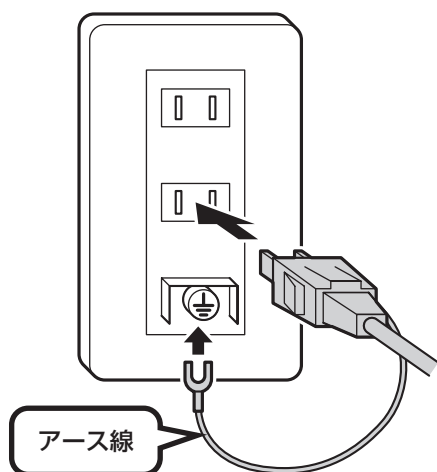
1 リモコンに乾電池を入れる

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の+(プラス)と−(マイナス)の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。お早めに新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 乾電池を交換する際は、単4形のマンガン乾電池またはアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、オキシライド乾電池は使用できません。

リモコンの使用範囲について

リモコンを使うときは、パソコンから約3mの範囲で操作してください。また、受光部に対して左右約38度、上下約17度以内の角度で操作してください。

電源コードを接続する

ポイント
● 接続する順番を守る

1 パソコン本体右側面に電源コードを接続する

2 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

先にアース線を接続してから、プラグを差し込んでください。

・アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。

・電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。

・アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源コードを取り外すときは、先にプラグを抜いてから、アース線を取り外してください。

これで接続は完了です。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第3章　セットアップを始める」に進んでください。第3章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源コードなどが人の通る場所にないことを確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

続けてセットアップ作業に進んでください。

第3章

セットアップを始める

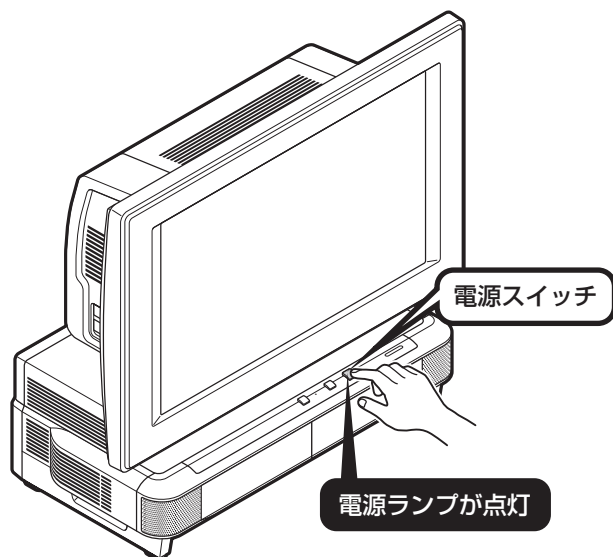
今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：30〜60分程度

電源を入れる

ポイント

● 電源スイッチの場所を確認しておく

1 電源を入れる

電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源コードが正しく接続されていないことが考えられます。「電源コードを接続する」(36ページ)をご覧ください。

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※(ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点)が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインにしたがい、ドット抜けの割合を付録の「仕様一覧」(200ページ)、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

パソコンから出る音について

電源を入れたときに音(起動音)がします。音量を調節したい場合は第4章の「音量を調節する」(79ページ)をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ(社名のマーク)などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない！

セットアップ作業がすべて終わるまでに、30～60分程度かかります。「ここで一段落」(56ページ)までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源コードをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源コードをコンセントから抜いて90秒ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの設定を始める

ポイント

- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確認する

「Windowsのセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

は、「何もしないで待ってて」の合図

パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面にのマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 マウスを動かす

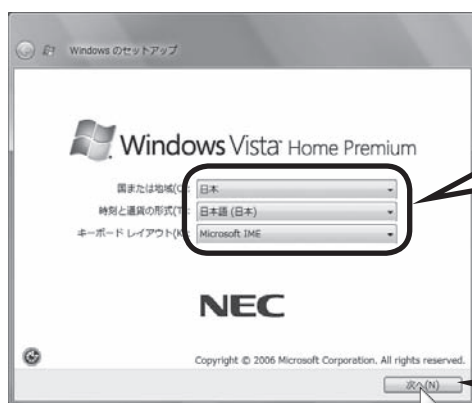
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に10cm程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

このマウスは、底面中央の穴からレーザーが出ていますがレーザーを目で見て確認することはできません。マウスが正しく動作しているかどうかはマウスを動かして確認してください。

・レーザーが出ている穴の部分を見つめると、視力に障害が起こる可能性があるので見つめないように注意してください。

・マウスがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。

・まだ、マウスのボタンを押さないでください。

3 画面内の右下に矢印を動かす

次の内容になっていることを確認する

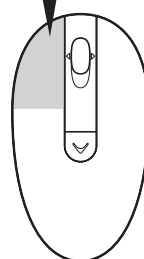
国または地域：日本
時刻と通貨の形式：日本語（日本）
キーボードレイアウト：Microsoft IME

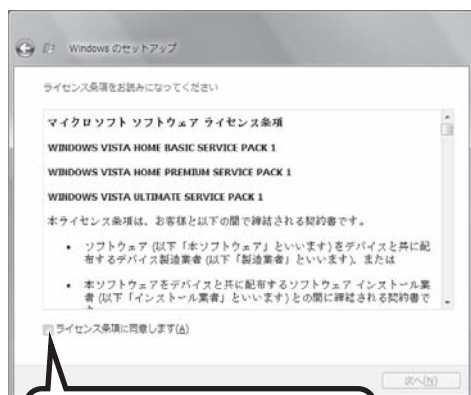
マウスを動かして、
矢印を「次へ」に合わせてから

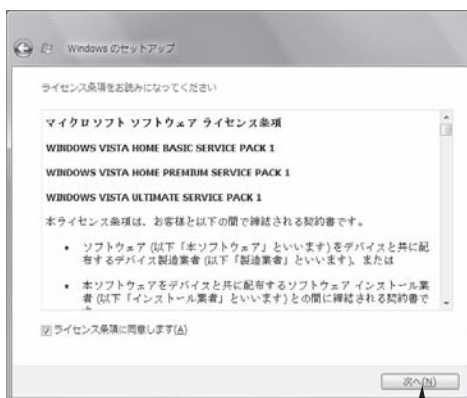
何も設定を変えず、「次へ」に画面の矢印（マウスポインタ）を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

この画面では、設定を変えないでください。設定を変えると、画面表示が日本語にならないなどの問題が起こる場合があります。

クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

4 ライセンス条項に同意する

ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左が□から☑に変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

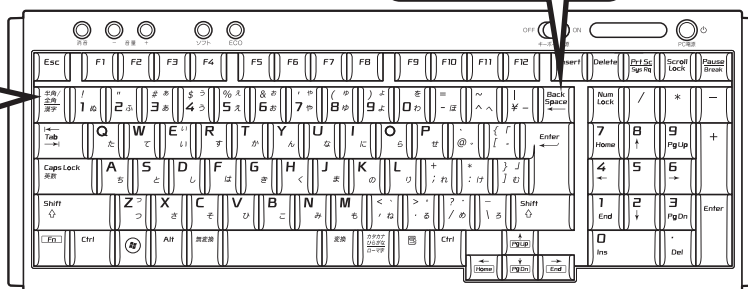
ポイント

- ユーザー名とユーザーアイコンを選ぶ

1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(|)が点滅しているのを見てから、キーボードで自分の名前を入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」の下の欄をクリックしてください。

- キーボードでの入力に慣れていないかたはアルファベットでの入力をおすすめします。
- 日本語で名前を入れることもできますが、環境依存文字(日本語変換で一覧に「環境依存文字」と表示される文字)は利用できません。ソフトによっては、正しく動作しなくなります。
- 日本語で名前を入れると、コンピュータ名が「ユーザー名-PC」となり、日本語がまざります。利用するネットワークによっては不具合の原因になりますので、ネットワークの設定をする前にコントロールパネルを利用してコンピュータ名を入れなおしてください。
- ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。
- 次の文字列は、パソコンのシステムで使われているため、入力しないでください。
  CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

入力を間違えたら

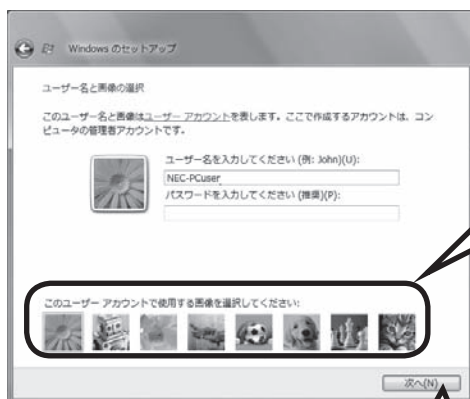
キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ローマ字で入力したいのにひらがなが表示されるときは

キーボードの【半角/全角】を押すと、日本語とアルファベットが切り換わります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名:

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす(再セットアップする)とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

この中から、ユーザーアイコン(スタートメニューなどで表示される画像)を選んでクリックする

※どの画像を選んでもかまいません。このマニュアルでは、一番左の画像を選んだ場合を例に説明します。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に一番左の画像が選ばれます。

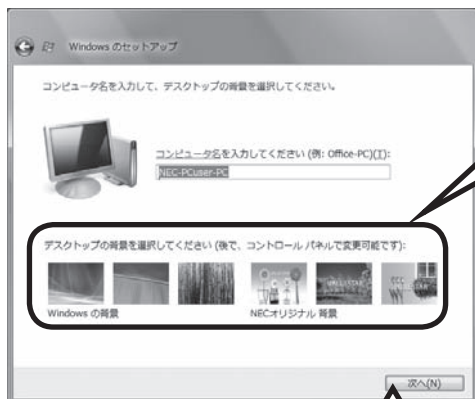
「次へ」をクリックする

- **パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。**
- **もしここでパスワードを設定する場合は、必ずパスワードのヒントも入力してください。**

画面を見ながら手順を進める

ポイント

- **画面に書かれたことを読みながら、指示にしたがってクリック**

1 次の画面に進む

この中から、デスクトップの背景(壁紙)にする画像を選べる

※画像をクリックして選びます。どの画像を選んでもかまいません。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に右から3番目の画像が選ばれます。
このマニュアルでは、何も選ばずに「次へ」をクリックした場合を例に説明します。

「次へ」をクリックする

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「VALUESTAR」(バリュースター)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・**キーボード右上のキーボード電源スイッチが「ON」になっているか確認してください。**

・**キーボードがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。**

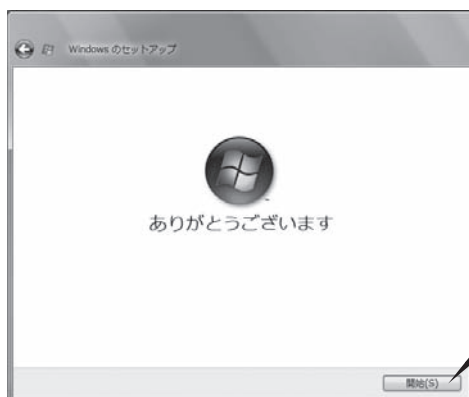
・**次の文字列は、パソコンのシステムで使われているため、入力しないでください。**
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

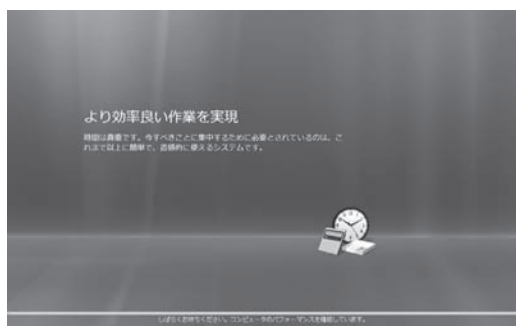
・**すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。**

・**46ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。**

2 コンピュータを保護する設定をする

「推奨設定を使用します」をクリックする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

3 さらにセットアップ作業を進める

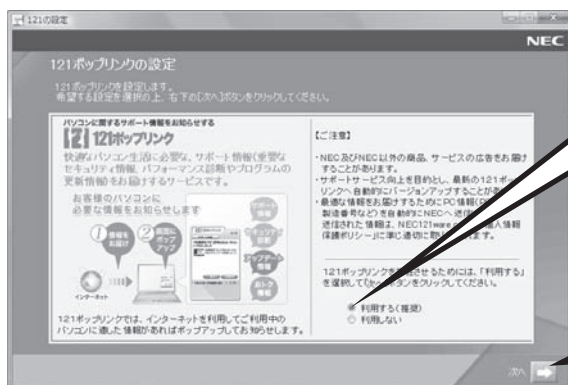
「開始」をクリックすると、次の画面が表示されます。

次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに
待っていてください。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121(ワントゥワン)ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報(危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ(修正プログラム)やアップデートプログラム)を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

コンピュータのセキュリティを確認してください
お使いのコンピュータには、セキュリティの問題がいくつかあります。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

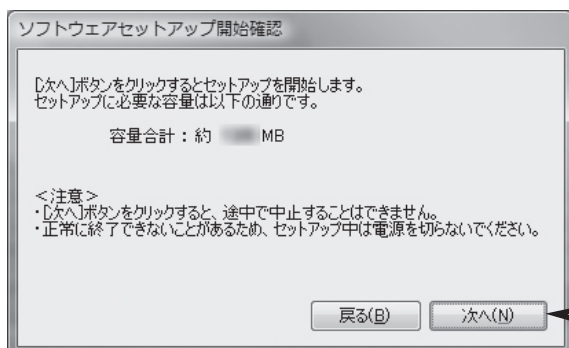
ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

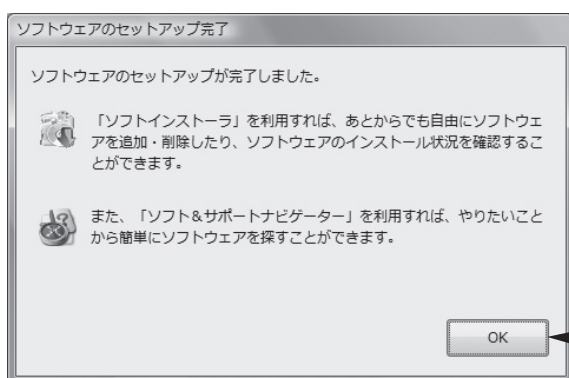
ソフトを使えるようにする

ポイント
● 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

1 次の画面に進む

- 通常は、「標準セットアップ(推奨)」を選んでください。
- 「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。
- 「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

2 ソフトを追加する

「ソフトウェアのセットアップ完了」の画面が表示されれば、ソフトが正しく追加されています。

「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります(これを「再起動」といいます)。
次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

3 文字サイズなどを設定し、ガジェットを登録する

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

Windows Vistaの初期設定のまま利用する場合は「標準サイズ」の左が◉になっていることを確認する。文字サイズなどを拡大したい場合は「拡大サイズ」左の◎をクリックして◉にする
※画面に表示される文字を大きくしたい、マウスポインタ( )の動きを遅くしたい場合は、「拡大サイズ」を選んでください。

「登録する(推奨)」の左が◉になっていることを確認する

をクリックする

・「拡大サイズ」を選択すると、「パソらく設定」で「簡単おまかせ設定」を選択して設定した場合と同じになります。「パソらく設定」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「デスクトップの風景をながめてみよう」をご覧ください。

画面右側に、おすすめメニューガジェットが表示されます。また、「拡大サイズ」を選んだ場合は、画面の文字とマウスポインタが大きく表示され、マウスポインタがゆっくり動くようになります。

・左の画面は「標準サイズ」、「登録する(推奨)」を選んだ場合のサイズです。

・文字とマウスポインタのサイズやマウスポインタの動作速度は、初回セットアップの終了後に「パソらく設定」で変更できます。この後の「ここで一段落」の「文字サイズやマウスの設定について」をご覧ください。

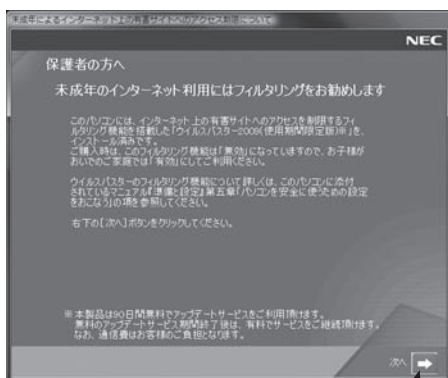
4 インターネットで最初に表示するホームページを選ぶ

インターネットを見るときに最初に表示されるホームページを選びます。BIGLOBEホームページとYahoo!JAPANホームページのいずれかを選びます。

・ホームページの設定は、セットアップ完了後に変更できます。変更方法について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「使いやすい設定に変更」-「Internet Explorerを使いやすくする」をご覧ください。

・「ソフト&サポートナビゲーター」は、初回セットアップが終了してからご覧ください。使い方について詳しくは、第4章の「パソコンの画面で解説、検索「ソフト&サポートナビゲーター」」(98ページ)をご覧ください。

5 注意文を読む

その後、「未成年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス制限について」画面が表示されます。

フィルタリングについて詳しくは、第5章の「お子様を有害ホームページから守るために」(136ページ)および「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、[x]をクリックして画面を閉じてください。次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。

ウェルカムセンター

ウェルカムセンターの画面からは、簡単にソフトをインストールすることができたり、ガジェットの登録をすることができます。パソコンを起動するたびに表示する必要がないかたは、「起動時に実行します」の左の☑をクリックして☐にすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

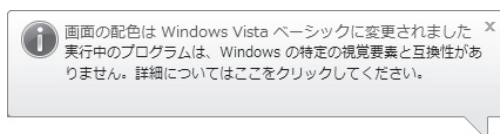
最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源スイッチを押すと、いつもこの画面(デスクトップ画面と呼びます)が表示されるようになります。

デスクトップ画面

サイドバー

- 複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- サイドバーに表示されているガジェットは、左の画面と順序が異なる場合があります。解像度によってはガジェットが隠れていることがありますが、画面右上の▶をクリックすると表示できます。

画面の表示について

ソフトを使っているときに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

これは、ソフトを利用するために、Windows Vistaの画面表示が変わることをお知らせするものです。このメッセージが表示されたときは、ウィンドウの透明部分など一部の表示が変更されます。

変更された画面表示は、ソフトを終了するともとに戻ります。

文字サイズやマウスの設定について

セットアップの文字サイズを設定する画面(54ページ)で、「拡大サイズ」を選択した場合、Windows Vistaの初期設定に比べ、画面上の文字は大きく表示されます。また、マウスポインタ はゆっくりと動き、ダブルクリックの間隔が遅くなります。

Windows Vistaの初期設定に変更したい場合は、次の手順で設定してください。

1.「スタート」-「すべてのプログラム」-「パソらく設定」-「パソらく設定」をクリックする
2. 説明画面が表示された場合は、「パソらく設定を始める」をクリックする
3.「自分で設定」をクリックする
4.「次の画面へ」をクリックする
5.「次の画面へ」をクリックする
6.「すべての設定を元に戻す」をクリックする

以降の作業は、画面に表示される内容にしたがって、操作してください。

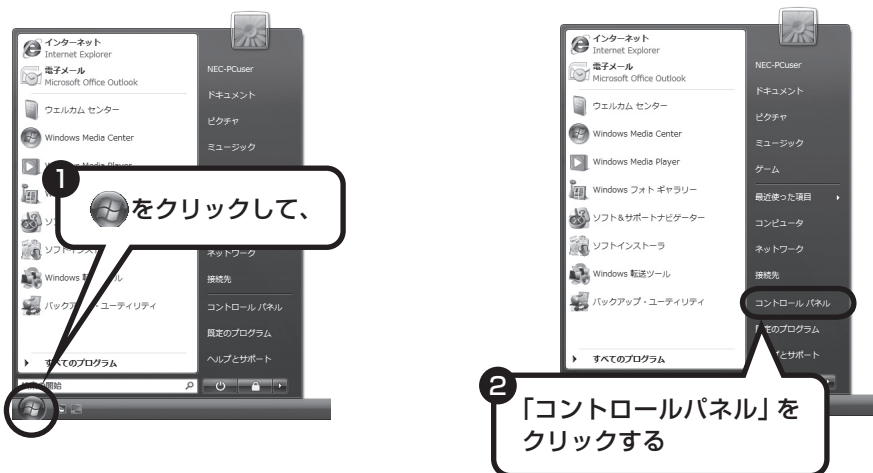
「パソらく設定」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「デスクトップの風景をながめてみよう」をご覧ください。

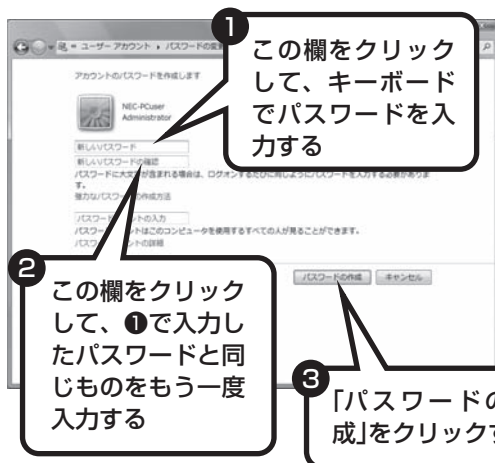
Windowsのパスワードを設定する

ポイント
- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

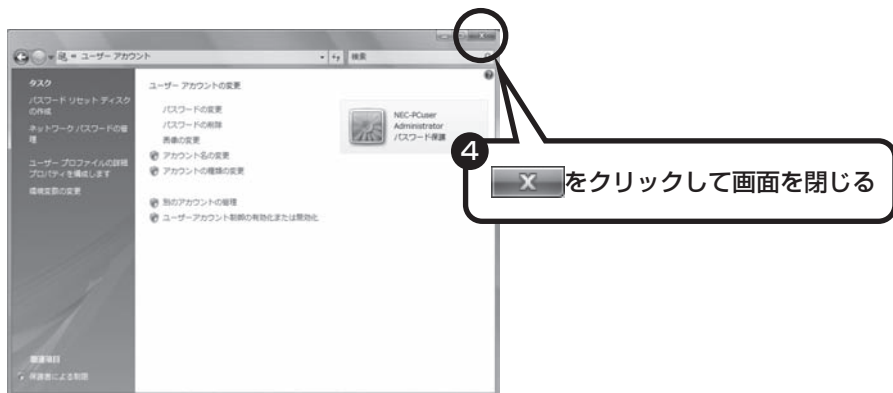
パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

・入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。

・覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。

・「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、パソコンの電源を入れたり、スリープ状態、休止状態から復帰したりするときには、パスワードの入力が必要になります。デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルでテレビ初期設定をおこなった場合は、パソコンの電源を入れるときのみパスワードの入力が必要になります。

テレビをご覧になりたいかたへ

ポイント

● デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ

お疲れ様でした。
これで、本機を使うための準備は終了です。

準備は終了しましたが、本機を使いこなすためには、もう少し設定を進めてください。これからの設定は、大きく2つの方向に分かれます。

すぐにテレビの設定をしたい (デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ)

テレビを見るためのチャンネル設定をするなど、これからすぐにテレビをご覧になりたいかたは、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。
テレビの設定をするには、アンテナケーブルの接続が必要です。まだ接続が終わっていない場合は、『準備と設定』(このマニュアル)の「アンテナケーブルを接続する」(26ページ)をご覧ください。アンテナケーブルの接続は、電源を切ってからおこなうことをおすすめします。電源の切り方については、『準備と設定』(このマニュアル)の「電源を切る(シャットダウンする)」(68ページ)をご覧ください。

インターネットなどの設定をしたい

インターネットの設定など、本機をパソコンとして楽しむための情報を知りたいかたは、『準備と設定』(このマニュアル)の第4章以降をご覧ください。

テレビの初期設定、またはインターネットの設定が終了した後は、是非「お客様登録」をしてください。詳しくは『準備と設定』(このマニュアル)の次ページをご覧ください。

お客様登録のお願い

121wareでは「お客様登録」することで、さまざまなメリットを提供しています。あなたのデジタルライフをグッとオトクに、そしてさらに便利でもっと身近に感じる121wareのサービスを是非ご利用ください。

登録するとメリットがたくさん

登録料・会費無料

※法人のお客様としてご使用の場合も、登録をおすすめします。

1　電話での「使い方相談」

無料で1年間、使い方の相談ができる※

121コンタクトセンターからお電話をさしあげる「電話サポート予約サービス」も利用可能になります。インターネットでご予約ください。

保有商品の登録が必要です。

2　あなただけのマイページ

マイページは、あなた専用のページです

登録した商品を元に、あなたのパソコンに合ったサポートやサービスに関する情報が表示されます。

3　NEC Directの優待サービス＆ポイントもGet

NEC Directの優待サービスでお買い物。ポイントももらえる

保有商品を登録されているお客様は、NEC Directの優待サービスが受けられます。

その他の特典

買い取り

不要になったパソコンの買い取りサービスがインターネットからできます。

修理

インターネットで修理を申し込むと、修理料金が割引されます。

メールニュース

商品広告・活用提案・サポート・キャンペーンなどの情報をお届けします。

※ パソコン本体以外の商品／ NEC Refreshed PC（再生パソコン）の「使い方相談」の無料期間は、各商品の保証書に記載の保証期間となります。

マイページがあなたをサポート

マイページは、あなた専用のページです。
登録した商品に合わせて、あなたに合ったサポートやサービス（優待販売）に関する情報が表示されます。

「マイページ」はお客様登録をすると使えるようになるページです。

あなたのパソコンに合わせたサポート情報が表示されます。

インターネットから登録情報の変更や保有商品情報の登録もできます。保有商品登録は「保有商品情報」をクリックして登録してください。

NEC PCプレミアムのご契約サービスをご確認いただけます。

あなたの保有商品に合わせたNEC Directからのおすすめ商品が表示されます。

お得なキャンペーン情報（優待販売）もあります。

お客様登録の方法

電話サポートや優待サービスなど、各種特典のご利用にはお客様登録が必要です。登録には、インターネットを使ったサービスが便利です。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録(推奨)

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」(フリーコール)に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である「9」を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

※すでにお客様登録がお済みのお客様は、保有商品の追加登録をお願いいたします。「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)内の「保有商品情報」で、ご購入いただいた商品を追加することができます。

第4章

基本中の基本の操作

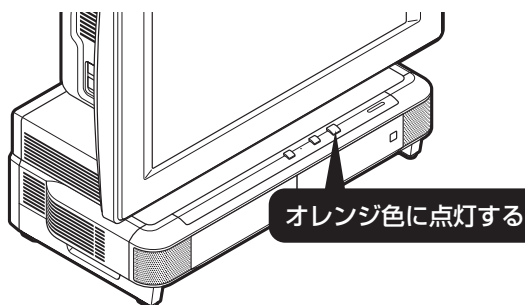
電源の入れ方／切り方、メモリーカードやCD-ROM、DVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

パソコンを終了する

パソコンを終了するときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源コードを抜いたりするのは、絶対ダメです。

1 画面を見ながら、マウスを操作してパソコンを終了する

Windows Updateなどが自動的におこなわれ、パソコンをいったん終了する必要があるときに、 が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。この場合は、次回パソコンを使うときに、通常よりも時間がかかります。

2 電源ランプを確認する

画面が暗くなり、スリープ状態になります。

リモコンの【電源】からパソコンを終了することもできる（デジタルハイビジョンTV（地デジ/BS/110度CS）モデルのみ）

リモコンの【電源】を押してもパソコンを終了することができます。
テレビの視聴中など、パソコンの画面から離れているときにリモコンで操作してください。

テレビの視聴中やほかのソフトを起動しているときは、電源を切る前に【アプリ終了】を押して、終了させてください。

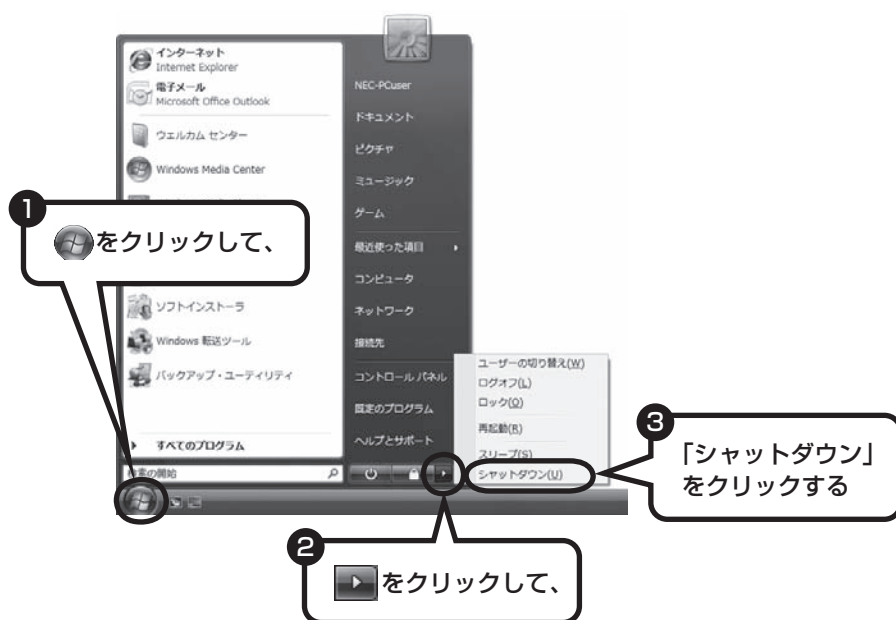
スリープ状態について

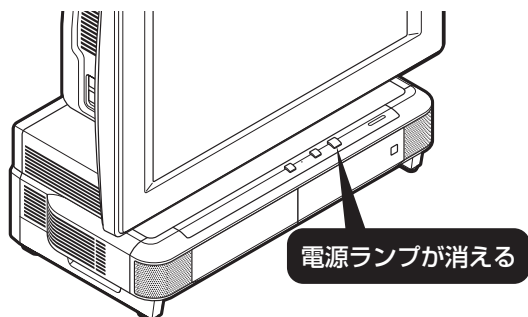
スリープ状態では、わずかに電力を消費しながら、それまでの作業をメモリなどに保持します。電源を完全に切ってしまう場合に比べ、次回パソコンを使い始めるときに速く再開できます。通常、パソコンを終了するときは、電源を完全に切らずにスリープ状態にしておくことをおすすめします。

スリープ状態について詳しくは、この後の「省電力機能について」（72ページ）をご覧ください。

電源を切る(シャットダウンする)

長期間パソコンを使わないときや、パソコンの置き場所を移動するとき、パソコン内部に機器を取り付けるときは、電源を切ります。電源を切ることを、「シャットダウン」と呼びます。

1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

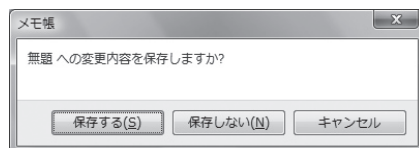
数秒後に、画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。

そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。

作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

続けて電源を入れるときは

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから5秒以上待って電源スイッチを押してください。

マウスの操作で電源が切れないとき

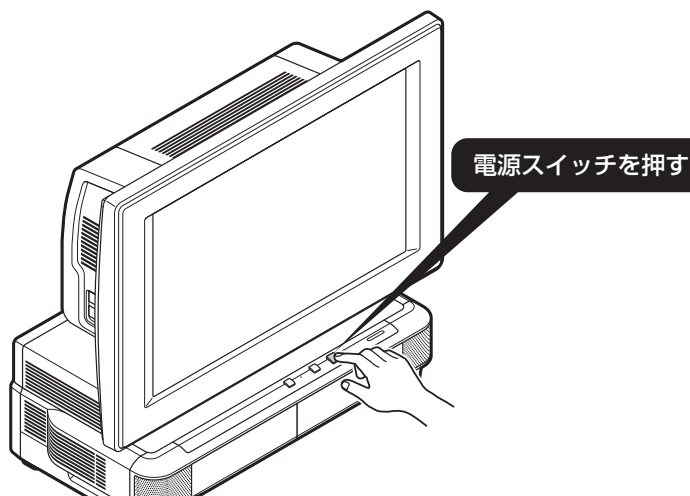
画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから5秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

- 強制的に電源を切る前に、本体の画面消灯ボタンを押して、ナイトモードになっていないかどうか確認してください。
- 強制的に電源を切る場合は、CD/ハードディスクアクセスランプやトリプルメモリースロットアクセスランプなどが点灯していないことを確認してください。また、各種メディアは取り出しておいてください。
- パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

パソコンを使い始める

電源スイッチを押して使い始めます。

電源スイッチを押す

周辺機器によっては、パソコンの電源を入れる前に電源を入れないと認識されないものもありますのでご注意ください。

キーボードの電源スイッチ(⏻)を押しても、電源を入れたり省電力状態からもとに戻すことができます。省電力状態については次ページをご覧ください。

使う人の名前が画面に表示された場合は、名前の上のアイコンをクリックしてください。Windowsのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

デスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

- 電源スイッチを押した後、デスクトップ画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、電源スイッチを押さないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。
- 電源を切った(シャットダウンした)状態で電源スイッチを押し電源を入れた場合は、使う人の名前とアイコンは画面に表示されずにデスクトップ画面が表示されます。しかし、複数のユーザーを登録している場合、デスクトップ画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- パソコンの電源を切ったときや、パソコンが休止状態になっていたときは、デスクトップ画面が出て、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまでに少し時間がかかります(長い場合5分、通常は1 ～ 2分程度)。

省電力機能について

パソコンを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。

10分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

ご購入時には、パソコンを操作していない時間が続くと、自動的にパソコンが省電力状態になるように設定されています。パソコンを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」、「休止状態」の3つの段階があります。

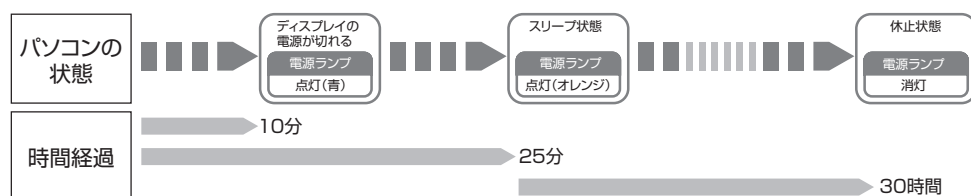
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
パソコンは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源コードが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。

ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「省電力機能」をご覧ください。

暗くなった画面をもとに戻すには

スリープ状態などで、暗くなった画面は、次の方法でもとに戻せます。

・電源ランプが点灯していて、画面が暗い場合
　ディスプレイが省電力状態になっていることが考えられます。この場合は、マウスを軽く動かしてください。
　また、画面消灯ランプが点灯しているときは、ナイトモードになっています。この場合は、画面消灯ボタンを押してください。

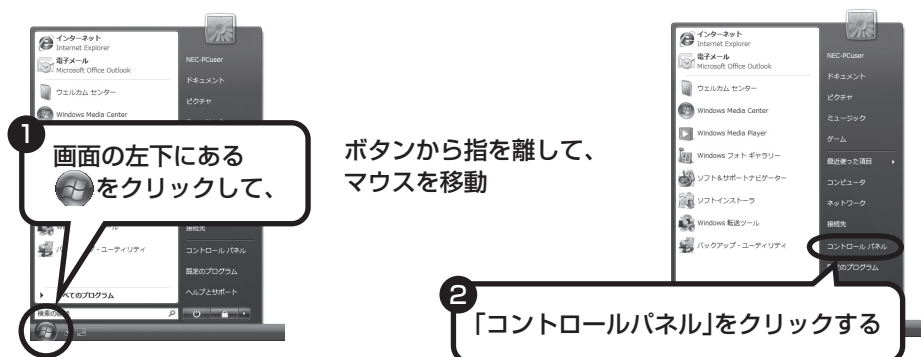
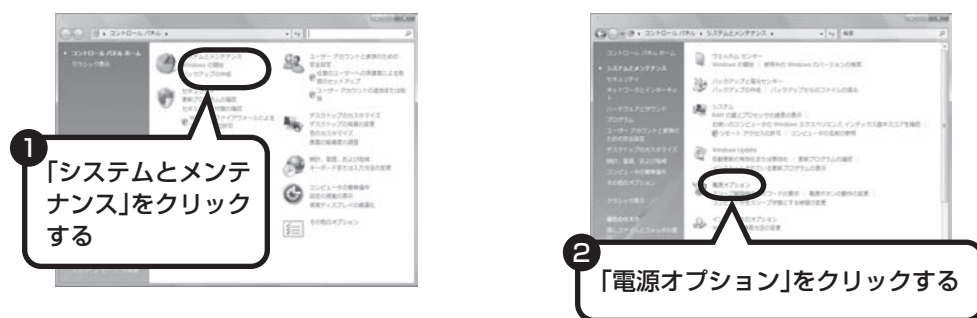
・電源ランプがオレンジ色に点灯していて、画面が暗い場合
　スリープ状態になっています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。
　また、マウスやキーボードの操作でスリープ状態から復帰できるようにすることもできます。
　設定方法については、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「省電力機能」をご覧ください。

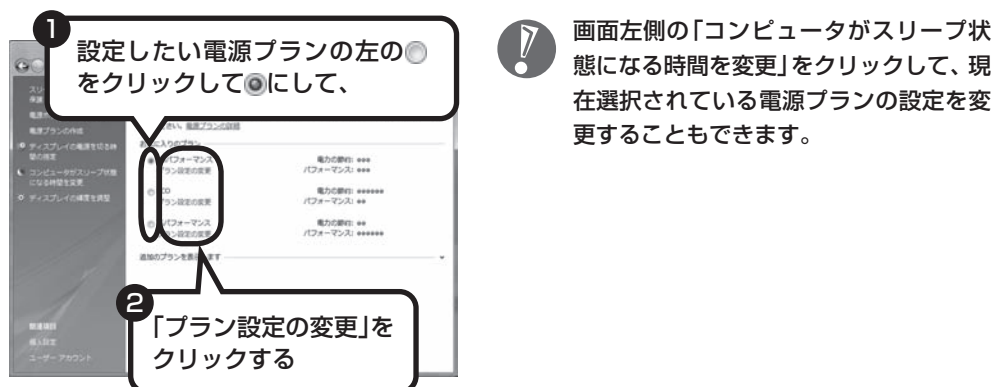
・電源ランプが消灯していて、画面が暗い場合
　休止状態、または電源が切れています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。

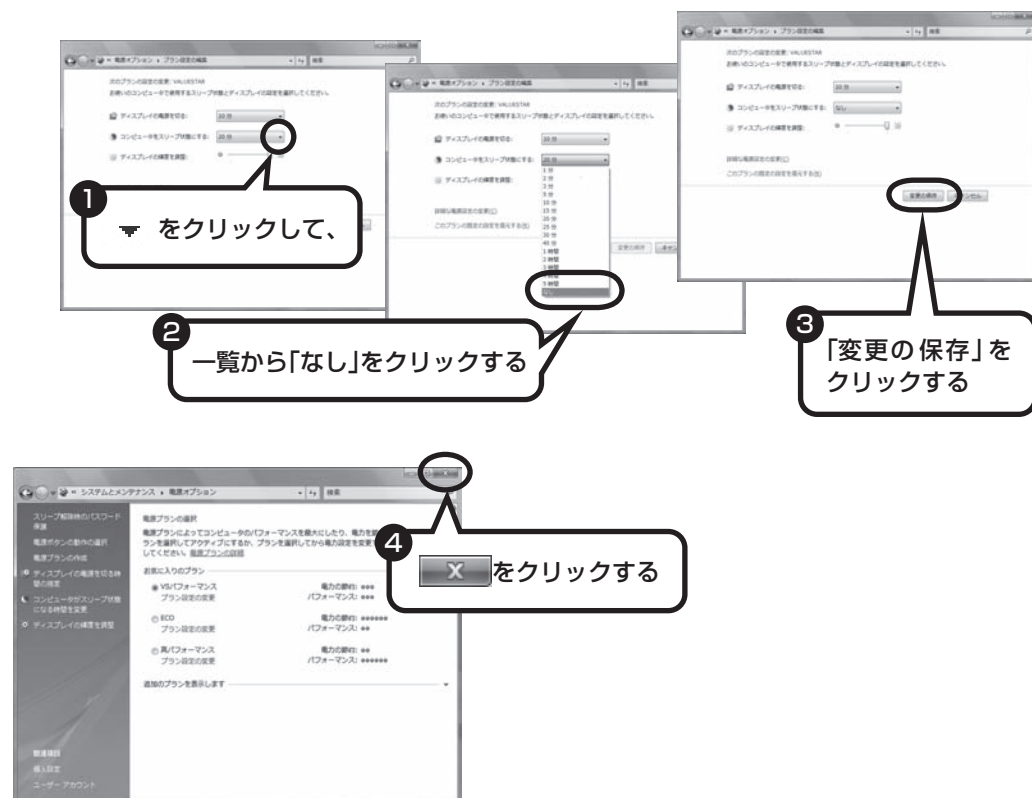
電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスリープ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「システムとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする

3 設定したい電源プランをクリックし、電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリックする

画面左側の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックして、現在選択されている電源プランの設定を変更することもできます。

4「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更する

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

これで、設定の変更は終わりです。

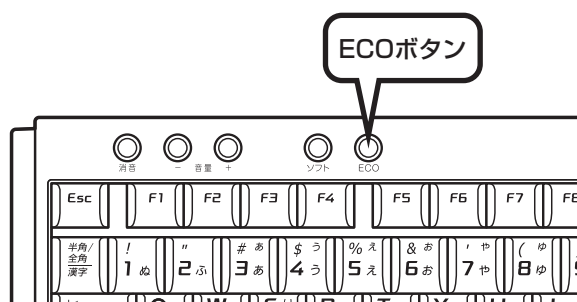
省電力機能の詳しい説明は、「ソフト&サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「省電力機能」に説明があります。

ECOボタンを使う

ECOボタンは、押すだけでパソコンの消費電力のモード(Windows Vistaでは電源プランと呼びます)を切り換えることができる機能です。ECOボタンを上手に活用することで、消費電力を抑えたり、必要なときに機能を最大限に引き出すことができるようになります。
電力の節約とパフォーマンスのバランスによって、次の3つのモードがあります。

電源モード	パソコンの状態
高パフォーマンス	電力の節約よりもパフォーマンスを優先した設定です。
VSパフォーマンス	パフォーマンスと電力の節約のバランスをとった設定です。
ECO	パフォーマンスよりも電力の節約を優先した設定です。

※ご購入時の状態では、「VSパフォーマンス」に設定されています。

たとえば、「ECO」に設定しておくと消費電力を節約できます。比較的電力を必要とする処理をするときは、「高パフォーマンス」に設定すると、処理が速くおこなわれます。

- **電源プランを「ECO」や「省電力」に設定すると、映像を扱うソフトは、正常に動作しない可能性があります。それ以外の電源プランに設定してください。**
- **ECOボタンの設定について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「キーボード/ワンタッチスタートボタン」をご覧ください。**
- **ブルーレイディスクのコンテンツを再生やテレビの視聴など、電力を必要とする処理をおこなう場合は「VSパフォーマンス」または「高パフォーマンス」に設定してください。**

よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。そのほかのボタンなどについて知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

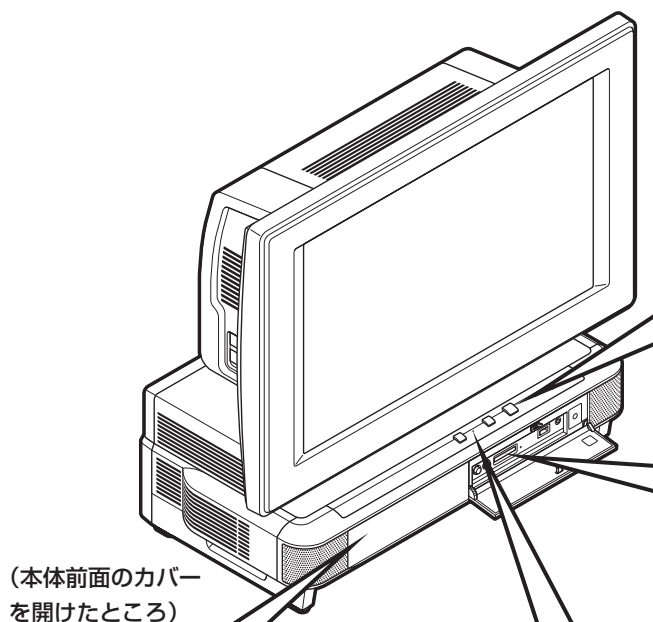
パソコン本体

（本体前面のカバーを開けたところ）

電源スイッチ/電源ランプ

パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。電源が入っているときは、電源ランプが青色に点灯します。スリープ状態のときは、オレンジ色に点灯します。電源が切れているときは、消灯します。

トリプルメモリースロット

デジタルカメラで撮影した写真などをパソコンに取り込むときは、ここにメモリーカードを差し込みます。

DVD/CDドライブ

CD-ROMやDVD-Video、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

CD/ハードディスクアクセスランプ（◎ ⌸）

CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。点滅・点灯中は、電源スイッチや、DVD/CDドライブのディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。

キーボード

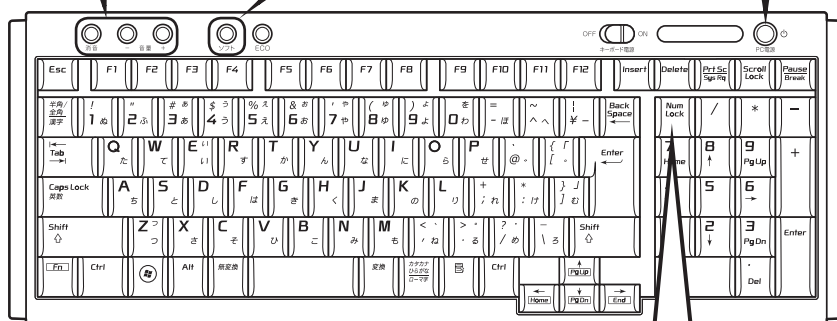
ボリュームボタン

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。消音を押すと音が消えます。

ワンタッチスタートボタン ソフト

「ソフト＆サポートナビゲーター」のソフトを起動するためのページが表示されます。

電源スイッチ(⏻)

パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。

【NumLock】

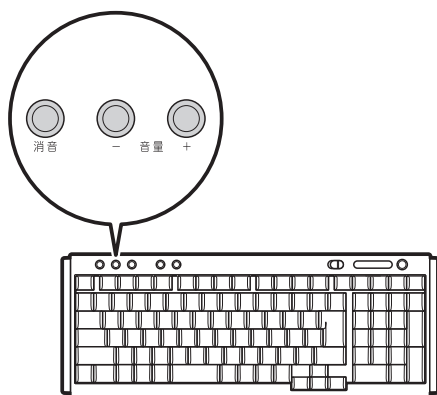
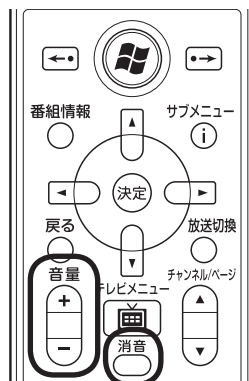
このキーを押すと、キーボード右上のマーク表示部に、ニューメリックロックのマーク(1)が表示されます。

ニューメリックロックのマークが表示されているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー（テンキー）で数字を入力できます。

音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

キーボード、リモコン(デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ)から調節する

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。
消音を押すと、音声のオン/オフが切り換えられます。画面右下の通知領域にが表示されているときは音声が消え、が表示されているときは音声が聞こえます。

キーボード

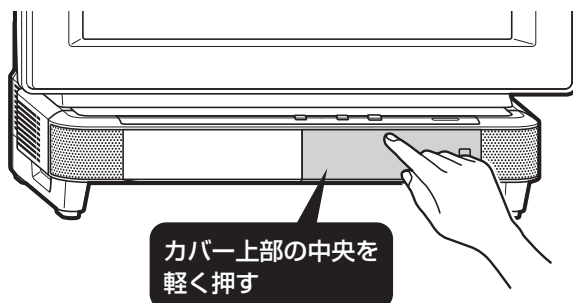
リモコン

キーボード、リモコンから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

画面の輝度を調節する

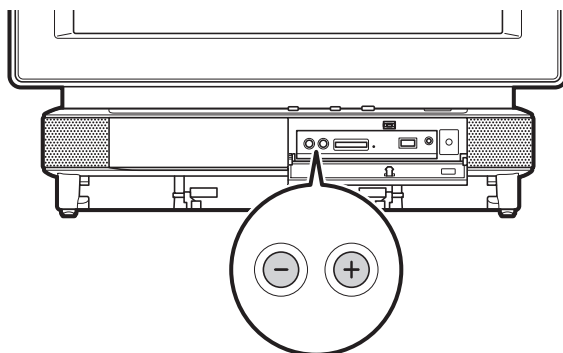
画面が明るすぎる、暗すぎると感じたときは、ディスプレイの輝度を調節できます。

輝度を調節する方法

1 本体前面のカバーを開ける

本体前面のカバーが開きます。

2 明るさ調節ボタンで調節する

・＋を押す：輝度が上がります。

・－を押す：輝度が下がります。

これで、輝度が設定されました。

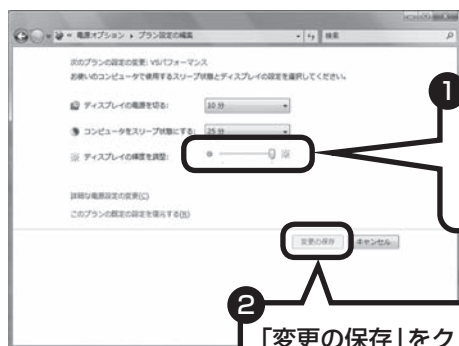
本体前面のカバーを閉じる場合は、カバーをもとの位置に戻してカバー中央部を軽く押して閉じます。

起動時の輝度を設定するときは

いつも同じ輝度で使用する場合は、次の手順で起動時の輝度を設定してください。

1 「スタート」-「コントロールパネル」-「システムとメンテナンス」-「電源オプション」をクリックする

2 画面左の「ディスプレイの輝度を調整」をクリックする

3 ディスプレイの輝度を設定する

輝度が変更され、「電源オプション」画面に戻ります。

をドラッグしただけでは輝度は変更されません。「変更の保存」をクリックすると、輝度が変更されます。

4 をクリックする

これで、起動時の輝度が設定されました。次回から、設定した輝度でパソコンが起動します。

メモリーカードの扱い方

ここでは、メモリーカードを使うときの注意事項や、使用方法について説明します。

使用できるメモリーカードについて

このパソコンでは「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、および「xD-ピクチャーカード」を使うことができます。「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック PRO デュオ」、「メモリースティック PRO-HG デュオ」も使用できます。ただし、市販のアダプタが必要になります。

・メモリーカードやアダプタの形状、注意事項など、詳しくは「ソフト＆サポートナビゲーター」-「使う」-「パソコンにつなげる」-「トリプルメモリースロット」をご覧ください。

・すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。メモリーカードの説明書をよく読んでから使用してください。

・大切なデータはハードディスクなどにコピーして、バックアップを取っておくことをおすすめします。

・メモリーカードを読み込めない場合は、メモリーカード内のファイルに対応するソフトがパソコンにあるかを確認してください。携帯電話の機種やダウンロードサービスの種類によっては、専用のソフトをパソコンにインストールする必要があります。

・携帯電話からメモリーカードにダウンロードした音楽データなどは、エクスプローラなどからパソコンにコピーしても利用できないことがあります。携帯電話の機種によって異なりますので、詳しくは携帯電話の説明書をご覧ください。

・誤った操作による故障やメディアの取り出しは有償となりますのでご注意ください。

取り扱い上の注意

メモリーカードを取り扱う際は、次のことに気を付けてください。

使用について

・静電気による故障を防ぐため、静電気を放電してからメモリーカードを取り扱ってください。
・小型のメモリーカードなど、アダプタが必要なカードは、必ずアダプタを装着してください。
・メモリーカードは、方向を確認して取り付けてください。
・トリプルメモリースロットには、対応以外のメモリーカードを挿入しないでください。
・メモリーカードの読み込み／書き込み中は、トリプルメモリースロットからメモリーカードを取り出さないでください。
・メモリーカードやトリプルメモリースロットの金属端子部分を触らないでください。
・裏面に通電性(電気を通す性質)がある金属が使用されているSDメモリーカード、SDHCメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。
・汚れたメモリーカードは、汚れをとってからトリプルメモリースロットに取り付けてください。

取り扱いについて

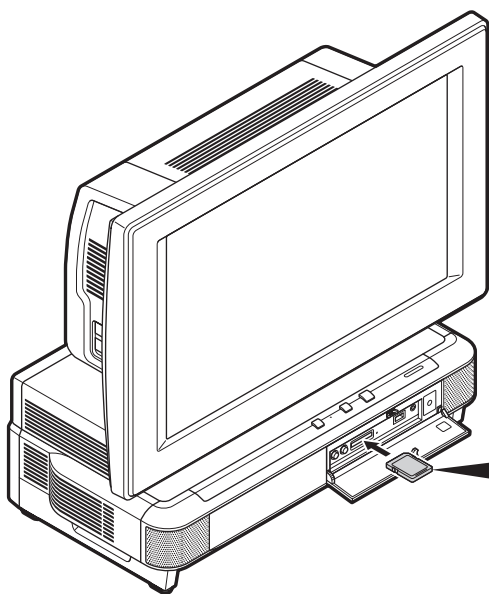
・分解しないでください。
・上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
・溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
・クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
・ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。

保管について

・使わないときは収納箱に入れて保管してください。
・直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。
・長期間使用しないときは、メモリーカードやアダプタを、トリプルメモリースロットに取り付けたままにしないでください。
・メモリーカードには、添付の指定ラベル以外を貼らないでください。
・メモリーカードには、指定の貼付箇所以外にラベルを貼らないでください。

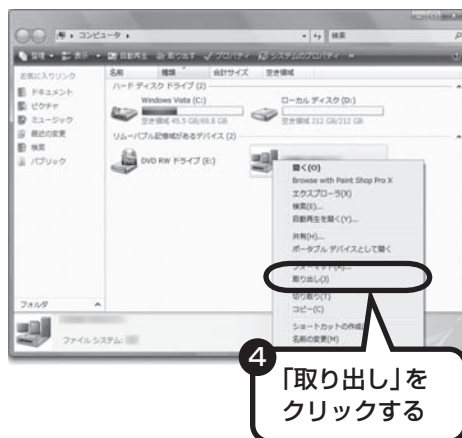
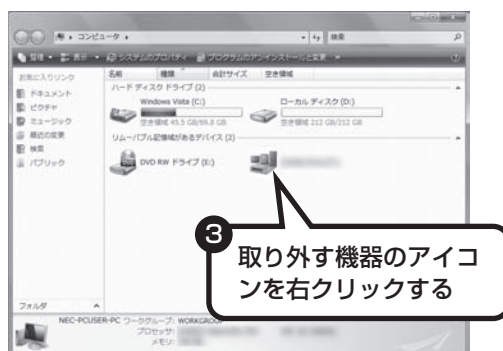
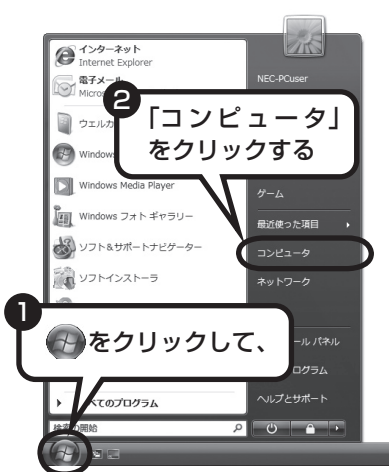
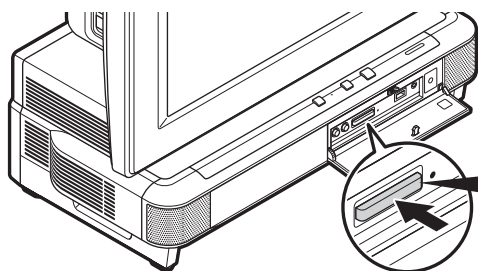
・**Windows上でメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグをおこなわないでください。**
・**メモリーカードにデータを保存中または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。また、データの保存中はスリープ状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。**

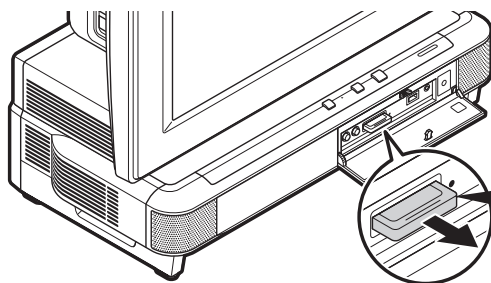
1 本体前面のカバーを開けて、メモリーカードを差し込む

- 本体前面のカバーの開け方は、「輝度を調節する方法」(80ページ)の手順1をご覧ください。
- 「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック PRO デュオ」、「メモリースティック PRO-HG デュオ」を使う場合は、アダプタに差し込んでおいてください。アダプタの装着方法について詳しくは、メモリーカードまたはアダプタの説明書をご覧ください。
- メモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理に差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、メモリーカードの説明書をご覧ください。

メモリーカードをセットしたとき、「自動再生」の画面が表示されることがあります。表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って画像を表示することができます。

画像データが入ったメモリーカードをセットしたとき、SmartPhotoが起動してスライドショーが始まることがあります。

2 メモリーカードを取り外す準備をする

トリプルメモリースロットアクセスランプが消灯していることを確認してください。

トリプルメモリースロットアクセスランプ点灯中は、メモリーカードを絶対に取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因になります。

3 メモリーカードを取り外す

メモリーカードが少し出てきます。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

・ブルーレイディスクドライブモデルで使用できるブルーレイディスクも、CDやDVDと同じように扱います。

・このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

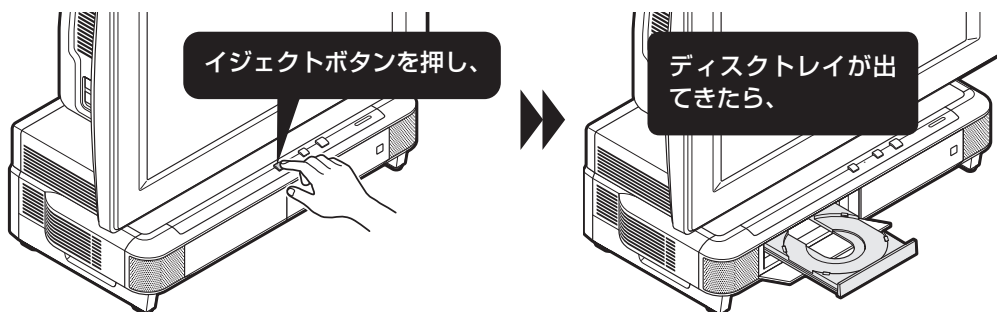
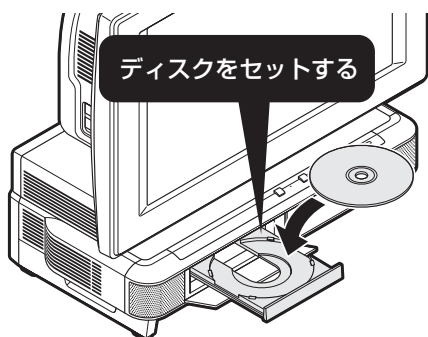
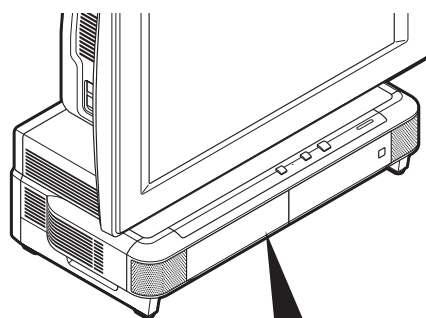
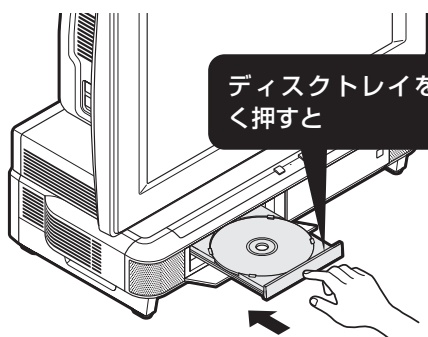
ディスクを取り扱うときの注意

次の注意事項を守ってください。

・データ面(文字などが印刷されていない面)に手を触れない。
・ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
・ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先のやわらかいものを使う。
・ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
・汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けてふく。
・汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
・ベンジン、シンナーなどは使わない。
・ゴミやホコリの多い場所で使わない。
・直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。
・ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
・このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
・使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。

1 イジェクトボタンを押してディスクトレイを出す

ディスクトレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

基本中の基本の操作

2 ディスクを入れる

・8cmと12cmのディスクが利用できます。
・星型や名刺型などの円形ではない異形ディスクや、規格外に容量の大きな書き込みディスクなどは利用できません。

ディスクトレイを軽く押す代わりに、イジェクトボタンを押してディスクを収納することもできます。

画像データが入ったディスクをセットしたとき、SmartPhotoが起動してスライドショーが始まることがあります。

目的に応じて使うディスクを選ぶ

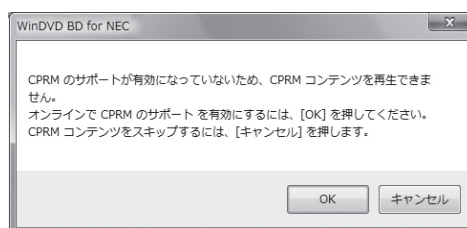
ディスクには、さまざまな種類があります。目的に応じたディスクを利用してください。
利用できるディスクはパソコンにより異なります。詳しくは「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

目的	利用できる主なディスク
音楽CDを作る	CD-R、CD-RW
デジタルビデオカメラの映像をディスクに保存する※1	DVD-R、DVD-RW
テレビ番組をディスクに保存する※2	CPRM対応のDVD-R/DVD-RAM、BD-R、BD-RE
市販のDVD-Videoをコピーする	著作権保護のためコピーできません

※1：お使いのデジタルビデオカメラによって、映像の取り込み方法は異なります。詳しくはデジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。
※2：テレビ番組の保存には、SmartVisionを利用します。詳しくは添付の『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

こんな画面が表示されたら

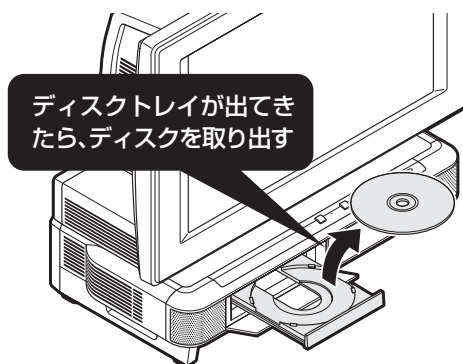
CPRMのサポートに関する画面が表示されたら

DVD/CDドライブにディスクを入れた直後に右の画面が表示された場合は、「OK」をクリックして「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」でCPRMコンテンツを再生するためのデバイス鍵をダウンロードしてください。
CPRM Packのアップデート手順について詳しくは、付録の「CPRMのアップデート」(184ページ)をご覧ください。

CPRM Packのアップデートをするには、インターネットに接続する必要があります。

基本中の基本の操作

自動再生の画面が表示されたら

DVD/CDドライブにディスクを入れた直後に右の画面が表示された場合は、表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って映像などを再生することができます。

3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、ディスクトレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。ディスクトレイが収納されてカバーが閉じます。

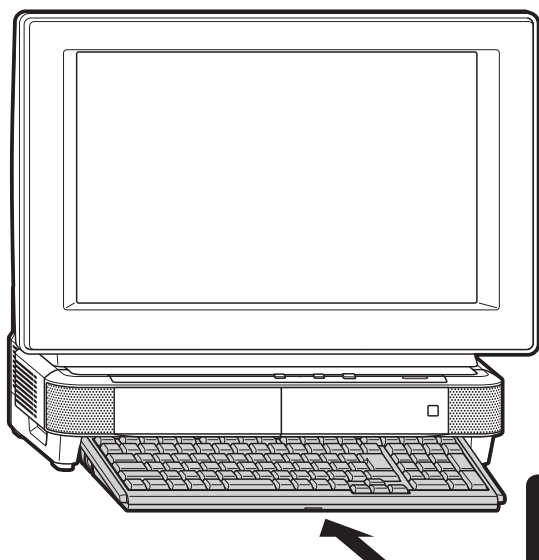
キーボードを収納する

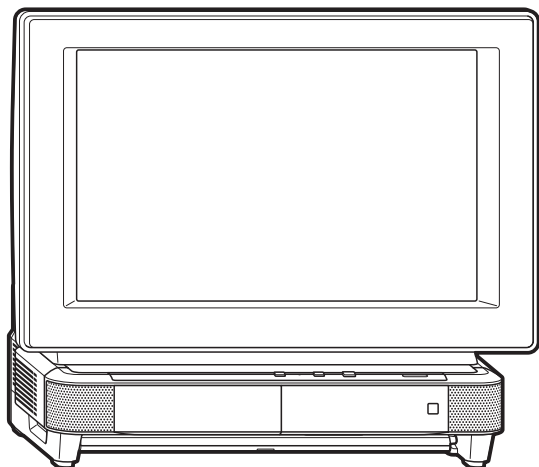
このパソコンのキーボードは、スライドインキーボードです。
キーボードを使用しないときは、パソコン本体の下に収納することができます。

1 キーボードをパソコン本体の下に入れる

図の向きに、キーボードをパソコン本体の下に押し込んでください。

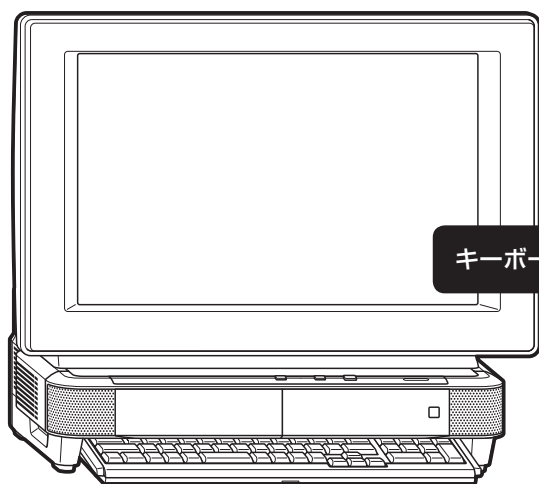
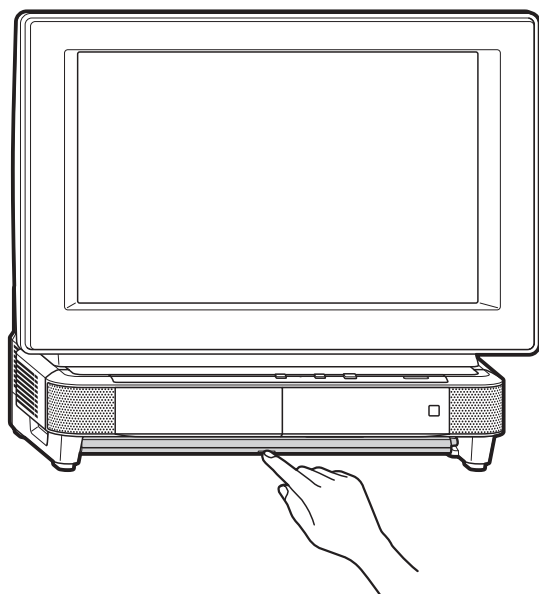
・キーボードの向きに注意して入れてください。

・キーボード裏面の足を立てている場合は、倒してください。

キーボードを本体の下に入れて、そのまま奥にスライドさせます。

キーボードを斜めにしないように、水平に入れてください。

パソコンの電源が入っているときに、キーボードを奥まで押し込むと、デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルではテレビ(SmartVision)が、それ以外のモデルではネット映像(Windows Media Center)が起動します。

キーボードを収納したときに、パソコンの電源を切ったり、ほかのソフトを起動したり、何も起動しないように設定を変更することもできます。詳しくは、「キーボードを出し入れするときの動作を設定する」(93ページ)をご覧ください。

2 キーボードを取り出す

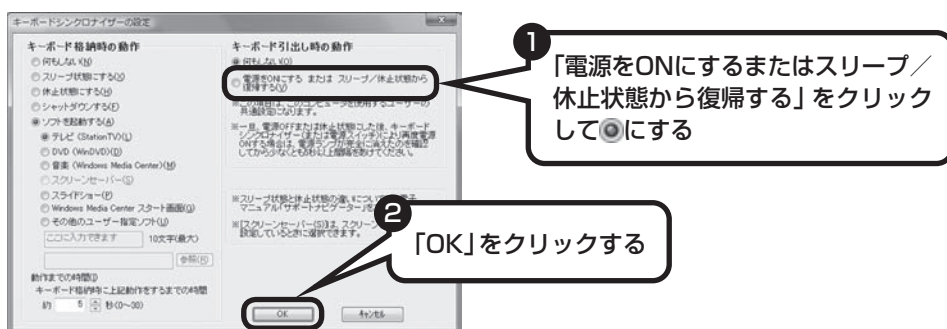
キーボード前面の中央部分を少し押します。

キーボードを取り出したときに、パソコンの電源を入れたり、休止状態から復帰するように設定することができます。詳しくは、「キーボードを出し入れするときの動作を設定する」(次ページ)をご覧ください。

静かに引き出してください。
引き出したら、必要に応じてキーボード裏面の足を立ててください。

キーボードを出し入れするときの動作を設定する

「キーボードシンクロナイザー」というソフトで、パソコン本体の下に収納されたキーボードを取り出したときにパソコンに電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰したりするように設定することができます(ご購入時の状態では、「何もしない」に設定されています)。

1 画面左下の「スタート」-「すべてのプログラム」-「キーボードシンクロナイザー」-「キーボードシンクロナイザーの設定」の順にクリックする

2 「キーボード引出し時の動作」を設定して「OK」をクリックする

モデルによって、表示される画面が異なります。

これで設定が変更できました。
この画面で、キーボードを収納したときの動作も設定できます。

- パソコン本体の電源を切った後(またはスリープ状態や休止状態の後)、収納されたキーボードを取り出して再度電源を入れる場合は、電源ランプが完全に消えたのを確認してから、5秒以上間隔をあけてください。
- 「キーボード格納時の動作」で「Windows Media Center スタート画面」を選択している場合、Windows Media Centerが起動した状態では、キーボードを格納してもWindows Media Centerのスタート画面は表示されない場合があります。

パソコンの基本的な使い方を学ぶ「パソコンのいろは3」

「パソコンのいろは3」を使って、パソコン、Windows Vistaや「Office 2007」の基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろは3」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろは3」が入っています。「パソコンのいろは3」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンやWindows Vistaの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろは3」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろは3」を始める前にすべて終了させてください。

1 キーボードのマーク表示部の表示を確認する

キーボードの表示を確認してください。

Ⓐ が表示されていないこと

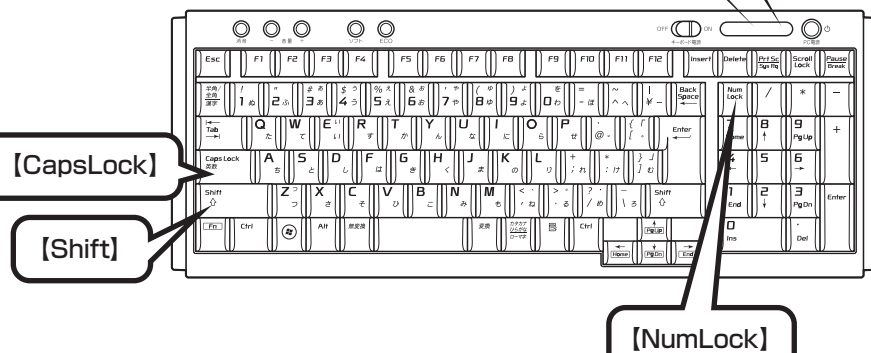
【Shift】(シフト)を押したまま【CapsLock】(キャップスロック)を押すと、マーク表示部の表示の有無が切り換わります。
【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

① が表示されていること

【NumLock】(ニューメリックロック)を押すと、マーク表示部の表示の有無が切り換わります。

【CapsLock】

【Shift】

【NumLock】

2　ソフト＆サポートナビゲーターを起動する

(ソフト＆サポートナビゲーター)に矢印を合わせてダブルクリックする

ソフト＆サポートナビゲーターの最初の画面が表示されます。

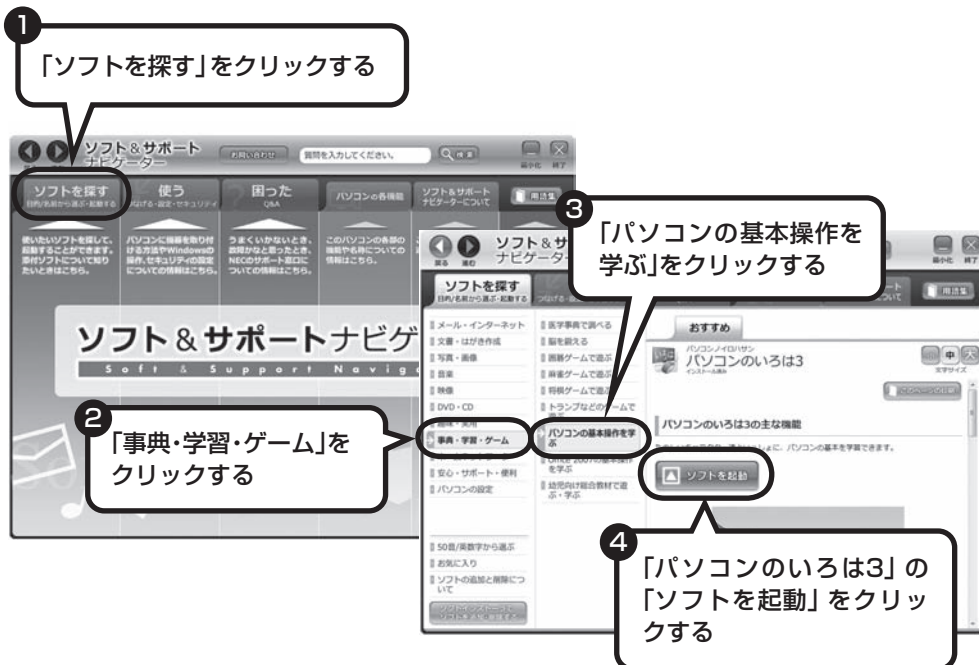
ご購入時の状態では、キーボード上側の【ソフト】ボタンを押すと、「ソフト&サポートナビゲーター」のソフトを起動するためのページが表示されます。

ソフト＆サポートナビゲーターとは

「ソフトを探す」から目的に合ったソフトを探したり、見つけたソフトを起動するときに使います。

「ソフト＆サポートナビゲーター」には、「ソフトを探す」のほかにも、「使う」「困った」「パソコンの各機能」「検索」「用語集」などの項目があって、目的に応じてソフトの使い方やパソコンの使い方をサポートします。

「ソフト＆サポートナビゲーター」について詳しくは、「パソコンの画面で解説、検索「ソフト＆サポートナビゲーター」」(98ページ)をご覧ください。

3　「パソコンのいろは3」を始める

「パソコンのいろは3」が表示され、自動的に「1章 マウスで遊ぶ」の練習が始まります。

パソコンを使うのがはじめてのかたは、1章から順番に始めてください。章や項目のどこからでも始められ、1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろは3」を終了させることもできます。その場合、画面右下に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に確認の画面が表示されるので、「終了します」をクリックすると「お疲れさまでした。」と表示され、終了します。

途中から練習するときは

次回から、「パソコンのいろは3」を起動すると、目次が表示されるようになります。やりたい章や項目をクリックすると、練習を始められます。

はじめてWindows Vistaを使うときは

Windows Vistaを使うのがはじめてのかたは、12章の「Windows Vistaを使う」に目をとおしておくとよいでしょう。サイドバーの使い方や、電源の切り方など、今までのOSとは違ったWindows Vistaの機能を学ぶことができます。

12章を表示するには、「パソコンのいろは3」の目次で、画面右側にある後編の「表示する」をクリックしてください。

はじめてOffice 2007を使うときは(Office 2007モデルのみ)

Office 2007を使うのがはじめてのかたは、「パソコンのいろは3 Office 2007編」で練習するとよいでしょう。ワープロソフトのWord(ワード)、表計算ソフトのExcel(エクセル)などの使い方を勉強できます。

「パソコンのいろは3 Office 2007編」は、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「パソコンのいろは3 Office 2007編」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。

パソコンの画面で解説、検索「ソフト&サポートナビゲーター」

「ソフト&サポートナビゲーター」は、ソフトを起動するだけでなく、パソコンの詳しい使い方を知りたいときや困ったときに役立つ、画面で見るマニュアルとしての機能も持っています。

ソフト&サポートナビゲーターについて

デスクトップの(ソフト&サポートナビゲーター)に矢印を合わせてダブルクリックすると「ソフト&サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

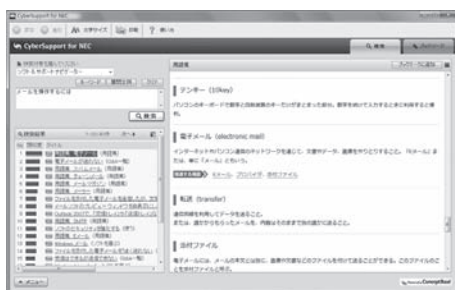
これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、項目を選んでください。

- ソフトを探す…目的に合ったソフトを3ステップで選んだり、見つけたソフトを起動するときに使います。ソフトの説明も表示されるので、ソフトを探すときに便利です。
- 使う…このパソコンに周辺機器を取り付けて使う方法や、Windowsの便利な使い方など、知っていると便利な使い方について説明しています。
- 困った…うまくいかないときや、故障かな?と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。
- パソコンの各機能…パソコンの省電力機能や表示機能など、パソコンの機能について説明しています。パソコンを使いこなすときに利用してください。
- ソフト&サポートナビゲーターについて…ソフト&サポートナビゲーターの使い方に困ったら、ここをご覧ください。
- 用語集…わからない単語があったらクリックしてみてください。50音でよく使うパソコン用語を調べることができます。

「ソフト&サポートナビゲーター」の詳しい内容については、付録の「「ソフト&サポートナビゲーター」詳細目次」(208ページ)をご覧ください。

知りたい項目を検索しよう

ソフト＆サポートナビゲーターで知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して「検索」を押してみてください。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupport for NECの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回起動時はすぐに結果が出るようになります。

もしものときに備えて

ポイント

● バックアップ、再セットアップディスク、パスワードでもしもに備える

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ・ユーティリティ」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ・ユーティリティ」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「バックアップ・ユーティリティでバックアップ/復元する」をご覧ください。
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

・セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。

・セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブに約0.9 ～ 50Gバイトの空き容量が必要です。

・著作権を持つデータ(購入した音楽データなど)は、「バックアップ・ユーティリティ」を使ってバックアップを取ることができません。また、多くはエクスプローラなどでコピーしても利用できません。著作権を持つデータのバックアップは、そのデータを扱えるソフト(音楽データであれば、そのデータの購入に使用したソフト)でおこなってください。

ハードディスク全体のバックアップを取る

「Roxio BackOnTrack」というソフトを使うと、ハードディスク全体をDVDなどのディスクにバックアップを取ることができ、ドライブ全体を復元することができます。
またCドライブ全体をDドライブやDVDなどのディスクにバックアップすると、Dドライブのデータをそのままにして、Cドライブのみ復元することができるようになります(Cドライブのバックアップデータは Dドライブに取ることもできます)。
インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。
まずは、第5章または第6章の作業が終わり、インターネットの設定が完了した直後にハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。
そのほか、トラブルが起きたときのために、いろいろな設定が終わった状態のバックアップを取っておくとよいでしょう。

「Roxio BackOnTrack」は、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「Roxio BackOnTrack」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。

「Roxio BackOnTrack」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「Roxio BackOnTrackでバックアップ/復元する」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ・ユーティリティ」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、第3章の「Windowsのパスワードを設定する」(58ページ)をご覧ください。

インターネットに接続できるようになったら

インターネットに接続できるようになったら、パソコンを安全に利用するために、次のようなセキュリティ対策をおこなってください。

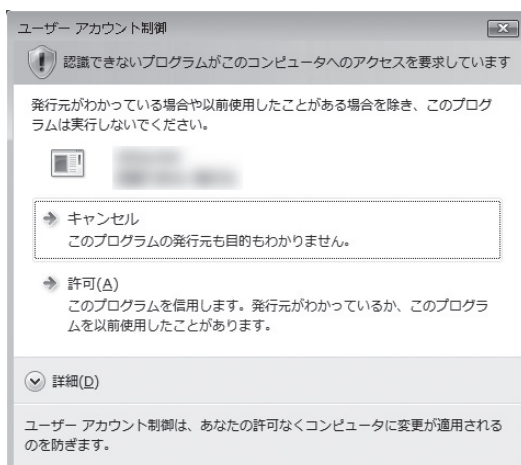
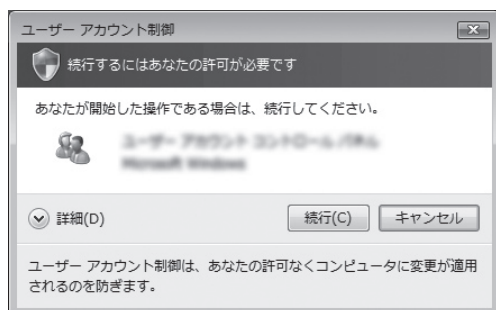
・ Windowsを最新の状態にする
・ ウイルス対策ソフトを利用する。またソフトは常に最新の状態に(アップデート)する
・ ファイアウォール機能を利用する

上記のセキュリティ対策について詳しくは、第5章の「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」(132ページ)をご覧ください。

ユーザー アカウント制御について

●「ユーザー アカウント制御」でパソコンを守る

内容をよく読んで操作する

ソフトを起動したり、操作しているときに、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。
「ユーザー アカウント制御」は、パソコンのシステムに影響を及ぼす可能性のある操作がおこなわれたときに、その操作がユーザーの意図したものかどうかを確認するためのものです。コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」からパソコンを守るために、「ユーザー アカウント制御」画面で表示された内容をよく読んで操作してください。

※プログラムによっては、メッセージが異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」画面で「管理者」ユーザーのパスワードが必要な場合があります。

第5章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者(プロバイダ)に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第6章　パソコンを買い替えたかたへ」(137ページ)へ進んでください。

インターネットの接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。
高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります(Bフレッツなど)。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

ADSL(エーディーエスエル)

家庭にあるアナログ回線(一般の電話回線)を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

CATV(ケーブルテレビ/シーエーティーブイ)

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル(モジュラケーブル)を用意するだけでインターネットに接続できます。
回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません(電話をかけてきた相手には、話し中になります)。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

ISDN(アイエスディーエヌ)

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

ブロードバンド接続の流れ

FTTHの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(108ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

入会するプロバイダとコース(料金プラン)を決めたら、電話または書面で入会を申し込みます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(108ページ)をご覧ください。

3 回線の開通を待つ

FTTHは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの(Bフレッツ)と、別の回線事業者(KDDIやアッカなどという会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。FTTHを利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じて回線終端装置の準備や光ファイバーの導入工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線終端装置を接続して、パソコンの設定を変更する

回線終端装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(110ページ)をご覧ください。

プロバイダに入会する

BIGLOBEに入会する

インターネットプロバイダBIGLOBEでは、お電話で入会申し込みを受け付けております。
BIGLOBE電話で入会センター(受付時間9:00 ～ 21:00　365日)
0120-15-0962

※ 電話番号はおかけ間違えのないようにご注意願います。
※ 携帯電話、PHSからもご利用になれます。

そのほかのプロバイダに入会する

BIGLOBE以外にもさまざまなプロバイダがあります。入会方法については、各プロバイダにお問い合わせください。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ(「サーバー」といいます)を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役となってくれるのです。
プロバイダは、「ISP(インターネット・サービス・プロバイダの略)」と呼ばれることもあります。

申し込みたいコース(料金プラン)を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース(料金プラン)を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット(BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など)を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

FTTH以外の接続の場合

ADSL

お住まいの地域や建物でADSLの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「使いほーだい」コースが「フレッツ・ISDN」に対応しています。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA(ターミナルアダプタ)などのISDN接続機器を設置する必要があります。

入会手続きが完了したら

通常、入会手続きが完了したら、回線事業者から導入工事や接続に必要な機器に関するご説明の連絡があります。このときに導入工事の希望日をお伝えください。
導入工事の日取りが決まると、回線事業者からインターネット接続に必要なマニュアル、CD-ROM(接続ツール)などを含むご案内の資料が送られてきます。インターネットに接続する際に必要になりますので、プロバイダから送られてきた資料とともに大切に保管してください。
回線事業者の工事担当者が来て、インターネット接続のための導入工事が終了すると、いよいよインターネットへの接続設定をおこないます。「ブロードバンド接続の設定」(124ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続など、ご利用になるブロードバンド接続の種類により、設定方法や機器の種類が異なります。詳しくは、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ルータは必要？

ルータは、複数のパソコンやインターネット接続可能機器をインターネットに接続するときに必要になります。このパソコンだけをインターネットに接続する場合は、必要ありません。
ルータを使う場合は、パソコンを直接インターネットに接続する場合と接続方法が異なります。「ブロードバンド接続の設定」(124ページ)をご覧になり接続してください。
ルータは、必要に応じて別途ご購入ください。ADSLの場合、ルータタイプのADSLモデムを選択することもできます。

接続設定の進め方

入会手続きが終わったら、回線の種類やワイヤレスLANの有無によって、どのページを見て設定すればよいか、このページで確認してください。

接続機器によっては、このマニュアルに記載の設定方法と異なる場合があります。インターネット接続機器やワイヤレスLAN接続機器などに添付の設定マニュアルやCD-ROMソフトがある場合は、そちらを使って設定するのが確実です。

回線の種類は？

ブロードバンドで接続する

↓

ワイヤレスLANを使う？

ワイヤレスLANで接続する

ワイヤレスLANを使わない（ケーブルで接続する）

↓

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」（次ページ）

↓

「ブロードバンド接続の設定」（124ページ）

↓

「インターネットに接続する」（126ページ）

↓

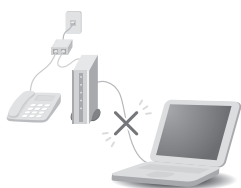
「メールソフトを設定する」（128ページ）

ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定

ワイヤレスLAN機能を搭載しているモデルは、無線でインターネットに接続するためにワイヤレスLANの設定をおこないます。

ワイヤレスLAN機能について（ワイヤレスLAN機能のあるモデルのみ）

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを無線（ワイヤレス）にしたものです。ワイヤレスLANを活用すれば、たくさんのケーブルが必要だったインターネット接続が変わります。

家の中で

ブロードバンドを利用するときは、パソコンとネットワーク機器をLANケーブルで接続します。ワイヤレスLANを使うと、この部分のケーブル接続が不要になります。

ワイヤレスLANの規格や使用環境にもよりますが、ワイヤレスLANの電波は、建物の壁などもある程度越えて届きます。ワイヤレスLANを導入すれば、パソコンの設置場所や持ち運びがもっと自由になり、使い方が広がります。

ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティの対策をしっかりしないと、外部からネットワークに入られて無断で利用され、情報を読まれてしまう危険があります。そうならないように、ワイヤレスLANを使うときは暗号化など、セキュリティをしっかり設定してください。

ワイヤレスLANの種類はいろいろある

ワイヤレスLANには現在、IEEE802.11b 、IEEE802.11g、IEEE802.11a、およびDraft IEEE802.11nの4種類があり、組み合わせによっては接続できない場合もあるので注意が必要です。

Draft 11n対応ワイヤレスLANモデルは、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a、およびDraft IEEE802.11nに対応しています。

ワイヤレスLANそれぞれの種類には、次のような特徴があります。

	規格上の理論値（通信速度）※	周波数	特　徴
IEEE802.11b	最大11Mbps	2.4GHz	対応機器が多く、互換性が高い規格
IEEE802.11g	最大54Mbps	2.4GHz	・IEEE802.11bよりも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b対応機器との通信も可能
IEEE802.11a		5GHz	電波干渉の問題が少ない
Draft IEEE802.11n	最大300Mbps	2.4GHz/5GHz	・現在、もっとも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a対応機器との通信も可能

※ 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記です。通信の実効速度はこの通信モードの50%以下になります。通信速度は、パソコンと相手機器との間の電波状態や距離によっても変化します。詳しくは、付録の「仕様一覧」をご覧ください。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。お使いの機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

設定に必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

回線終端装置またはモデム

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）
・ CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）
・ ADSL：ADSLモデム

ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータ

お使いのブロードバンド回線の種類やモデムの種類によって次のような機器が必要です。

・ ADSLの場合、ADSLモデムにワイヤレスLANアクセスポイント機能が内蔵されているものもあります。
・ 機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。
・ 機器を購入するときは、お使いのモデムや回線終端装置の種類を確認してください。

◆ワイヤレスLAN アクセスポイント(ブリッジタイプ)

次のような場合、ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）が必要です。

・ ルータ機能のあるモデムをお使いの場合
・ ワイヤレスLAN 機能のないルータ（有線）を使って、インターネットに接続している場合

ワイヤレスLAN ルータでルータ機能を無効にして、ワイヤレスLANアクセスポイント(ブリッジタイプ)として利用できる場合もあります。

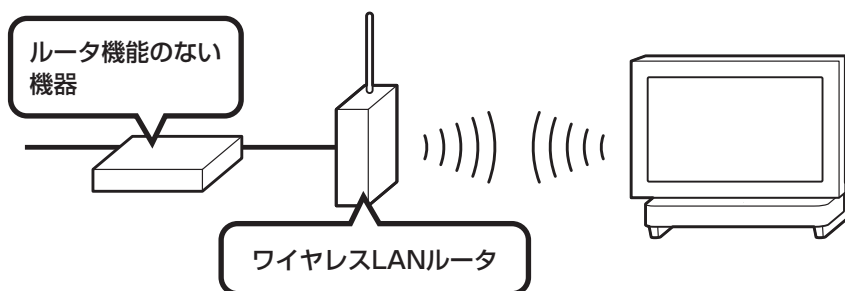
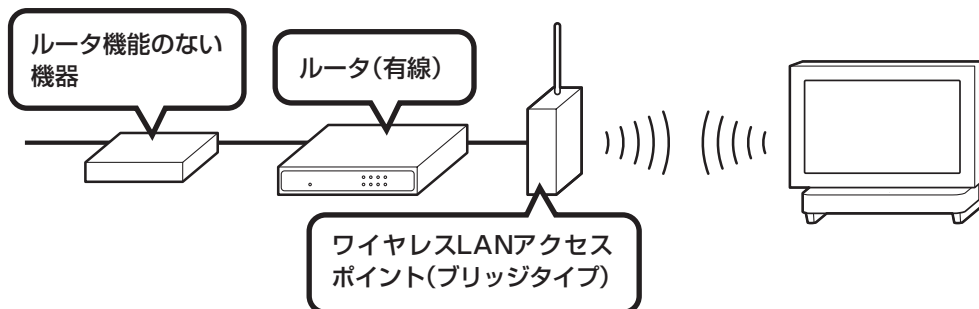
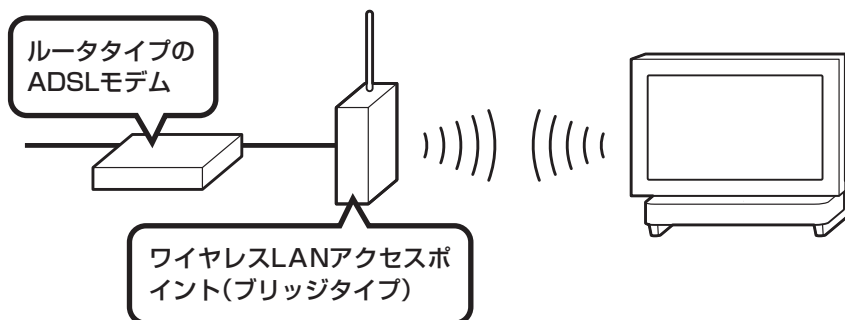
◆ワイヤレスLAN ルータ(ルータタイプのワイヤレスLAN アクセスポイント)

次のような場合、ワイヤレスLAN ルータ（ルータタイプのワイヤレスLAN アクセスポイント）が必要です。

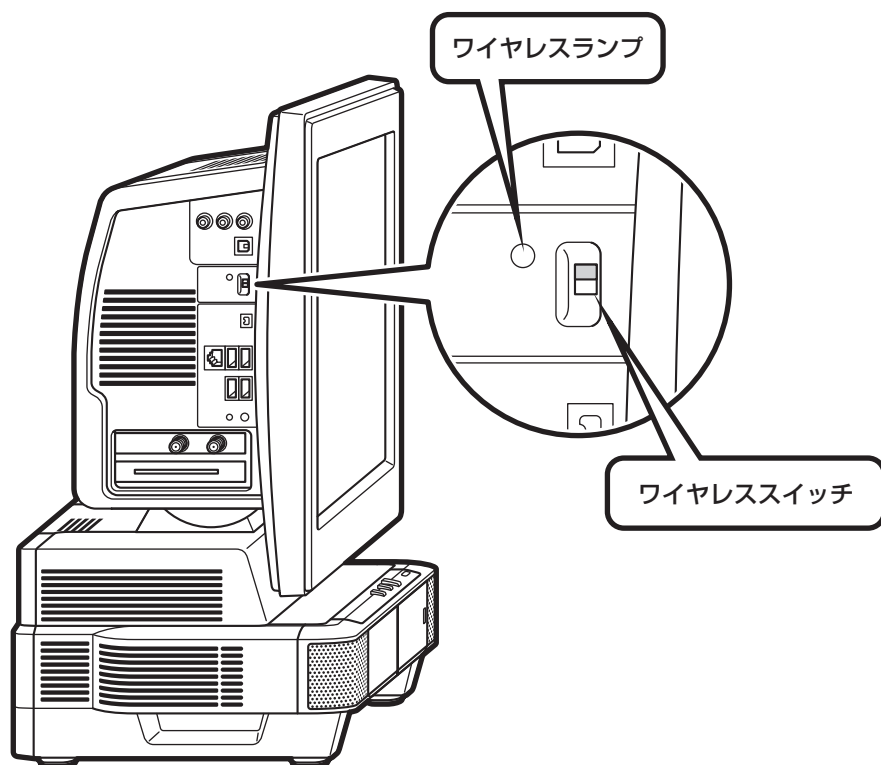
・ ルータ機能のないモデムをお使いで、複数のパソコンでインターネットに接続するなどルータ機能が必要な場合

1 機器を接続する

まず、このパソコンとネットワーク機器を接続してください。
詳しい接続方法については、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。
FTTHの回線終端装置やADSLモデムをお使いの場合、次のように接続します。

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合（ルータ（有線）を利用する場合）

ルータ機能のあるADSLモデムの場合

2 ワイヤレスLAN機能をオンにする

このパソコンでワイヤレスLANを使うには、ワイヤレススイッチを上にスライドし、「入」にしてください。

ワイヤレススイッチが「切」になっていると接続できません。

ご購入時の状態では、ワイヤレススイッチは「切」に設定されています。

- **ワイヤレススイッチが「入」のときにはワイヤレスランプが点灯します。**
- **ワイヤレススイッチを下にスライドすると、ワイヤレスLAN機能が「切」になり、ワイヤレスランプが消灯します。**

接続する機器の設定について

ワイヤレスLANの接続では、接続するワイヤレスLANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知する設定になっているか、通知しない設定になっているかでパソコンの設定が異なります。あらかじめお使いの機器のマニュアルをご覧になり、設定を確認しておいてください。

- **ネットワーク名（SSID）は、通知しない設定にする方が、不正アクセスなどへのセキュリティが高まります。**
- **手順中に出てくるネットワークキーやセキュリティの設定などについて、詳しい内容は「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN（無線LAN）」に説明があります。そちらも参照してください。**
- **機器によっては、パソコンの設定をする前に、ユーザー名やパスワードなどの接続情報を設定する場合もあります。機器に添付されている説明書などの記載にしたがってください。**

ここからの手順は、接続するワイヤレスLANアクセスポイントの設定によって異なります。

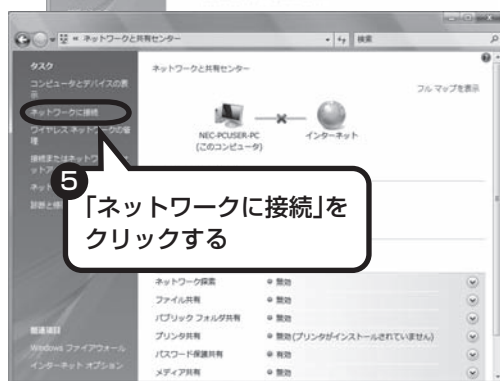
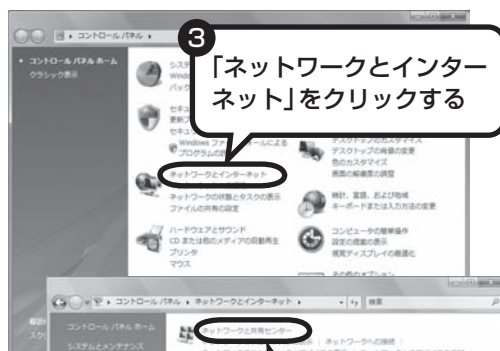
・ネットワーク名（SSID）を通知するワイヤレスLANアクセスポイント

→次ページの「3 ネットワーク名（SSID）を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

・ネットワーク名（SSID）を通知しないワイヤレスLANアクセスポイント

→121ページの「4 ネットワーク名（SSID）を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

3 ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

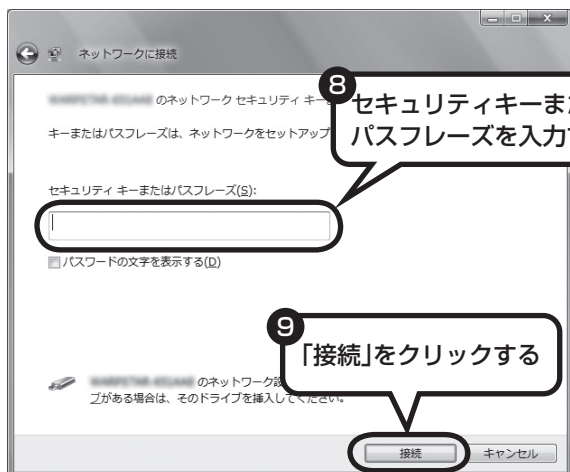
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ネットワークに接続」が表示されます。

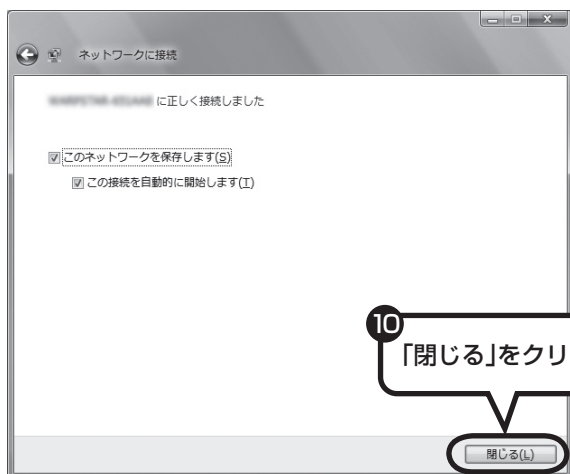
「ネットワークに接続」は、「スタート」-「接続先」をクリックしても表示できます。

接続するネットワーク名が表示されていない場合は、画面右の をクリックしてください。

それでもネットワーク名が表示されない場合は、通知領域の を右クリックし、「診断と修復」を選択してください。

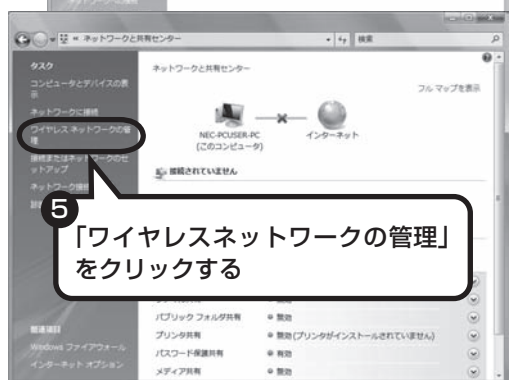
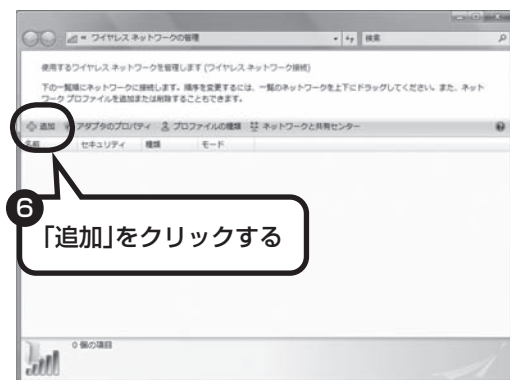
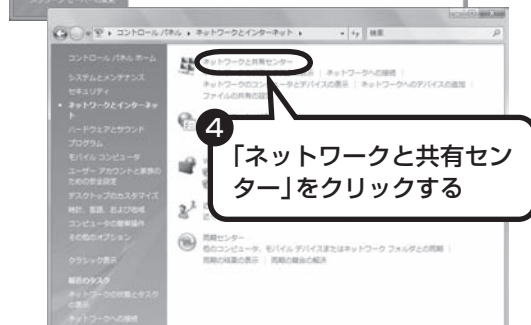
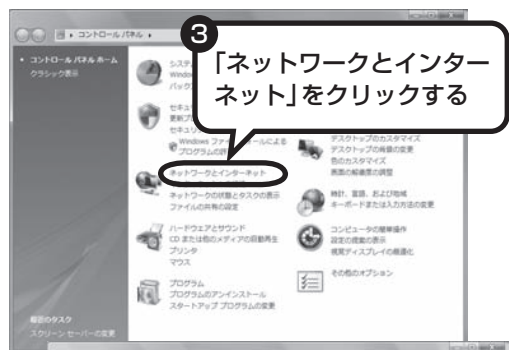
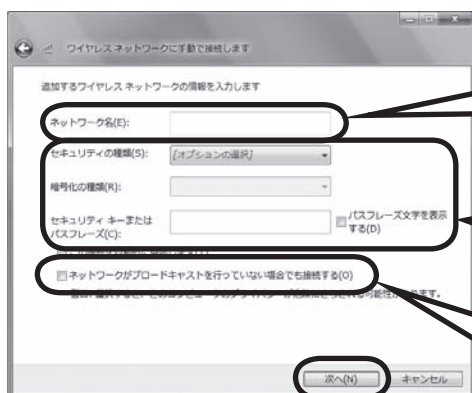
ネットワーク名(SSID)が表示されない場合は、次の理由が考えられます。

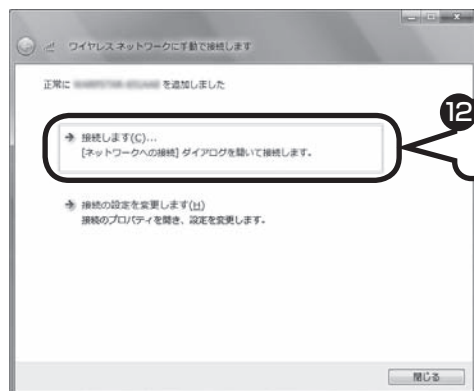
- **電波の状態が悪い。**
  電波が確実に届く範囲内に移動して作業してください。
- **ワイヤレスLANアクセスポイントが、ネットワーク名(SSID)を通知しない設定になっている。**
  ワイヤレスLANアクセスポイントのマニュアルなどを見て、設定を確認してください。ネットワーク名(SSID)を通知しない場合の設定については、121ページをご覧ください。

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じセキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)を入力します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、警告画面が表示されます。説明をよく読んで、「接続します」をクリックしてください。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域に が表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に 、 が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)が正しいか確認してください。

4 ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じに設定します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、手順9の「セキュリティの種類」を「認証なし(オープンシステム)」にしてください。その場合、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)を入力する必要はありません。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)が正しいか確認してください。

設定が完了したら

ワイヤレスLANルータ、ルータタイプのモデム、ルータ(有線)などを使用している場合は、接続情報を設定、登録してください。詳しくは、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。

すべての設定が終わったら、「インターネットに接続する」(126ページ)へ進み、インターネットへの接続を試してください。

接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、回線事業者から入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

回線終端装置などに添付されていなければ、LAN(ラン)ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンと回線終端装置などのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ FTTH :回線終端装置(回線工事で設置)

・ ADSL :ADSLモデム

・ CATV :ケーブルモデム(CATV開通工事で設置)

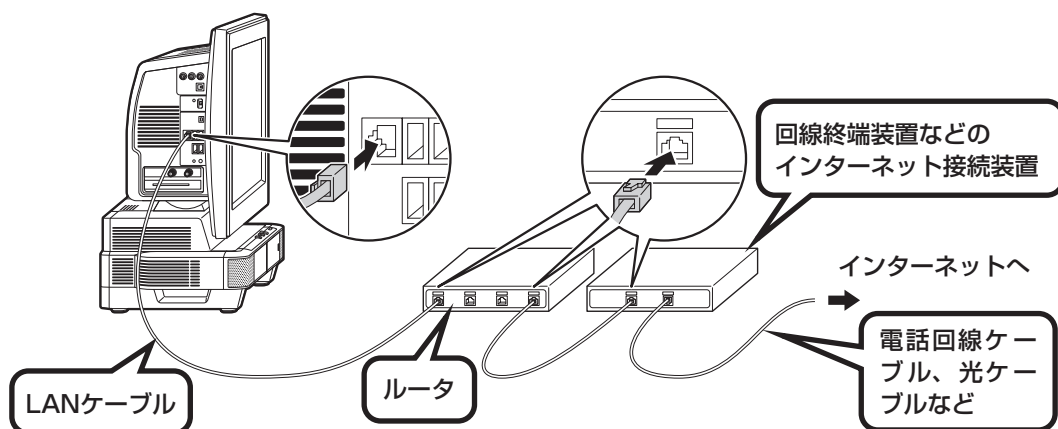
ルータを使う場合

ルータを使う場合は、さらに次の機器や資料が必要になります。

・ ルータ

・ ルータに添付されているマニュアル

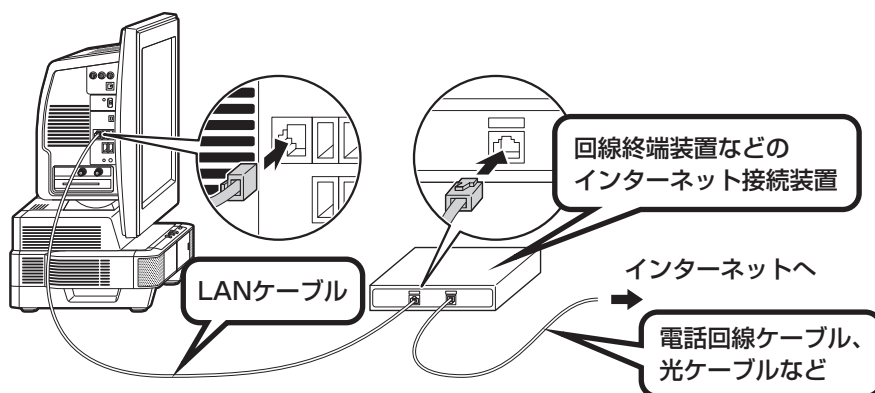
図のように接続する

ルータを利用する場合

ルータとパソコンを接続したら、ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。

・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

・コネクタ部が高温になっている場合がありますので、注意してください。

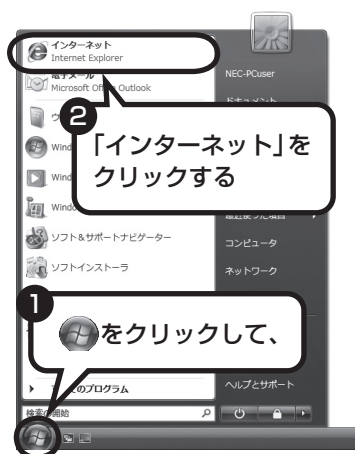
ルータを利用しない場合

・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

・コネクタ部が高温になっている場合がありますので、注意してください。

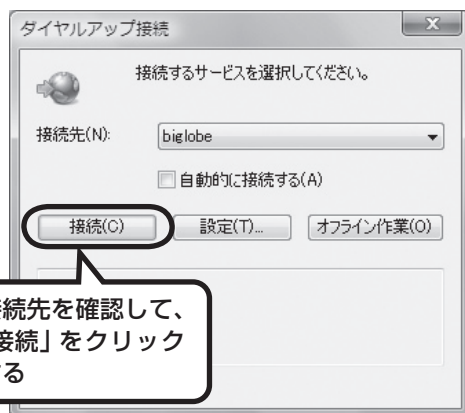
ケーブルを接続したら、インターネットへの接続設定をおこないます。設定方法について詳しくは、ご加入のプロバイダや回線事業者から入手した資料をご覧ください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます(設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます)。

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

インターネットから切断するときは、次の方法で操作します。

・ルータを利用していない場合

画面右下の通知領域の□を右クリックして表示されるメニューから、「切断」を選び、切断する接続をクリックします。

・ルータを利用している場合

利用しているネットワークを無効にします。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「LAN」-「ネットワークの設定」-「ネットワークから切断する」をご覧ください。

・ワイヤレスLANを利用している場合

利用しているワイヤレスLANから切断します。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた」をご覧ください。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページの「メールソフトを設定する」へ進んでください。

ワイヤレスLANの通信がうまくいかない場合

ワイヤレスLANを利用中に通信がうまくいかなくなった場合は、ワイヤレススイッチがオンになっているか、または画面右下の通知領域のアイコンが表示されているかを確認してください。ワイヤレススイッチがオンになっていて、画面右下の通知領域のアイコンが表示されていない場合は、パソコンを再起動してください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

・FTTHやADSLで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらもあわせてご覧になり、設定することをおすすめします。

・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Windows® メール」というソフトでメールを利用できます。Windows® メールの設定については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「Windows メール」をご覧ください。

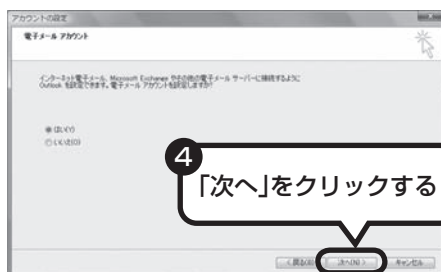
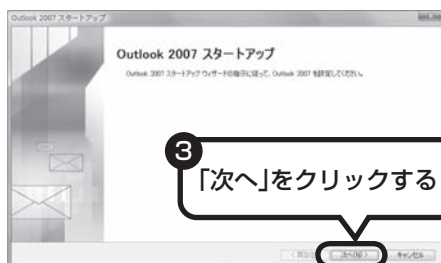
・Outlookのセットアップ、インストールについてのお問い合わせ先(Microsoft)
月〜金曜日　午前9時30分〜午前12時、午後1時〜午後7時
土曜日・日曜日　午前10時〜午後5時/指定休業日、年末年始、祝祭日除く
東京:03-5354-4500(4件まで無料、5件目からは有料)/大阪:06-6347-4400(4件まで無料、5件目からは有料)
インターネットでのお問い合わせは
URL:http://support.microsoft.com/select/?target=assistance
その他、基本操作などについてのお問い合わせ先は『パソコンのトラブルを解決する本』の「ソフトのサポート窓口一覧」をご覧ください。

1 Outlookを起動する

❶ をクリックして、

❷「電子メール」をクリックする

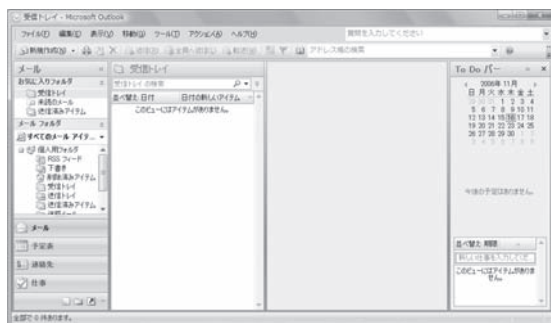
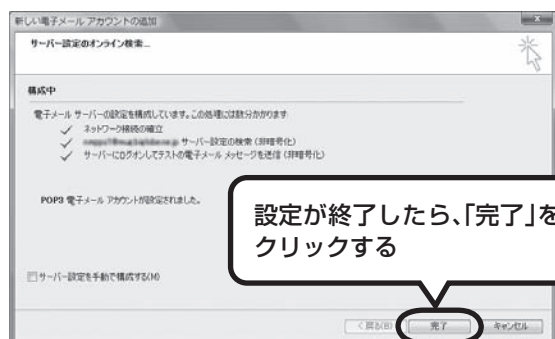
❸「次へ」をクリックする

❹「次へ」をクリックする

2 サーバーのアカウントを自動で設定する

サーバーの自動アカウント設定に失敗したときは、設定内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。
それでも設定できない場合は、「サーバーの自動アカウント設定に失敗したら」(131ページ)をご覧ください。

■ 次の項目に入力してください。

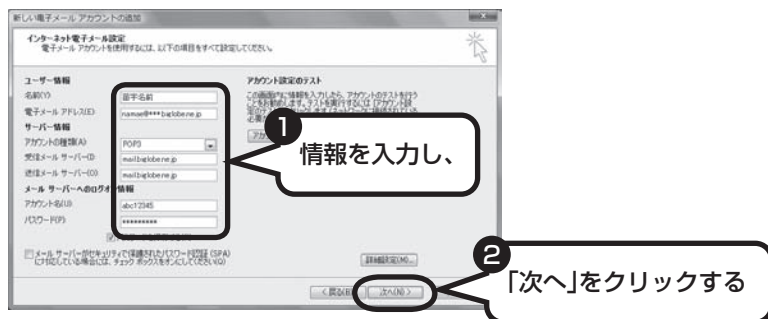
名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。
パスワードの確認入力	確認のため、上記パスワードを再度入力します。

3 メールの設定を完了する

・セットアップが完了すると、「ユーザー名の指定」画面、「マイクロソフトソフトウェアライセンス条項」に同意する画面、プライバシーオプションを設定する画面やMicrosoft Updateを利用するための登録画面などが表示されます。説明をよく読んで、画面の指示にしたがって進めてください。
Microsoft Updateについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「Windowsの更新」-「Microsoft UpdateでWindowsとOfficeを一緒に更新する」をご覧ください。

・手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

サーバーの自動アカウント設定に失敗したら

「メールソフトを設定する」の手順2（129ページ）で設定に失敗した場合は、サーバーの設定を手動でおこなうことができます。
手動でおこなうには、失敗した画面で「サーバー設定を手動で構成する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。その後、「電子メールサービスの選択」の画面で「インターネット電子メール」を◉にして「次へ」をクリックします。
次の画面が表示されたら、それぞれの情報を入力し、画面の説明を読んで設定してください。

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
アカウントの種類	ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は「IMAP」を選びます。詳しくはプロバイダに確認してください。
受信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POP サーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTP サーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	プロバイダの会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POP アカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	プロバイダの会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント
- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
主なセキュリティ対策には、次のようなものがあります。

Windows Update

このパソコンのWindowsの状態などをチェックして、更新プログラムを無料配布するMicrosoftのホームページです。インターネット経由でWindowsを最新の状態にすることができます。
更新プログラムには、セキュリティの強化や不具合(セキュリティホールと呼ばれるWindowsのセキュリティ上の弱点)を修正するためのプログラムが含まれていることがあるので、定期的にチェックすることをおすすめします。

Windows Updateについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「Windowsの更新」をご覧ください。

ウイルス対策ソフト

このパソコンには「ウイルスバスター」というウイルス対策ソフトがインストールされています。ウイルスは頻繁に新種が発生するので、常に最新の状態にしておいてください。ウイルスバスターについては、次ページからの「パソコンをウイルスから守るために」で説明しています。
また、あわせて「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」もご覧ください。

ファイアウォール機能

外部(インターネット)からの不正侵入を防ぎ、情報の流出を防ぐ機能のことです。
このパソコンには、「Windowsファイアウォール」と「ウイルスバスター」の2つのファイアウォール機能があります(同時に複数を使用しないでください)。

ファイアウォール機能について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「不正アクセスの防止」をご覧ください。

『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」では、上記のほかに、個人情報を守るときに注意すべきポイントや、無線LANを使う際に注意すべきセキュリティのポイントについても説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新(「アップデート」といいます)してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、ユーザ登録後はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第6章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、アップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、ユーザ登録をおこなう必要があります。

パソコンをご購入後、はじめてインターネットに接続してから3日間はユーザ登録をしていなくても自動的にアップデートがおこなわれます。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして「メイン画面を起動」をクリックし、表示された画面で「オンラインユーザ登録/契約更新」欄の「アップデート機能を利用できません」をクリックします。
ユーザ登録の画面が表示されたら、記載内容をよく読み、必要事項を記入してから「ウイルスバスターを有効にする」をクリックしてください。

ユーザ登録の画面は、デスクトップの(ウイルスバスターの登録)をダブルクリックしても表示されます。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「ウイルス/スパイウェアの監視」といいます。「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。

ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する(「ウイルス/スパイウェアの監視」が有効)設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「ウイルス/スパイウェアの監視」の左側にが付いていないときは「ウイルス/スパイウェアの監視」は無効です。が付いているときは有効です。

「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効にすることができます。

また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効に設定してください。

「ウイルス/スパイウェアの監視」の有効/無効設定について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除(アンインストール)してください。削除方法については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。
このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれるフィルタリング機能を使うことをおすすめします。
フィルタリングには、パソコンにフィルタリングソフトを追加して利用する方法と、インターネットプロバイダのフィルタリングサービスを利用する方法があります。お使いのプロバイダがフィルタリングサービスをおこなっているかは、各プロバイダにお問い合わせください。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。
詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする

これまでのパソコンで、インターネットを利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

今までダイヤルアップ接続を利用されていたかたは

このパソコンでは継続してダイヤルアップ接続を利用することはできません。引き続きインターネットを利用する場合は、ブロードバンド接続などにコースを変更する必要があります。コースの変更について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

ブロードバンドの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第5章の該当するページをご覧ください。

ワイヤレスLANで接続する

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」(112ページ)をご覧ください。

ブロードバンドの接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(124ページ)をご覧ください。
設定については、回線事業者やプロバイダから入手した資料にしたがっておこなってください。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(126ページ)をご覧ください。
設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(128ページ)をご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、次ページの「古いパソコンからデータを移す」へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンからデータを移す

「Windows転送ツール」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

「Windows転送ツール」で移行できるデータ

移行できるのは、主に次のデータです。

- ・ フォルダとファイル(音楽、画像、ビデオなど)
- ・ 電子メール設定、アドレス帳、メッセージなど
- ・ プログラム設定
- ・ ユーザーアカウントおよび設定
- ・ インターネット設定、お気に入り

移行される内容について詳しくは、「ヘルプとサポート」で、「Windows 転送ツール」を検索して「ファイルと設定を転送する:よく寄せられる質問」をご覧ください。

「Windows転送ツール」の利用条件

使用していたパソコンのOS(オーエス)が次のいずれかであること

- ・ Windows Vista
- ・ Windows XP
- ・ Windows 2000 ※

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、「Windows転送ツール」は利用できません。

※Windows 2000をご利用の場合、プログラムの設定とシステムの設定は移行できません。

1 「Windows転送ツール」を使う準備をする

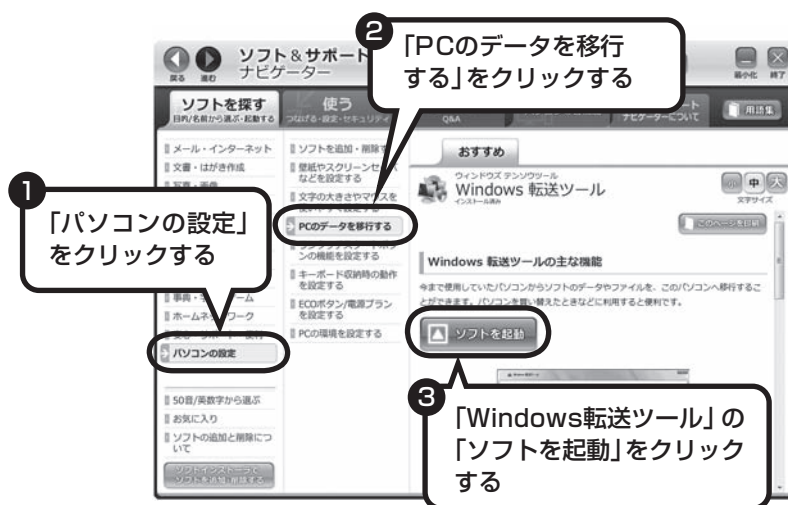
ご使用の状況によって、次のものが必要になる場合があります。

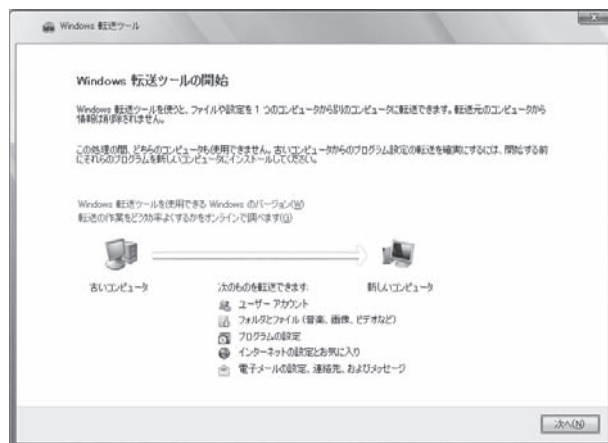
- 書き込み可能なCDまたはDVD
- USBフラッシュメモリまたは外付けハードディスク
- LANケーブル
- 転送ツールケーブル

- **使用可能なディスクについて詳しくは、「ヘルプとサポート」をご覧ください。**
- **HUB(ハブ)を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください(こちらの接続方法をおすすめします)。**
- **2台のパソコンをLANケーブルで直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

2 「Windows転送ツール」を起動する

デスクトップ画面の (ソフト＆サポートナビゲーター)をダブルクリックし、「ソフトを探す」をクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

3 画面の表示にしたがい操作する

画面の説明を読んで、「次へ」をクリックします。

その後は、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

周辺機器を使えるようにする

使用していたパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ(周辺機器を利用できるようにするためのソフト)がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

使用していたパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、使用していたパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカにお問い合わせください。

ソフトを移す

使用していたパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

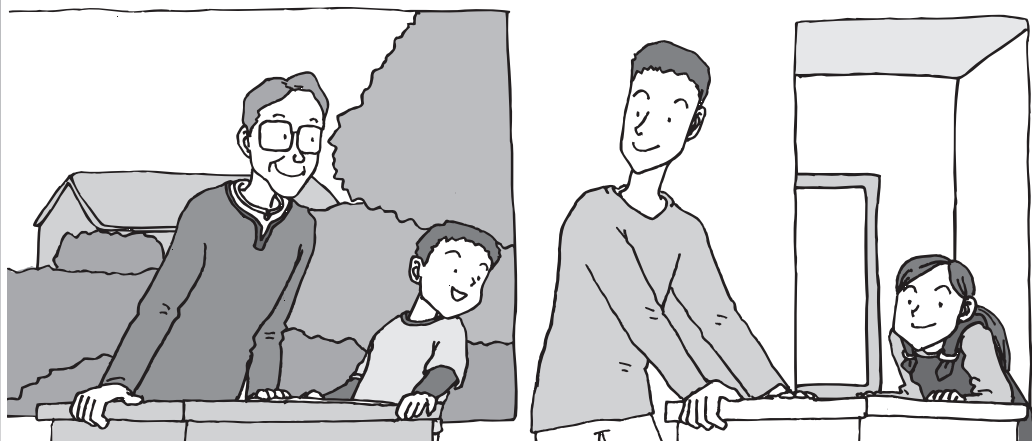
使用していたパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第7章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

複数のパソコンをつなぐ(ホームネットワークを作る)とどんなことができるのかを紹介しています。
また、Windows Media Centerのホームネットワーク機能を使って、映像や音楽を楽しむ方法についても説明しています。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

FTTHなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ・ユーティリティ」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。
1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

DLNAに対応した、ほかの機器の映像や音楽を楽しむ

パソコンに保存された音楽を書斎のオーディオで聴いたり、リビングのハードディスクレコーダーに録画されたテレビ番組をパソコンで楽しんだり。ホームネットワークを使えば、こんなふうに音楽や動画をもっともっと楽しむことができます。

この後のページで、DLNAを使ったホームネットワークについて説明しています。

DLNAとは

Digital Living Network Allianceの略称です。

ホームネットワークを使ってパソコンやAV機器などをつなぎ、コンテンツを相互に活用するための仕様を決める団体、そしてその仕様そのものの名前です。

DLNAに対応した製品同士は、ネットワークを通じて音楽・画像・動画といったコンテンツをやりとりすることができます。DLNAへの対応については、各製品のマニュアルでご確認ください。

NEC製パソコン（VALUESTAR、LaVie）では、2007年1月以降に発表された製品にインストールされている「DiXiM Media Client for Media Center」および、2006年4月発表の製品から2006年8月発表の製品にインストールされている「MediaGarage」がDLNAに準拠しています。また、それ以前に発売された製品でも、2005年9月以降に発表された製品であれば、http://121ware.com/から「MediaGarage」のアップデートモジュールを入手し、適用すればDLNAに対応します。

以降、このマニュアルでは、DLNAに対応したパソコンやAV機器を「DLNA製品」と表記します。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

ホームネットワークを構成するのに必要な機器

3台以上のパソコンをつなぐには、ルータまたはHUB（ハブ）という中継機器が必要になります。2股や3股のLANケーブルを使うのではありません。ホームネットワークとインターネットとの中継に利用する場合にはルータを使用するとよいでしょう。そのほか、接続できる台数によっても種類があります。目的に合わせて別途ご購入ください。

ホームネットワークの設定をするには

設定方法や必要な機器は、お使いのプロバイダやサービスにより異なります。
詳しくはプロバイダの説明書やルータの説明書をご覧ください。

ワイヤレスLANのセキュリティについて

ワイヤレスLANを使ってホームネットワークを構成することもできます。ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティ設定をしなければ外部のネットワークから不正にアクセスされたり、ウイルスなどに侵入されたりする危険があります。トラブルの防止のためにもセキュリティ対策をしっかりおこなってください。
使用できるワイヤレスLANのセキュリティと設定方法は、お使いのワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータによって異なります。詳しくは、ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータに添付のマニュアルをご覧ください。

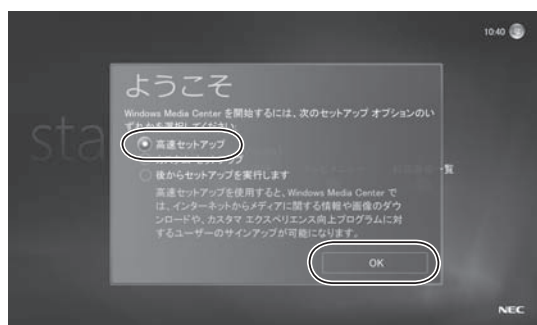
ホームネットワークで映像や音楽を楽しむ

Windows Media Centerのホームネットワーク機能でできること

Windows Media Centerのホームネットワーク機能は、DLNAに対応しています。ホームネットワークに、DLNAに対応したほかのパソコン、オーディオ、ハードディスクレコーダーなどを接続すれば、これらの機器に保存されている音楽･画像･動画などのコンテンツを、このパソコンで楽しむことができます。逆に、このパソコンに保存されたコンテンツを、それらの機器で視聴することもできます。

Windows Media Centerをセットアップしていないときは

Windows Media Centerをはじめて使うときは、セットアップが必要です。
セットアップとは、お使いになっているパソコンやインターネットの環境などに合わせてWindows Media Centerを設定することです。

1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックする
2. 「高速セットアップ」が選ばれていることを確認し、「OK」をクリックする

Windows Media Centerはリモコンでも操作できます。詳しくは『活用ブック』の「Windows Media Centerでデジタルメディアを制覇しよう」をご覧ください。

リモコンを使うときの注意(デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ)

- リモコンの【サブメニュー】は、Windows Media Centerのヘルプなどでは【情報】と記載されている場合があります。

・画面全体に表示(フルスクリーン表示)されるソフトを使用しているときは、リモコンのボタンを押してソフトを起動させないでください。この場合は、フルスクリーン表示されているソフトを終了させてから、リモコンのボタンでソフトを起動してください。

DLNAの設定をする

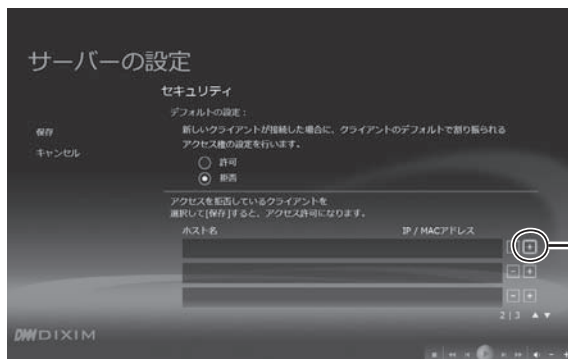
パソコンを含むネットワーク上の機器のデータは、基本的にほかの機器からは利用できないよう保護されています。DLNA製品を活用するためには、それぞれの機器のコンテンツがほかの機器から利用できるように設定する必要があります。ここでは、このパソコンのコンテンツをほかのDLNA製品から利用できるようにする方法について説明します。

・あらかじめホームネットワークを作っておいてください。
・ホームネットワークを作るときは、「スタート」-「ネットワーク」-「ネットワークと共有センター」-「カスタマイズ」をクリックして表示される画面でネットワークの場所の設定を「プライベート」にしてください。手順の途中で「ユーザーアカウント制御」が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする

2 画面を右クリックして表示される「設定」をクリックする

3 「サーバーの設定」-「セキュリティ」をクリックする

4 「アクセスを拒否しているクライアントを選択して[保存]すると、アクセス許可になります。」の ＋ － でアクセスを許可したいクライアントを選ぶ

クリックするとホームネットワーク上のパソコンが追加されます。

＋ をクリックするとホームネットワーク上のパソコンが表示されます。公開しないパソコンは － をクリックして非表示にしてください。

- 一度許可したクライアントは表示されません。
- 一度に新たに設定できるのは5台までです。
- クライアントによっては「ホスト名」が表示されないことがあります。

5 「保存」をクリックする

これでコンテンツを公開する設定は完了です。

一度アクセス許可したパソコンをアクセス拒否にするときは、同じ画面の「アクセスを許可しているクライアントを選択して[保存]すると、アクセス拒否になります。」の ＋ をクリックして、アクセス拒否にするパソコンを選んで「保存」をクリックしてください。

「サーバーの設定」の「ServerToolを起動する」をクリックして表示される画面の「公開フォルダ」タブから公開するフォルダなど、より細かな設定をおこなうこともできます。

ご購入時の状態では「パブリックのミュージック」、「パブリックのピクチャ」、「パブリックのビデオ」の3つのフォルダが公開されます。必要に応じて、ユーザーの「ミュージック」、「ピクチャ」などのフォルダを公開してください。

- ほかのDLNA機器の設定については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。
- 公開されたコンテンツは、このパソコンから視聴できるようになります。

コンテンツを視聴する

ホームネットワークに公開されたコンテンツ(音楽・画像・ビデオ(動画))は、ほかのDLNA製品で視聴することができます。
ここでは、ホームネットワークに公開された曲を聴く手順を例に、このパソコンのWindows Media Centerを使ってほかのDLNA製品のコンテンツを視聴する操作について説明します。

- あらかじめ、対象となるDLNA製品へアクセスできるように設定しておいてください。
- DLNA製品の設定方法については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。
- このパソコン以外のDLNA製品でコンテンツを視聴するときの操作については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする

ホームネットワークに公開された曲の一覧が表示されます。

コンテンツを公開しているにもかかわらず、目的の曲(コンテンツ)が表示されないときは、「接続した機器を選んでコンテンツを視聴する」(155ページ)をご覧ください。

2 「アルバム」をクリックして、アルバムの一覧から再生したい曲が含まれたアルバムをクリックする

「アルバムの詳細」が表示されます。

ここでは例として「アルバム」を選んでいますが、「アーティスト」や「ジャンル」などを選んで、その項目に分類された曲を再生することもできます。また、「検索」を選んでキーワードで曲やアルバムを検索することもできます。詳しくは「コンテンツを探す」(154ページ)をご覧ください。

3 曲名(トラック名)をクリックする

「曲の詳細」が表示されます。

「アルバムの詳細」で「アルバムを再生」をクリックすると、アルバム全体の再生が始まります。

4 「曲を再生」をクリックする

曲の再生が始まります。
再生中は、Windows Media Centerの「ミュージック」で、このパソコンに保存された曲を再生しているときと同様に、停止・スキップ(次の曲あるいは前の曲に移動)・一時停止などの操作ができます。

- **コンテンツの種類や、コンテンツが保存されているDLNA製品の性能などによって、再生できなかったり、早送りや巻き戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。**
- **「ピクチャ・ビデオ」で写真を再生しながら「ホームネットワーク」の「音楽」で曲を再生したり、「ホームネットワーク」の「画像」で写真を再生しながら「ミュージック」で曲を再生することはできません。**

ホームネットワークに公開された画像やビデオ(動画)を視聴するときは、手順1で「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」または「ビデオ」をクリックしてください。

コンテンツを探す

キーワードを入力して、ホームネットワークに公開されたコンテンツを検索できます。
ここでは曲を探す手順を例に、コンテンツを検索する操作について説明します。

それぞれのコンテンツに登録された情報に基づいて検索されます。情報が登録されていないコンテンツは検索の対象になりません。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする**

2 **「検索」をクリックし、下に表示された検索文字列の入力欄をクリックする**

3 **検索用のキーワードを入力する**

最初の文字を入力すると検索が始まり、検索の結果が右側に表示されます。

曲名などコンテンツそのものの名前のほか、アルバム名やアーティスト名なども検索の対象となります。

4 **検索結果をクリックする**
「曲の詳細」や「アルバムの詳細」などが表示されます。
この後の操作については、「コンテンツを視聴する」の手順3以降(153ページ)をご覧ください。

コンテンツによっては、検索結果をクリックすると、すぐ再生が始まるものもあります。

DLNA製品によっては、キーワードによる検索をおこなうことができません。
その場合は、次の「接続した機器を選んでコンテンツを視聴する」をご覧ください。

接続した機器を選んでコンテンツを視聴する

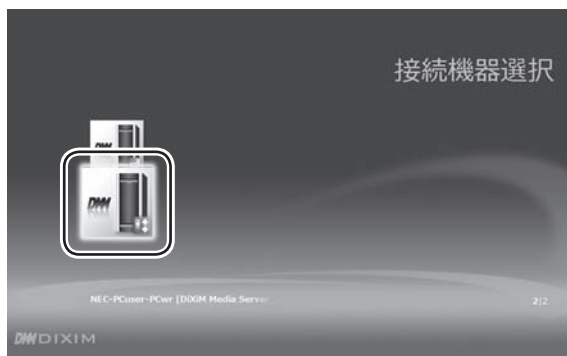
コンテンツが保存されているDLNA製品によっては、公開されたコンテンツが「ホームネットワーク」の「音楽」、「画像」、「ビデオ」に表示されないことがあります。「コンテンツを視聴する」の操作で目的のコンテンツが見つからないときは、DLNA製品の名前を選んでコンテンツを探すことができます。

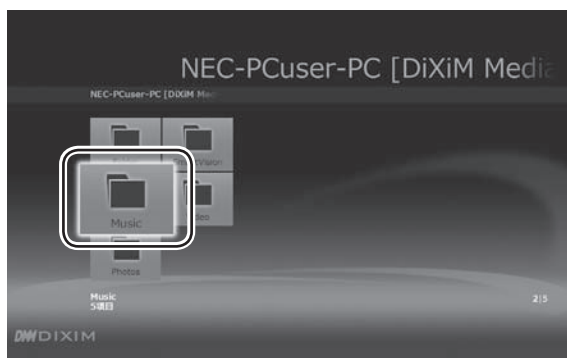
ここでは、あるDLNA製品に保存された曲を聴く手順を例に、DLNA製品を選んで目的のコンテンツを視聴する操作について説明します。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「接続機器選択」をクリックする

ホームネットワークにつながっているDLNA製品の一覧が表示されます。

DLNA製品が表示されないときは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「LAN」をご覧になり、DLNA製品の接続とホームネットワークの設定を確認してください。

2 再生したい曲が保存されているDLNA製品をクリックする

選んだDLNA製品のフォルダ(公開されているフォルダ)が表示されます。

3 再生したい曲が保存されているフォルダをクリックする

曲の一覧(そのフォルダに保存されているコンテンツの一覧)が表示されます。

さらにフォルダや「アルバム」などの項目が表示されたときは、手順3の操作を繰り返し、曲を表示させます。

4 再生したい曲をクリックする

曲の再生が始まります。
再生中は、Windows Media Centerの「ミュージック」で、このパソコンに保存された曲を再生しているときと同様に、リモコンのボタンで停止・スキップ(次の曲あるいは前の曲に移動)・一時停止などの操作ができます。

ホームネットワークに公開された画像やビデオ(動画)を視聴するときは、手順3で画像やビデオ(動画)が保存されているフォルダをダブルクリックしてください。視聴中の操作は、Windows Media Centerの「ピクチャ・ビデオ」で、このパソコンに保存された写真や動画を再生しているときと同様です。

コンテンツの種類や、コンテンツが保存されているDLNA製品の性能などによって、再生できなかったり、早送りや巻き戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。

コンテンツをダウンロード／アップロードする

公開されているほかの機器のコンテンツを本機にダウンロードしたり、本機で公開しているコンテンツをほかの機器にアップロードしたりできます。
ここでは曲をダウンロードする手順を例に説明します。

※ダウンロード、アップロードは、2008年1月以降に発表されたVALUESTAR/LaVieの間でのみ利用できます。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする**

SmartVisionで録画した地上アナログ放送番組をダウンロード/アップロードする場合は、あらかじめSmartVisionのファイル出力機能を使って、ファイルを公開フォルダ(パブリックのビデオ)に移動させておいてください。

2 **「サーバー」をクリックし、表示されたサーバーの中からまたはが表示されているサーバーをクリックする**

そのサーバーで公開されているアルバムが表示されます。

またはが表示されていても、コンテンツによってはダウンロードできない場合があります。

3 **ダウンロードしたいアルバムを右クリックし、表示されるメニューから「ダウンロードする」を選ぶ**

確認のメッセージが表示された場合は、「コピー」または「ムーブ」をクリックします。ダウンロードが開始されます。

- ダウンロード中も、Windows Media Centerの機能を使うことができます。
- ダウンロードが終わると、「ダウンロードが完了しました」のメッセージが表示されます。
- 曲を1曲だけ選んでダウンロードすることもできます。

・ ダウンロードの状態を確認したり、中止したりする場合は、ダウンロード中のアルバムを右クリックし、表示されるメニューから「ダウンロードを確認する」、「ダウンロードを中止する」をクリックしてください。

・ ホームネットワークに公開された画像やビデオ(動画)をダウンロードするときは、手順1で「画像」や「ビデオ」を選んでください。

・ ダウンロードしたコンテンツは、ログオンしているユーザーの「ピクチャ」、「ミュージック」、「ビデオ」のフォルダにそれぞれ保存されます。各フォルダは、「スタート」-「(ユーザー名)」から開くことができます。

・ ダウンロード/アップロード中にWindows Media Centerを終了した場合、ダウンロード/アップロードも中止されます。

アップロードの準備

本機からほかの機器にコンテンツをアップロードする場合は、あらかじめ次の準備をしてください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「接続機器選択」画面を表示する

2 青色のまたは緑色のが表示されている機器の中からアップロードしたい機器を右クリックし、表示されるメニューから「アップロード先として登録」をクリックする

オレンジ色のまたはが付きます。

・ コンテンツをアップロードする場合は、「ホームネットワーク」でアップロードするコンテンツの種類(「音楽」など)を選び、「サーバー」からが表示されている機器をクリックしてください。アップロードしたいコンテンツを右クリックし、表示されるメニューから「アップロードする」をクリックし、「コピー」または「ムーブ」をクリックすると手順2で選んだ機器にコンテンツがアップロードされます。

・ アップロードされたコンテンツは「パブリック」の「Uploaded Files」に保存されます。

・ コンテンツによっては、アップロードできない場合があります。

コンテンツを印刷する

ホームネットワークに公開されているコンテンツ(画像)を印刷することができます。

印刷の設定をする

印刷する前に、使用するプリンタを選びます。

あらかじめDLNAに対応したプリンタをホームネットワークに接続しておいてください。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」をクリックする**

ホームネットワークに公開された画像の一覧が表示されます。

2 **画像を右クリックして、表示されるメニューから「設定」を選ぶ**

「設定」画面が表示されます。

3 **「印刷の設定」をクリックする**

「印刷の設定」画面が表示されます。

4 **「プリンタの選択」の「+」または「−」をクリックしてプリンタを選ぶ**

5 **「保存」をクリックする**

これで印刷の設定は完了です。

- 一度設定を保存すれば、次に印刷するときにはプリンタを選ぶ必要はありません。
- 使用するプリンタを複数設定しておくことはできません。異なるプリンタから印刷したいときは、「プリンタの選択」で選びなおしてください。

印刷する

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」をクリックする

ホームネットワークに公開された画像の一覧が表示されます。

2 印刷したい画像を右クリックし、表示されるメニューから「印刷」を選ぶ

画像の印刷が始まります。

- 1枚ずつ印刷してください。印刷中に、連続して印刷の操作をすることはできません。
- 撮影日やアルバムなどのフォルダを選んでいるときは、印刷できません。
- 印刷中に右クリックし、表示されるメニューから「印刷状況を確認する」を選べば、印刷中の画像を確認できます。
- 印刷を中止するときは、右クリックして表示されるメニューから「印刷を中止する」を選んでください。また、印刷中にWindows Media Centerを終了すると、印刷が中止されます。なお、プリンタによっては印刷が中止されないことがあります。
- ご使用のサーバーによっては、プリンタにコンテンツを公開する操作が必要になることがあります。このパソコンでの設定について詳しくは、「スタート」-「すべてのプログラム」-「DiXiM Media Server for NEC」-「DiXiM Media Server Toolのヘルプ」をご覧ください。
- 印刷用紙は、用紙サイズで「L版」または「A4」を選択している場合は写真紙、「ハガキ」を選択している場合はインクジェットハガキのご使用をおすすめします。

ホームネットワークを使って、録画したデジタル放送番組を楽しむ

次の条件を満たすモデルは、DTCP-IP規格を使って、録画したデジタル放送番組をホームネットワーク内のほかの機器に配信したり、ホームネットワーク内のほかの機器で録画されたデジタル放送番組を視聴したりすることができます。

デジタル録画番組をネットワーク経由で配信／視聴できるモデルについて

デジタル録画番組を配信できるモデルには配信用のソフトが、視聴できるモデルには視聴用のソフトが、それぞれあらかじめインストールされています。

◆配信できるモデル

必要条件

配信用ソフト「DiXiM Media Server for NEC（DTCP-IP 対応版）※1」インストール済み

※1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「DiXiM Media Server for NEC」-「DiXiM Media Server Tool」をクリックして表示される「DiXiM Media Server Tool」に、「デジタル録画番組の配信」タブが表示される。

◆視聴できるモデル

必要条件

視聴用ソフト「Digital Video Network Player※2」インストール済み

※2 Windows Media Centerの「ホームネットワーク」に「デジタル録画番組」という項目が表示される。

- **ネットワークの速度が24Mbpsを下回ると、映像が乱れる（コマ落ちする）ことがあります。特に、ワイヤレスLAN（無線LAN）をお使いの場合はご注意ください。**
- **デジタル録画番組をネットワーク経由で配信／視聴するには、ライセンスの取得時にインターネット接続が必要となります。**

なお、録画したデジタル放送番組をネットワークを使って配信したり視聴したりするときは、著作権保護のためのライセンスの取得が必要です。

配信時および視聴時のライセンス取得の操作については、「デジタル放送番組を配信する」（162ページ）および「デジタル放送番組を視聴する」（163ページ）をご覧ください。

ホームネットワークについては、「Windows Media Centerのホームネットワーク機能でできること」（150ページ）をご覧ください。

DTCP-IPとは

デジタル放送など、著作権が保護されているコンテンツを、家庭内のネットワークを使って伝送するための技術規格です(著作権保護技術「DTCP(Digital Transmission Content Protection)」をIPネットワークに適用したもの)。
ネットワークに送り出すコンテンツを暗号化したり、コンテンツがホームネットワークからインターネットなど外部のネットワークへ流出することを防いだりすることで、コンテンツの著作権を保護します。

デジタル放送番組を配信する

ホームネットワークを使って、録画したデジタル放送番組を配信するときは、著作権保護のためのライセンスを取得する必要があります。ここでは、そのライセンスの取得(アクティベーション)の操作について説明します。

- **ライセンスを取得するときは、インターネットに接続する必要があります。**
- **マウスで操作してください。**

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「DiXiM Media Server for NEC」-「DiXiM Media Server Tool」をクリックする
「DiXiM Media Server Tool」が表示されます。

2 「デジタル録画番組の配信」タブをクリックする

3 キーボードを使って、別紙の『デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ』に記載されたライセンスキーを入力する

4 「ライセンスを取得する」をクリックする
「ライセンス認証の利用規約」が表示されます。

5 **表示された内容を確認して「同意する」をクリックする**

ライセンスの取得が始まります。完了すると、ライセンスの取得完了を告げるメッセージが表示されます。

6 **「OK」をクリックする**

これで、録画したデジタル放送番組を配信するためのライセンスの取得は完了です。

SmartVisionがインストールされたモデルでは、SmartVisionでコンテンツを簡易編集できます。このコンテンツをほかのDTCP-IP対応機器で再生すると、編集部分の前後で一瞬画面が真っ暗になったり、映像が乱れたりすることがあります。

デジタル放送番組を視聴する

ライセンスを取得する

ホームネットワークを使って録画されたデジタル放送番組を視聴するときは、著作権保護のためのライセンスを取得する必要があります。

ここでは、そのライセンスの取得の操作について説明します。

- **ライセンスを取得するときは、インターネットに接続する必要があります。**
- **あらかじめ、視聴したいデジタル放送番組が録画された製品で、配信するための設定をおこなってください。設定方法については各製品のマニュアルをご覧ください。**
- **このパソコンで録画したデジタル放送番組を「ホームネットワーク」の「デジタル録画番組」で視聴するときも、このライセンスの取得が必要です。**
- **ライセンスの取得の操作は、マウスを使っておこなってください。**
- **ライセンスの取得は、はじめて視聴するときに1度だけおこないます。ただし、パソコンを再セットアップしたときは、ライセンスを取得しなおす必要があります。**

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「デジタル録画番組」をクリックする**

ホームネットワークに配信されている録画されたデジタル放送番組の一覧が表示されます。

フォルダが表示されたときは、フォルダを選んでクリックし、デジタル放送番組の一覧を表示させます。

2 視聴したいデジタル放送番組をクリックする

著作権保護のためのライセンスを取得するかどうか確認する画面が表示されます。

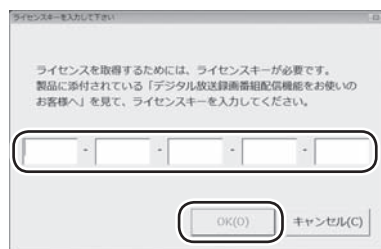
すでにライセンスを取得しているときは、そのまま選んだデジタル放送番組の再生が始まります。

3 「はい」をクリックする

「使用許諾」画面が表示されます。

4 表示された内容を確認して「同意する」をクリックする

ライセンスキーを入力する画面が表示されます。

5 別紙の『デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ』に記載されたライセンスキーを入力し、「OK」をクリックする

インターネット経由でライセンスを取得するかどうか確認する画面が表示されます。

6 「はい」をクリックする

ライセンスの取得が始まります。

完了すると、ライセンスの取得完了を告げるメッセージが表示され、選んだデジタル放送番組の再生が始まります。

これで、録画されたデジタル放送番組を視聴するためのライセンスの取得は完了です。

デジタル放送番組を視聴する

ここでは、ホームネットワークを使って、録画されたデジタル放送番組を視聴する操作について説明します。

- あらかじめ、視聴したいデジタル放送番組が録画された製品で、配信するための設定をおこなってください。設定方法については各製品のマニュアルをご覧ください。
- このパソコンで録画したデジタル放送番組を「ホームネットワーク」-「デジタル録画番組」で視聴するときは、録画したデジタル放送番組を配信するためのライセンスの取得と、視聴するためのライセンスの取得が必要です(ライセンスキーはいずれも同じものを入力します)。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「デジタル録画番組」をクリックする

ホームネットワークに配信されている録画されたデジタル放送番組の一覧が表示されます。

フォルダが表示されたときは、フォルダをクリックして、デジタル放送番組の一覧を表示させます。

2 視聴したい番組をクリックする

録画されたデジタル放送番組の再生が始まります。Windows Media Center の「ピクチャ・ビデオ」で、このパソコンに保存された動画を再生しているときと同様に、停止・早送り・早戻し・一時停止・スキップなどの操作ができます。

第8章

パソコン内部に取り付ける

メモリ(別売)を増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM(ラム)ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める
このパソコンでは、最大4Gバイトまで増やせます。

▼

必要なものを準備する
必要な増設RAMボードなどを準備します。

▼

増設RAMボードを取り付ける
本体のカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

▼

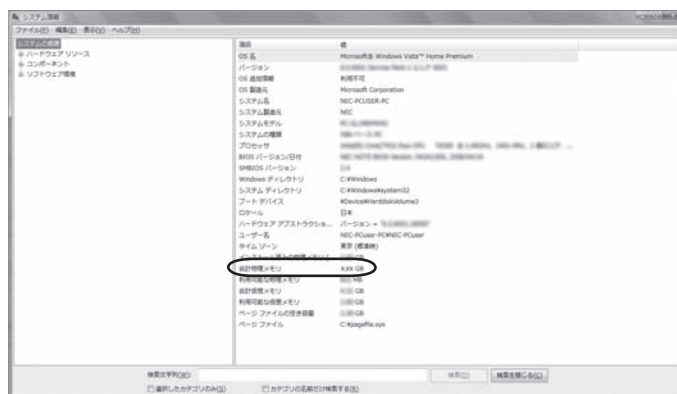
メモリが増えたかどうか確認する
本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

最大4Gバイトのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。また、装置構成によって利用可能なメモリ容量は異なります。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」をクリックする**

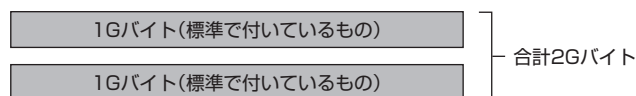
「システム情報」が表示されます。

メモリ容量は実際より少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリの増やし方の例

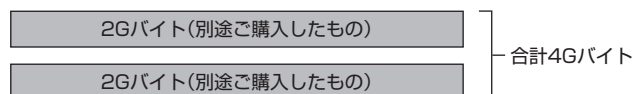
このパソコンには、増設RAMボードを差し込むスロット(コネクタ)が2つ用意されています。
このパソコンはデュアルチャネルに対応しています。

デュアルチャネルとは、同容量の2枚のメモリに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を高速化する技術のことです。

2つのメモリスロットに異なる容量のメモリを搭載するメモリ構成はサポートしておりません。
ここでは、標準で1GバイトのRAMボードが2枚付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

1Gバイト(標準で付いているもの)	合計2Gバイト
1Gバイト(標準で付いているもの)	

標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードに取り替えることで、メモリを増やします。メモリは、最大で4Gバイト(2Gバイトの増設RAMボード×2枚)まで増やすことができます。

● 4Gバイト(最大)にする場合
標準で付いているRAMボードを取り外し、2Gバイトの増設RAMボードを2枚追加します。この場合、2Gバイトずつのデュアルチャネルで動作します。

2Gバイト(別途ご購入したもの)	合計4Gバイト
2Gバイト(別途ご購入したもの)	

- **実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。**
- **デュアルチャネルメモリの性能を最大限に引き出すために、2つのスロットに同容量のメモリを搭載しています。1Gバイト+2Gバイトでも動作しますが、一部のソフトにおいて、十分な性能がでない場合があるため、動作保証しておりません。増設時は、2つのスロットが同容量になるように、2Gバイト×2への増設をおすすめします。**

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。このパソコンでは次の増設RAMボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PC-AC-ME039C	2Gバイト

（DDR3 SDRAM/DIMM、PC3-8500タイプ）

・上記のタイプ以外の増設RAMボードには、このパソコンで使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。

・市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

・増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
・増設RAMボードの金属端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

増設RAMボードの取り付け方

RAMボードを差し込むときは、強い力が必要になることがありますので指をぶつけたり、切ったりしないように、注意して作業してください。

増設RAMボードを取り付けるときは、本体上部のカバーを開けて作業します。

1 パソコンの電源を切る

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る(シャットダウンする)」(68ページ)の手順で電源を切ってください。

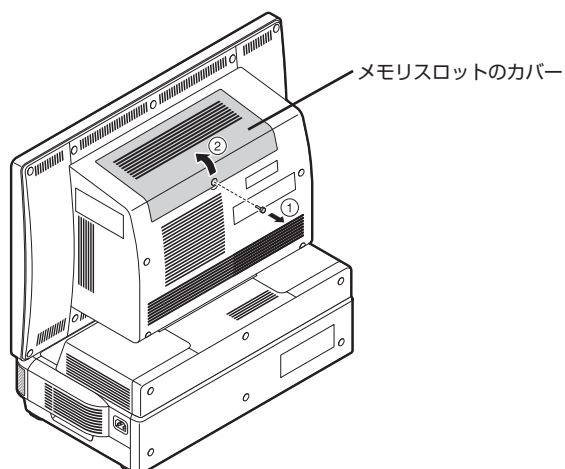
電源を切った直後は本体内部が高温になっているので、30分以上たってから取り付け、または取り外しをおこなってください。

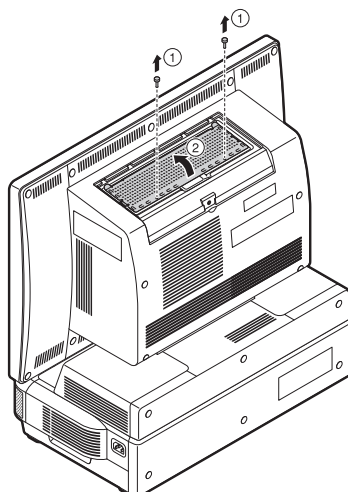
2 アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて、静電気を取り除く

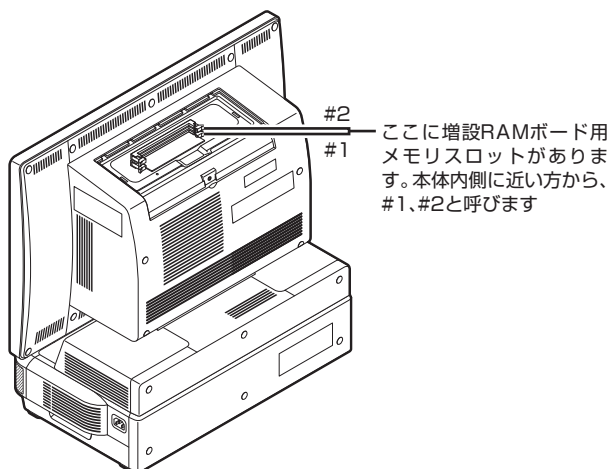
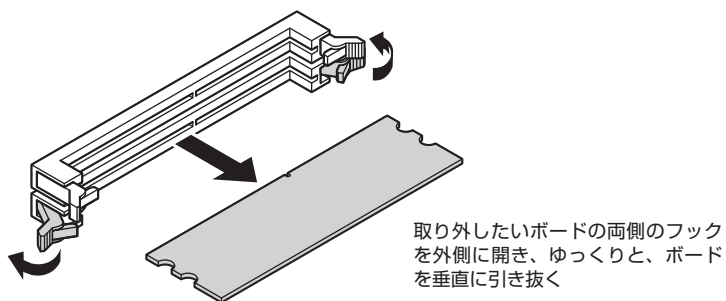
増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になります。

3 電源コードなど、本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

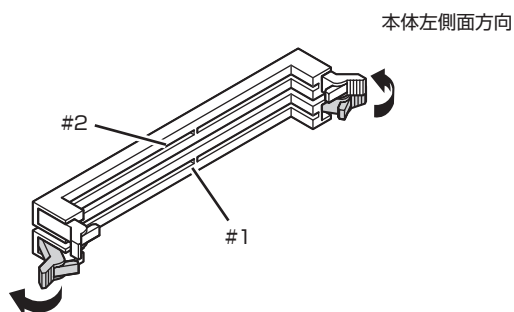
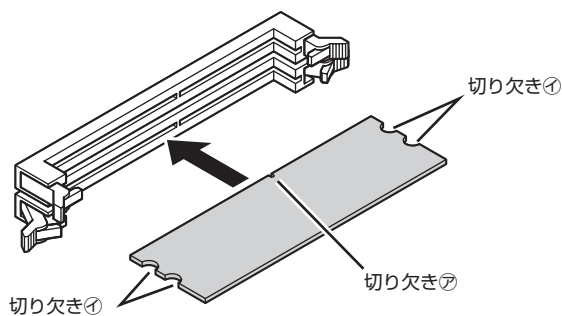
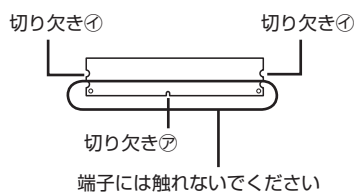
4 **図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、メモリスロットのカバーを持ち上げて取り外す**

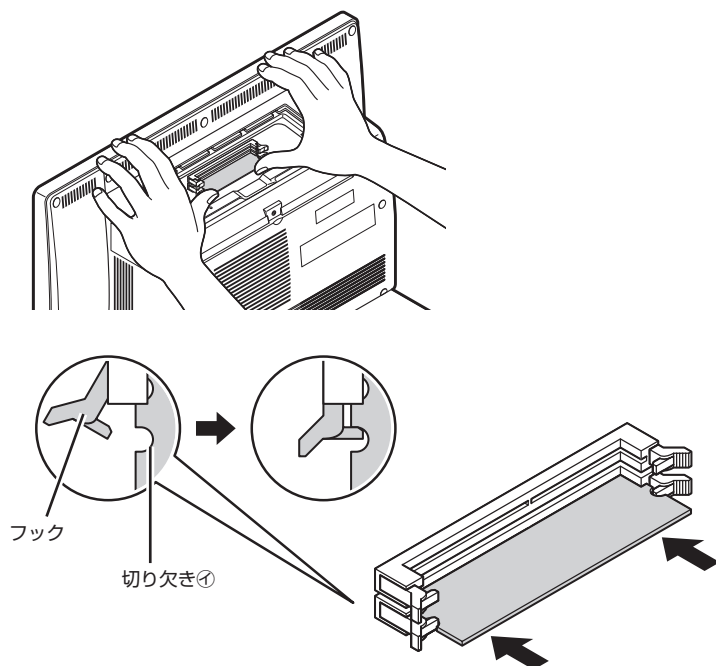
内側にもカバーが付いています。

取り外したネジは、なくさないように気を付けてください。

5 **図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、内側のカバーを取り外す**

取り外したネジは、なくさないように気を付けてください。

ここで、増設RAMボード用のメモリスロットの位置を確認しておいてください。

メモリスロット両方にメモリが取り付けられているときは、片方または両方のメモリを取り外してから、別途用意したメモリを取り付けます。

- フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。
- メモリは大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いていたRAMボードは、大切に保管してください。再セットアップをおこなうときに必要となる場合があります。
- メモリスロットの周りの部品を傷つけないよう気を付けてください。

6 ボードを差し込むメモリスロットの両側のフックを外側に開く

この図では、実際に差し込まれているRAMボードを省略しています。

7 切り欠き㋐の方向とメモリスロットにあるミゾの位置が合うように、空いているメモリスロットにボードを垂直に差し込む

増設RAMボードは、両手で持ってください。

メモリスロットのミゾとボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

8 **次の図のように本体の上面を支えたまま、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、親指で増設RAMボードを奥まで押し込む**

差し込んだ後、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑にかかっているか確認してください。
かかっていない場合には、指でフックを切り欠き㋑に引っかけてロックしてください。指でロックさせる場合には、強い力は不要です。うまくロックできないときは、無理に押し込まずに、もう一度ボードを差しなおしてください。

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

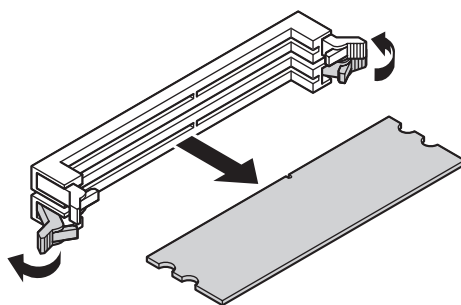
9 **内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける**

10 **カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体上部に取り付ける**

11 **手順3で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける**
ケーブルの接続については、「第2章　電源を入れる前に接続しよう」をご覧ください。

RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1 ～ 5をおこない、カバーと内側のカバーを取り外す

2 メモリスロットの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜く

・ フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。

・ メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いているRAMボードは、大切に保管してください。再セットアップをおこなうときに必要となる場合があります。

・ メモリスロットの周りの部品を傷つけないよう気を付けてください。

3 内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける

4 カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体上部に取り付ける

5 「増設RAMボードの取り付け方」の手順3で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

ケーブルの接続については、「第2章　電源を入れる前に接続しよう」をご覧ください。

増やしたメモリ容量を確認する

パソコンの電源を入れ、「メモリを確認する」(169ページ)の手順で増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

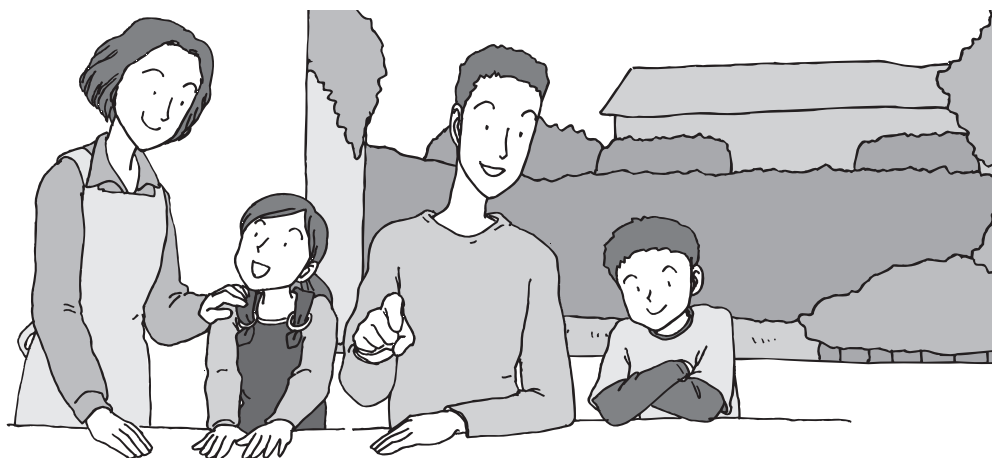
メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか？**

第 9 章

このパソコンのおすすめ機能

ここでは、このパソコン特有の機能について説明しています。パソコンの設定が終わったら、この章の説明を読んで、このパソコンを使いこなしてください。

外出先から接続する

外出先から安全にこのパソコンに接続するための設定を紹介します。

セーフコネクトとは

ほかのパソコンから、このパソコンに接続し、このパソコンのデータやソフトを利用するためのソフトです。インターネットを介して、このパソコン(以降、サーバPC)と外出先のパソコン(以降、クライアントPC)を仮想的な専用線で接続するVPN(Virtual Private Network)ソフトの一種です。外出先からでも、あたかもホームネットワークで接続したかのように、サーバPCにアクセスできます。
ほかのインターネットVPNソフトとは異なり、電子メールを使用して接続/切断、アドレス解決をおこなうのが特長です。そのため、電子メールのアカウントが必要になります。

- セーフコネクトに必要な電子メールのアカウントは、セーフコネクト専用でなくても利用可能です。
- 使用可能なメールは、SMTPとPOP3で通信する種類のものです。Gmail(SMTP over SSL/POP over SSL)やLive Mail(webメール)は使用できません。
- セーフコネクトでは、DTCP-IP配信はできません。
- セーフコネクトを使用する場合は、サーバPCをルータに接続する必要があります。

セーフコネクトを利用するために

クライアントPCについて

このパソコンには、「セーフコネクト／サーバ」がハードディスクに入っています。セーフコネクトで接続するためには、クライアントPC側に「セーフコネクト／クライアント」がインストールされている必要があります。「セーフコネクト／クライアント」は、2008年5月以降に発売されたLaVie J、LaVie Nのハードディスクに入っています。

2008年2月以降に発売されたLaVie Jや2008年8月以降に発売されたLaVie Nにも「セーフコネクト／クライアント」がハードディスクに入っています。この「セーフコネクト／クライアント」を利用するには、アップデートモジュールを適用する必要があります。アップデートモジュールは、http://121ware.com/をご覧ください。

ネットワークの条件

インターネット(ブロードバンド)接続環境は整っていますか？

サーバPCまたはクライアントPCのうち、少なくとも一つはグローバルIPアドレスを取得できる環境が必要です。

ホームネットワークは構築しましたか？

サーバPCにクライアントを登録するときは、サーバPCをルータに接続し、サーバPCとクライアントPCを同じネットワークに接続する必要があります。

- **インターネット接続について詳しくは、「第5章　これからインターネットを始めるかたへ」をご覧ください。**
- **ホームネットワークについて詳しくは、「第7章　前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」をご覧ください。**

セーフコネクトの設定をおこなう

サーバPCとクライアントPCで、それぞれ初期設定をおこないます。設定方法について詳しくは、「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」をご覧ください。「セーフコネクト／サーバ」は、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「セーフコネクト／サーバ」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。その後、画面右下の を右クリックし、表示されたメニューから「設定」をクリックしてください。「セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティ」と「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」が表示されます。「セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティ」の「初期設定」をクリックし、設定をおこなってください。

「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」は、「セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティ」を起動すると同時に表示されます。（初期設定されていない場合のみ）

セーフコネクトに関する注意

セーフコネクトを利用する場合、次の点に注意してください。

サーバPCの状態によっては、サーバPCの準備が完了する前にセーフコネクト接続が失敗してしまうことがあります。この場合は、再度セーフコネクト接続を実行してください。

一般的に自宅で使っているプロバイダとは別のプロバイダからメールを送信するためには、宅内でのものとは異なるメール設定が必要になります（SMTP認証など）。セーフコネクト接続では、この宅外用のメール設定をある程度自動でおこなっていますが、セキュリティソフトをお使いの場合、この自動設定によるメール送信がおこなわれない場合があります。
その場合は「セーフコネクト/クライアント」のメール設定を、自宅で使っているプロバイダ以外からメール送信できる設定に変更してください。
設定する内容はお使いのプロバイダで確認してください。

付　録

CPRMのアップデート

ここでは、「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」、「WinDVD BD for NEC」でCPRMコンテンツを再生するためのアップデート手順を説明します。

CPRM Packを無償ダウンロードする

・ CPRMのアップデートには、インターネットに接続できる環境が必要です。

・ 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」で「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする

「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」が起動します。

2 メイン画面で右クリックし、表示されたメニューから「CPRM Packをダウンロード」をクリックする

自動的にInternet Explorerが起動し、登録画面が表示されます。
InterVideoに登録されている電子メールアドレスとパスワードを入力して「サインイン」をクリックします。

・ InterVideoに登録されていない場合は、「登録」をクリックし登録をおこなってください。

・ DVD/CDドライブにCPRMコンテンツの含まれるディスクをセットして表示された画面で「OK」をクリックしても、登録画面が表示されます。

3 「DownloadNow」をクリックして、CPRM Packをダウンロードする

4 「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を終了する

5 ダウンロードしたCPRM.exeを起動する

インストールが開始されます。画面の指示にしたがい操作してください。

6 「Pack is successfully installed.」と表示されたら、「OK」をクリックする

7 「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を起動し、CPRMコンテンツを含むディスクをセットする

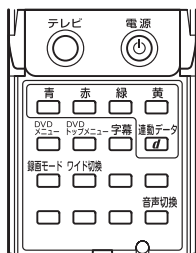
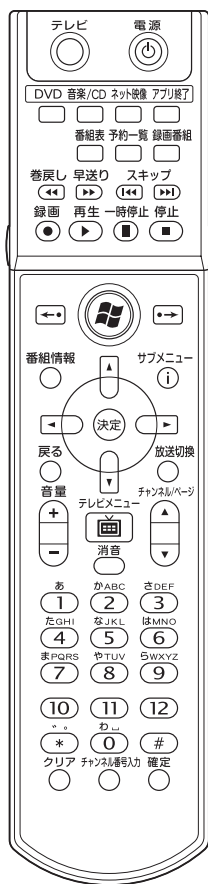
8 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作する

「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」が再起動され、再生が始まります。

リモコンを使えるソフトについて

デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのリモコンについて説明します。

このパソコンでは、次のソフトでリモコンを使うことができます。

・「Windows Media Center」 ・「WinDVD BD for NEC」 ・「WinDVD AVC for NEC」
・「WinDVD for NEC」 ・「BeatJam」 ・「スカパー! Netてれび」
・「SmartPhoto(スライドショー機能利用時)」
※ご購入いただいたモデルによって、添付されるソフトは異なります。

リモコンのフタを開けた状態

リモコンで使えるソフト(1)

ボタン	Windows Media Center※1	WinDVD※3
【アプリ終了】	ソフトの終了	ソフトの終了
【DVD】	WinDVD※3の起動	WinDVDの起動
【音楽/CD】	Windows Media Centerの音楽起動	―
【ネット映像】	Windows Media CenterのBIGLOBEストリーム起動	―
【巻戻し】	巻戻し(押すごとに2倍速→3倍速→4倍速→1倍速…と変化)	巻戻し※4
【早送り】	早送り(押すごとに2倍速→3倍速→4倍速→1倍速…と変化)	早送り※4
【スキップ】	前後のチャプターに移動	前後のチャプターに移動
【再生】	再生	再生
【一時停止】	一時停止	一時停止
【停止】	停止	停止
【Media Center】	Windows Media Centerを起動	Windows Media Centerを起動
【サブメニュー】	サブメニューを表示※2	サブメニューを表示
【矢印】	項目の移動	項目の移動
【決定】	決定	決定
【戻る】	ひとつ前の画面に戻る	―
【音量】	音量を変更	音量を変更※5
【消音】	消音	消音
【1】〜【9】、【0】	文字入力や検索で使用します。	チャプターの選択
【クリア】	選択したファイルの削除※2	―
【確定】	決定	―
【青】、【赤】、【緑】、【黄】	―	ブルーレイディスクによって、使用する場合があります。詳しくはディスクに添付されているマニュアルをご覧ください。
【DVDメニュー】	―	再生されている映像のメニューを表示
【DVDトップメニュー】	―	トップメニューを表示
【字幕】	―	字幕のあるディスクで、字幕の言語や表示する/しないを切り換え
【ワイド切換】	―	画面表示を切り換え
【音声切換】	―	主音声/副音声を切り換え

※1:「ホームネットワーク」の操作は異なります。詳しくは、「DiXiM Video Network Player」、「DiXiM Media Cliant for Media Center」のヘルプをご覧ください。
※2:メニューによっては、動作しない場合があります。
※3:「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を指します(ご購入のモデルによって添付されるソフトは異なります)。
※4:押すたびに速度が変化します(速度はディスクによって異なります)。
※5:Windowsの音量が変化します。WinDVDの音量は変化しません。

リモコンで使えるソフト(2)

ボタン	BeatJam	スカパー！ Netてれび	SmartPhoto（スライドショー機能利用時）
【アプリ終了】	ソフトの終了	ソフトの終了	ソフトの終了
【スキップ】	前後の曲へ移動	−	前の写真へ移動(前)一覧画面で前の写真へフォーカス移動(前) 次の写真へ移動(次) 一覧画面で次の写真へフォーカス移動(次)
【←･】	−	−	停止中に先頭の写真へ移動 一覧画面で先頭の写真へフォーカス移動
【･→】	−	−	停止中に最後の写真へ移動 一覧画面で最後の写真へフォーカス移動
【再生】	再生	−	再生 一覧画面で選んだ写真を先頭にスライドショー開始
【一時停止】	一時停止	−	一時停止
【停止】	停止	停止メニュー表示	停止
【サブメニュー】	−	サブメニューを表示	サブメニューを表示
【矢印】	項目の移動※6	項目の移動	写真の送り／戻し(左右) 一覧画面でサムネイルのフォーカスを移動(上下左右)
【決定】	決定	決定※7	メニュー画面でフォーカス中の項目を実行 一覧画面で選んだ写真をスライドショー画面で静止表示 選んで取り込む画面の一覧で選択/選択解除
【戻る】	−	ひとつ前の画面に戻る※8	ひとつ前の画面に戻る
【音量】	音量を変更	音量を変更	BGM音量を変更
【消音】	消音	消音	BGMを消音
【1】〜【9】、【0】	−	−	−
【確定】	−	決定	−
【ワイド切換】	−	ワイドモードの切換	−

※6 ：RoomStyleプレーヤー時は【矢印】の上ボタンでモーションパッケージの選択画面を表示します。
※7 ：通常画面では全画面で再生します。
※8 ：全画面からは標準画面に戻ります。

付録

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

パソコンの電源を切って、電源コードを抜いてから

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る(シャットダウンする)」(68ページ)の手順で電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

パソコン各部の清掃のしかた

※ディスプレイの形状は、モデルによって異なります。

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

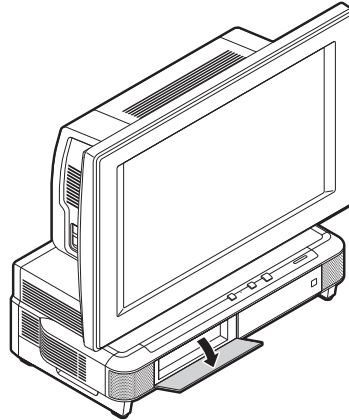
- この方法でディスクを取り出す前に、『パソコンのトラブルを解決する本』の「その他のトラブルがおきたとき」-「DVD/CDドライブからディスクを取り出せなくなった」をご覧になり、ディスクが取り出せないか試してください。
- この方法でディスクを取り出すときは、ディスクにアクセスしていない(CD/ハードディスクアクセスランプが点灯、点滅していない)ことを確認してください。アクセス中に取り出そうとすると、データが失われたり、ディスクが使えなくなる場合があります。
- DVD/CDドライブのカバーは、イジェクトボタンを押すと、自動的に開くようになっています。イジェクトボタンを押してもカバーが開かないときは、必ずこの手順でディスクを取り出してください。カバーを無理に開こうとすると、カバーが壊れる場合があります。

注意

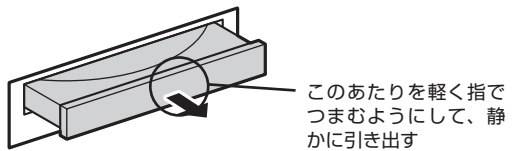
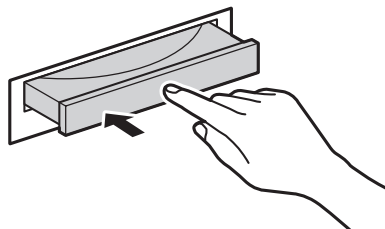
ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

1　太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm程度(指でつまむ部分を除く)の針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2 パソコン前面のDVD/CDドライブカバーを手前に開ける

3 ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、手順1で作った針金を差し込み、強く押し込む

ディスクトレイが 5～15mmほど飛び出します。

4 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

5 ディスクトレイの前面を、イジェクトボタンを押さないように注意しながら、ディスクトレイがもとどおりに収納されるまで押し込む

キーボードとマウスを登録しなおす

キーボード、マウスが動かなくなったときの登録のしかたを説明します。

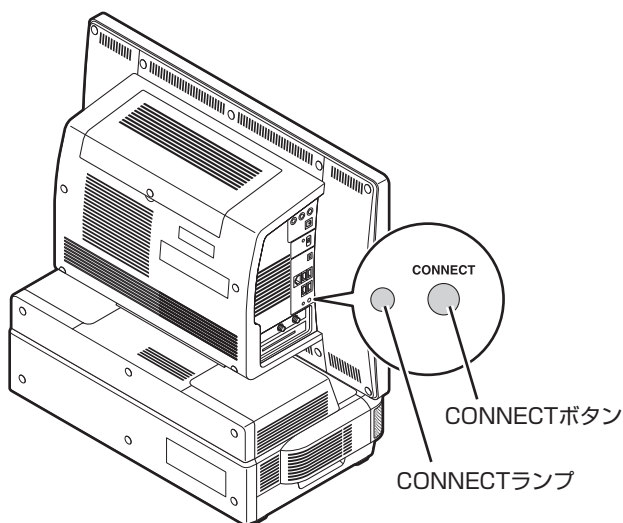
このパソコンのキーボードとマウスは無線でパソコンに信号を送ります。ご購入時には、キーボードとマウスからパソコン本体に信号を送るための登録がされていますが、何らかの原因でキーボードやマウスからの操作ができなくなることがあります。
その場合は、次の手順でキーボードとマウスを登録しなおしてください。
また、パソコンを修理･交換した場合も、登録しなおす必要があります。

キーボードとマウスを連続して登録するときは、一方を登録した後、約30秒間隔をあけて次の登録をおこなってください。

キーボードを登録しなおす

1 **本機の電源が入っていることを確認する**

2 **キーボード右上にあるキーボード電源スイッチを「ON」にする**

3 **ペンの先などで、パソコン本体の左側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す**

登録モードになり、CONNECTランプが点滅します。

4 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから20秒以内に、キーボード裏面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、キーボードが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してキーボードが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

マウスを登録しなおす

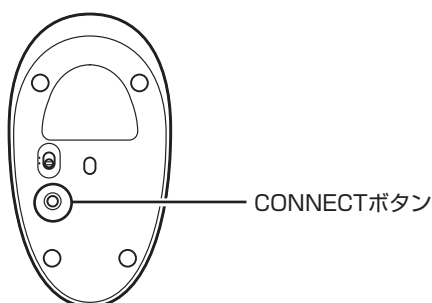
1 本機の電源が入っていることを確認する

2 マウス底面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする

3 ペンの先などで、パソコン本体の左側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

登録モードになり、CONNECTランプが点滅します。

付録

4 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから20秒以内に、マウス底面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、マウスが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してマウスが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

このパソコンを複数隣接して使用した場合など、ひとつのキーボード、マウスで2台反応したときは、パソコンを置く位置を変更するか、または、以下の操作をおこなってください。

1 どちらか1台のパソコンの電源を切り、電源コードを抜く

2 もう1台で、キーボードとマウスを登録しなおす

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品･有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。

NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品(代表例)
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。**
- **有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。**
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。**

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡(売却)する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること(本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください)。

※ 第三者に譲渡(売却)する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイページ(http://121ware.com/my/)の保有商品情報で削除いただくか、またはEメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- ●はじめて登録するかた
  「新規取得」をクリックして登録
- ●以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた
  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録
- ●すでにログインIDをお持ちのかた
  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
（本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日
3. 121wareお客様登録番号
（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先
〒143-8691　郵便事業株式会社　大森支店私書箱5号
NEC121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の右側面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。希少資源の再利用のため、不要になったパソコンのリサイクルにご協力ください。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収･再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター
回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間：9:00 ～ 17:00（年中無休）

0120-977-121
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、フリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。
03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合(産業廃棄物として廃棄される場合)、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL:http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/it/

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化(フォーマット)」、「メモリーカードの初期化(フォーマット)」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス(ともに有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊(メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ)して、読めなくすることを推奨します。

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

地上デジタル放送で使用する個人情報の消去に関するご注意

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、地上デジタル放送のデータ放送で使用した個人情報を消去することが必要になります。個人情報の消去にはSmartVisionを使用します。詳しくは、『テレビを楽しむ本』付録の「個人情報を消去する」をご覧ください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

VW790/SG、VW770/SG

型名				VW790/SG	VW770/SG
型番				PC-VW790SG	PC-VW770SG
インストールOS・サポートOS				Windows Vista® Home Premium with Service Pack 1 (SP1) 正規版※1※2※3	
CPU				インテル® Core™2 Quad プロセッサー Q8200s (2.33GHz)	インテル® Core™2 Duo プロセッサー E7400 (2.80GHz)
	2次キャッシュメモリ			4MB	3MB
バスクロック	システムバス			1333MHz	1066MHz
	メモリバス			1066MHz	
チップセット				インテル® G45 Express チップセット	
メインメモリ ※4※5※7	標準容量／最大容量			4GB(DDR3 SDRAM/DIMM 2GB×2、PC3-8500対応、デュアルチャネル対応)／ 4GB※8	
	スロット数			DIMMスロット×2[空き:0]	
表示機能	ディスプレイ[型番]			22型ワイド(スーパーシャインビュー EX2液晶)[ディスプレイ本体一体型]	
		表示寸法(アクティブ表示エリア)		473(W)×296(H)mm	
		画素ピッチ		0.282mm	
		LCDドット抜けの割合※9		0.00009%以下	
	表示色(解像度)※10	本体標準ディスプレイ		最大約1677万色(1680×1050ドット、1280×1024ドット※11、1024×768ドット※11、800×600ドット※11)	
		本機のサポートする表示モード	デジタルディスプレイ	−※12	
			アナログディスプレイ	−※12	
			HDMI接続時	−※12	
	グラフィックアクセラレータ			インテル® GMA X4500HD(インテル® G45 Express チップセットに内蔵)	
	グラフィックスメモリ※13※14			最大1422MB※6	
ドライブ	ハードディスクドライブ※15			約1TB(Serial ATA、高速7200回転/分)	
		Windows®システムから認識される容量※16	Cドライブ／空き容量	約83GB ／約55GB	
			Dドライブ／空き容量	約831GB ／約831GB	
	BD/DVD/CDドライブ(詳細は別表(203ページ)をご覧ください)			ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)※17	
サウンド機能	スピーカ			内蔵ステレオスピーカ(3W+3W)	
	音源／サラウンド機能			インテル® High Definition Audio準拠(最大192kHz/24ビット※19、ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、MaxxAudio®機能※18、3Dオーディオ、マイク機能(ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング)	
	サウンドチップ			RealTek社製 ALC262搭載	
通信機能	LAN			1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応	
	ワイヤレスLAN			高速Draft 11n対応ワイヤレスLAN本体内蔵※20※21※22※23※24※25※26(IEEE802.11n Draft 2.0、IEEE802.11a/b/g準拠)	
TV機能(詳細は別表(204ページ)をご覧ください)				地上デジタル・BSデジタル・110度CSデジタル放送対応(ダブル録画対応)※42	
入力装置	キーボード			ワイヤレスキーボード※27※28※29(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン、ECOボタン付き)	
	マウス			ワイヤレスレーザーマウス※27※29※30(横スクロール機能付き※31)	
	リモコン			赤外線リモコン※29	
	ボタン			画面消灯ボタン	

型名			VW790/SG	VW770/SG
外部インターフェイス	USB※32		4ピン×5[USB 2.0]	
	IEEE1394(DV)		4ピン×1	
	LAN		RJ45×1	
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角型×1	
		マイク入力※33	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 100mVrms(マイクブースト有効時は5mVrms)、バイアス電圧 2.5V)	
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス 16 ～ 100Ω「推奨32Ω」、出力電力 5mW/32Ω)	
		ライン入力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル1Vrms)	
		ライン出力	ステレオミニジャック×1(出力インピーダンス 47kΩ、出力レベル 1Vrms、ヘッドフォン出力としても使用可能※34)	
	カードスロット	メモリーカード	トリプルメモリースロット×1※35※36[SDメモリーカード(SDHCメモリーカード)※37、メモリースティック(メモリースティック PRO、メモリースティック PRO-HG デュオ)※38、xD-ピクチャーカード]	
	TV	BS・110度CSデジタル放送アンテナ入力端子	F型同軸×1	
		地上デジタル放送アンテナ入力端子	F型同軸×1	
		B-CASカードスロット	専用×1	
外形寸法	本体(突起部除く)		534(W)×253(D)×476(H)mm(ディスプレイ直立時) 534(W)×253(D)×484(H)mm(ディスプレイ最大傾斜時)	
	キーボード		396(W)×150(D)×32(H)mm	
	リモコン		53(W)×225(D)×29(H)mm	
質量	本体		約21kg	
	キーボード／マウス／リモコン		約710g※39 ／約72g※39 ／約130g※39	
電源			AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力	標準／最大／スリープ状態時		約96W ／約199W ／約3W	約96W ／約174W ／約3W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率※40			j区分 0.00046(AAA)	j区分 0.00075(AAA)
電波障害対策			VCCI ClassB	
温湿度条件			10 ～ 35℃、20 ～ 80%(ただし結露しないこと)	
主なソフトウェア			Microsoft® Office Personal 2007※41	
主な添付品			マニュアル、B-CASカード、電源コード、リモコン、乾電池(単三アルカリ:4本、単四マンガン:2本)	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：32ビット版、日本語版です。
※　2：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよびご利用することはできません。
※　3：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※　4：増設メモリは、PC-AC-ME039C(2GB、PC3-8500)を推奨します。
※　5：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
※　6：グラフィックスメモリは、メインメモリを使用します。
※　7：メインメモリの一部をグラフィックスメモリとして使用します。
※　8：最大4GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
※　9：ISO13406-2の基準にしたがって、副画素(サブピクセル)単位で計算しています。
※ 10：本体液晶ディスプレイの最大解像度より小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能で画面全体に表示します。ただし、拡大表示によって文字や線などの太さが不均一になることがあります。
※ 11：画面が横方向に拡大されて表示されます。
※ 12：接続はできません。
※ 13：パソコンの動作状況によりグラフィックスメモリ容量が最大値まで変化します。搭載するメインメモリの容量によって利用可能なグラフィックスメモリの総容量は異なります。利用可能なグラフィックスメモリの総容量とは、Windows Vista®上で一時的に使用する共有メモリやシステムメモリを含んだ最大の容量を意味します。
※ 14：パソコンの動作状況によってメモリ容量が変化します。また本機のハードウェア構成、ソフトウェア構成、BIOSおよびディスプレイドライバの更新によりグラフィックスメモリの最大値が変わる場合があります。
※ 15：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 16：右記以外の容量は、再セットアップ用領域として占有されます。
※ 17：ブルーレイディスクの再生はソフトウェアを用いているため、ディスクによっては操作および機能に制限があったり、CPU負荷などのハードウェア資源の関係で音がとぎれたり映像がコマ落ちする場合があります。
※ 18：MaxxAudio®は内蔵スピーカ専用の機能です。ヘッドフォン／オーディオ出力端子、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力、USBオーディオなどを使用した外部機器では動作しません。
※ 19：量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 20：IEEE802.11n Draft 2.0およびIEEE802.11a/b/g準拠。ただし「IEEE802.11n Draft 2.0準拠」の表記は、他のIEEE802.11n Draft 2.0対応製品との接続性を保証するものではありません。

※ 21： IEEE802.11n Draft 2.0はWPA-PSK（AES）、WPA2-PSK（AES）対応、IEEE802.11a/b/gはWEP（64/128bit）、WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES）対応。
※ 22： 5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11n Draft 2.0（W52/W53/W56）およびIEEE802.11a（W52/W53/W56）準拠です。
※ 23： 理論上の最大通信速度は送受信ともに300Mbpsですが、実際のデータ転送速度を示すものではありません。接続先の11nワイヤレスLAN機器の仕様により、接続時の速度が異なります。
※ 24： IEEE802.11n Draft 2.0（W52/W53）、およびIEEE802.11a（W52/W53）ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。
※ 25： W52/W53/W56は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細は http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/050516_5ghz/index.html をご覧ください。
※ 26： IEEE802.11b/g（2.4GHz）とIEEE802.11a（5GHz）は互換性がありません。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※ 27： 金属製の机の上などで使用した場合に、動作に影響することがあります。木製の机などの上でのご利用をおすすめします。
※ 28： キーボードの電池寿命は、アルカリ電池で連続使用した場合、最大約1000時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 29： 使用可能な距離は約3mです（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 30： マウスの電池寿命は、アルカリ電池で連続使用した場合、最大約150時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 31： スクロール機能は、使用するソフトウェアによって動作が異なったり、使用できないことがあります。
※ 32： USBポートの電源供給能力は、1ポートあたり動作時は最大500mA、スリープ時は数十mA程度です。これ以上の電流を消費するバスパワードのUSB機器は電源の寿命を低下させるおそれがありますので接続しないでください。
※ 33： パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。
※ 34： 周波数特性や、出力電力を保証するものではありません。
※ 35： それぞれのメモリーカードは、各々同時に使用することはできません。
※ 36： 「マルチメディアカード（MMC）」はご利用できません。著作権保護機能には対応しておりません。ただし、添付ソフト「SD-MobileImpact for NEC」を使用した場合には、「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」の著作権保護機能対応となります。
※ 37： 「SDIOカード」には対応しておりません。「miniSDカード」、「microSDカード」をご使用の場合には、SDカード変換アダプタをご利用ください。microSDカード→miniSDカード変換アダプタ→SDカード変換アダプタの2サイズ変換には対応しておりません。詳しくは「miniSDカード」、「microSDカード」の取扱説明書をご覧ください。
※ 38： 「メモリースティック デュオ」をご使用の場合には、「メモリースティック デュオ」アダプターをご利用ください。「メモリースティック マイクロ」（M2）をご使用の場合には、「メモリースティック マイクロ」（M2）スタンダードサイズアダプターをご利用ください。「メモリースティック マイクロ」（M2）→「メモリースティック マイクロ」（M2）デュオサイズアダプター→「メモリースティック デュオ」アダプターの2サイズ変換には対応しておりません。詳しくは「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック マイクロ」（M2）の取扱説明書をご覧ください。本機は4ビットパラレルデータ転送に対応しております。ただし、お使いのメモリーカードによっては読出し／書込みにかかる時間は異なります。「メモリースティック PRO-HG デュオ」の8ビットパラレルデータ転送には対応しておりません。著作権保護機能（マジックゲート）には対応しておりません。
※ 39： 乾電池の質量は含まれておりません。
※ 40： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。2007年度基準で表示しております。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
※ 41： Microsoft® Office 2007 Service Pack 1をインストール済み。マニュアル添付。
※ 42： 出荷時の解像度／色数以外ではTV機能を利用できません。

BD/DVD/CDドライブ仕様一覧

ドライブ※1		ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)
読出し	CD-ROM※2	最大40倍速
	CD-R	最大40倍速
	CD-RW	最大32倍速
	DVD-ROM	最大16倍速
	DVD-R	最大12倍速
	DVD+R	最大12倍速
	DVD-RW	最大8倍速
	DVD+RW	最大8倍速
	DVD-RAM※8	最大5倍速
	DVD-R(2層)※5	最大8倍速
	DVD+R(2層)	最大8倍速
	BD-ROM	最大8倍速
	BD-R(1層)※10	最大6倍速
	BD-R(2層)※10	最大6倍速
	BD-RE(1層)	最大2倍速
	BD-RE(2層)	最大2倍速
書込み／書換え	CD-R	最大40倍速
	CD-RW※3	最大10倍速
	DVD-R※4	最大16倍速
	DVD+R	最大16倍速
	DVD-RW※7	最大6倍速
	DVD+RW	最大8倍速
	DVD-RAM※8	最大5倍速※9
	DVD-R(2層)※6	最大4倍速
	DVD+R(2層)	最大4倍速
	BD-R(1層)※10	最大6倍速
	BD-R(2層)※10	最大6倍速
	BD-RE(1層)※11	最大2倍速
	BD-RE(2層)※11	最大2倍速

※　1：使用するディスクによっては、一部の書込み／読出し速度に対応していない場合があります。
※　2：Super Audio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読出し可能です。
※　3：Ultra Speed CD-RWディスクはご使用になれません。
※　4：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したディスクの書込みに対応しています。
※　5：追記モードで記録されたDVD-R(2層)ディスクの読出しはサポートしておりません。
※　6：DVD-R(2層)書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したディスクの書込みに対応しています。ただし、追記は未対応です。
※　7：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したディスクの書換えに対応しています。
※　8：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB)に準拠したディスクに対応しています。また、カートリッジ式のディスクは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはディスク取り出し可能なカートリッジ式でディスクを取り出してご利用ください。DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB)の読出し/書換えはサポートしておりません。
※　9：DVD-RAM12倍速ディスクの書込みはサポートしておりません。
※ 10：BD-R Ver.1.1/1.2/1.3(LTH Type含む)に準拠したディスクに対応しています。
※ 11：BD-RE Ver.2.1に準拠したディスクの書込みに対応しています。カートリッジタイプのブルーレイディスクには対応しておりません。

ＴＶ機能仕様一覧

TV受信機能

型名	VW790/SG、VW770/SG
TVチューナー	地上デジタルチューナー、BS･110度CSデジタルチューナー
対応する放送の種類	地上デジタル放送※1、BSデジタル放送※2、110度CSデジタル放送※2
CATVパススルー対応	対応帯域：全帯域（VHF･MID･SHB･UHF）
字幕放送	対応
データ放送	対応
双方向サービス	対応※3※4
EPG（電子番組表）	対応

TV録画機能（HDDへの録画）

録画モード		ビットレート	1時間あたりの録画に必要なハードディスク容量※5※6	字幕表示対応	最大録画時間（最大録画容量）※6※7	
					VW790/SG（約886GB）	VW770/SG（約886GB）
ダイレクトモード※8	BS･110度CSデジタルハイビジョンテレビ放送	約24Mbps	約10.1GB	○	約88時間	
	BS･110度CSデジタル標準テレビ放送	約11Mbps	約4.6GB	○	約192時間	
	地上デジタルハイビジョンテレビ放送	約17Mbps	約7.2GB	○	約124時間	
	地上デジタル標準テレビ放送	約8Mbps	約3.4GB	○	約264時間	
ファインモード※8		約8Mbps	約3.4GB	○	約264時間	
ファインロングモード※8		約4Mbps	約1.7GB	○	約528時間	
ロングモード※9		約2Mbps	約860MB	○	約1056時間	

録画可能メディア　記録時間

メディア	録画形式	録画モード		字幕表示対応	VW790SG、VW770SG
BD-R（1層／2層） BD-RE（1層／2層） ※10	BD-AV形式	ダイレクトモード	BS･110度CSデジタルハイビジョンテレビ放送	○	約2時間10分／約4時間30分
			BS･110度CSデジタル標準テレビ放送	○	約5時間／約10時間
			地上デジタルハイビジョンテレビ放送	○	約3時間10分／約6時間30分
			地上デジタル標準テレビ放送	○	約6時間50分／約13時間50分
		ファインモード		○	約6時間50分／約13時間50分
		ファインロングモード		○	約13時間50分／約27時間40分
		ロングモード		○	約27時間40分／約55時間30分
DVD-R（1層／2層） ※11	DVD-VR形式※12	高画質モード		×	約1時間10分／約2時間30分
		標準画質モード		×	約2時間30分／約5時間10分
		長時間モード		×	約5時間10分／約10時間20分
DVD-RAM （片面4.7GB） ※11※13	AVCREC形式 （BD-AV）	ファインモード		○	約1時間10分
		ファインロングモード		○	約2時間30分
		ロングモード		○	約5時間10分
	DVD-VR形式※12	高画質モード		×	約1時間10分
		標準画質モード		×	約2時間30分
		長時間モード		×	約5時間10分

放送中の番組を視聴しているとき、および、ダイレクトモードでハードディスクに録画した番組を再生しているとき以外は、データ放送を利用することはできません。
本機では、5.1chサラウンド放送の音声は、ステレオ2chに変換して出力しています。
※　1：ケーブルテレビ会社経由で地上デジタル放送を受信する場合、再配信されている地上デジタル放送信号が同一周波数パススルー方式および周波数変換パススルー方式の場合は地上デジタル放送を視聴可能です。その他の方式（トランスモジュレーション方式など）では視聴できません。再配信されている地上デジタル放送の方式に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。
※　2：ケーブルテレビ会社経由でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかどうかは、ケーブルテレビ会社により異なります。ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。
※　3：LAN回線を使用して双方向サービスをご利用になれます。
※　4：本機はモデム機能を搭載していないため、電話回線を用いた双方向サービスは利用できません。
※　5：録画するTV番組により必要なハードディスク容量は変動します。
※　6：容量は、1MB＝1024^2バイト、1GB＝1024^3バイト換算値です。
※　7：出荷時のハードディスク空き容量（CドライブとDドライブの合計）に録画した場合の目安です。出荷時の録画先ドライブはDドライブになります。ハードディスクのご使用状況に応じ、録画保存先の切り換えが必要になる場合があります。録画するTV番組により必要なハードディスク容量は変動します。
※　8：放送された解像度のままで録画します。
※　9：録画時の解像度は、720×480となります。
※ 10：BD-RE Ver.1.0規格のディスク（カートリッジ付きディスク）の使用はできません。次世代著作権保護技術AACSに対応しています。
※ 11：CPRM方式に対応していないDVD-R/DVD-RAMにはコピーまたはムーブできません。
※ 12：DVD-VR形式で保存する場合には、ダイレクトモード／ファインモード／ファインロングモード／ロングモードを、高画質モード／標準画質モード／長時間モードに変換します。
※ 13：ディスク容量の表記は、1GB＝1000^3バイト換算値です。

LAN仕様一覧

項　目	規　格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

リモコン仕様一覧

外形寸法	53(W)×225(D)×29(H)mm
質量	約130g(電池含まず)
通信方式	赤外線通信方式
赤外線到達距離	3m以内
電池	単4形乾電池2本

ワイヤレスLAN仕様一覧

本機能はDraft 11n対応ワイヤレスLANモデルのみの機能です。

●IEEE802.11a

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11a ARIB STD-T71 ※4
通信モード	54/48/36/24/18/12/9/6 (Mbpsモード) ※1
変調方式	OFDM方式
無線チャンネル	36ch、40ch、44ch、48ch (アクティブスキャン) 52ch、56ch、60ch、64ch、100ch、104ch、108ch、112ch、116ch、120ch、124ch、128ch、132ch、136ch、140ch(パッシブスキャン) ※5
周波数帯域	5GHz帯域　(5.15 ～ 5.35GHz、5.47 ～ 5.725GHz) ※2
セキュリティ	WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES) WEP(鍵長64bit/128bit※3)

※　1： 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※　2： 36ch、40ch、44ch、48ch、52ch、56ch、60ch、64chを利用したワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。
※　3： ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitです。
※　4： ARIBについての表記の説明は「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意」をご覧ください。
※　5： パッシブスキャンのチャンネルは接続に時間がかかる場合があります。

●IEEE802.11b/g

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b ARIB STD-T66 ※3
通信モード	IEEE802.11gモード:54/48/36/24/18/12/9/6 (Mbpsモード) ※1 IEEE802.11bモード:11/5.5/2/1 (Mbpsモード) ※1
変調方式	OFDM方式 (54/48/36/24/18/12/9/6Mbpsモード時) DS-SS方式 (11/5.5/2/1Mbpsモード時)
無線チャンネル	1 ～ 13ch (アクティブスキャン)
周波数帯域	2.4GHz帯域　(2.4 ～ 2.4835GHz)
セキュリティ	WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES) WEP(鍵長64bit/128bit※2)

※　1： 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※　2： ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitです。
※　3： ARIBについての表記の説明は「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意」をご覧ください。

●IEEE802.11n Draft 2.0

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11n Draft 2.0 ※1、ARIB STD-T66 ※3、ARIB STD-T71 ※3
通信モード	20MHz時:130/117/104/78/52/39/26/13（Mbpsモード） 20MHz、Short GI有効時:144.444（Mbpsモード） 40MHz時:270/243/216/162/108/81/54/27（Mbpsモード） 40MHz、Short GI有効時:300（Mbpsモード）※2
変調方式	OFDM方式、MIMO方式
無線チャンネル	1～13ch（アクティブスキャン） 36ch、40ch、44ch、48ch（アクティブスキャン） 52ch、56ch、60ch、64ch、100ch、104ch、108ch、112ch、116ch、 120ch、124ch、128ch、132ch、136ch、140ch（パッシブスキャン）※4
周波数帯域	2.4GHz帯域　(2.4～2.4835GHz) 5GHz帯域　(5.15～5.35GHz、5.47～5.725GHz) ※5
セキュリティ	WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)

※　1：「IEEE802.11n Draft 2.0準拠」の表記は、他のIEEE802.11n Draft対応製品との接続性を保証するものではありません。

※　2：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※　3：ARIBについての表記の説明は「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意」をご覧ください。

※　4：パッシブスキャンのチャンネルは接続に時間がかかる場合があります。

※　5：36ch、40ch、44ch、48ch、52ch、56ch、60ch、64chを利用したワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。

「ソフト＆サポートナビゲーター」詳細目次

「ソフト＆サポートナビゲーター」詳細目次

●ソフトを探す

目的からソフトを３ステップで選びます。使いたいソフトが決まっているときは50音から探すこともできます。

- 50音／英数字から選ぶ
- お気に入り
- ソフトの追加と削除について
- ソフトインストーラでソフトを追加・削除する

●使う

周辺機器をつなげたりするだけでなく、パソコンを安全に利用するときや設定の変更など、パソコンを「使う」ときに便利な情報について説明しています。

- パソコンにつなげる
- 安全に使うためのポイント
- ウイルス感染の防止
- 不正アクセスの防止
- Windowsの更新
- 使いやすい設定に変更
- Windowsの操作

●困った

Q&A情報とNECのサービス＆サポートについて説明しています。

- 困ったときには
- 突然、画面が表示された
- 電源と起動
- キーボード・マウス
- Windows操作・設定
- インターネット・ネットワーク
- 音・画像・映像
- 印刷・プリンタ
- ハードウェア・システム設定
- セキュリティ
- ソフト（アプリケーション）
- 知っておくと便利
- NECのサービス＆サポート
- 追加情報

●パソコンの各機能

各部の名称と役割のほか、キーボードや省電力機能など、パソコンの機能について説明しています。

説明する内容は、機種により異なります。

●ソフト＆サポートナビゲーターについて

「ソフト＆サポートナビゲーター」の使い方や表記のルールなどについて説明しています。

- 本ソフトの使い方
- 本ソフトでの表記

●用語集

索引

数字

アルファベット

A

B

C

D

E

F

G

H

I

L

N

S

V

W

かな

あ

か

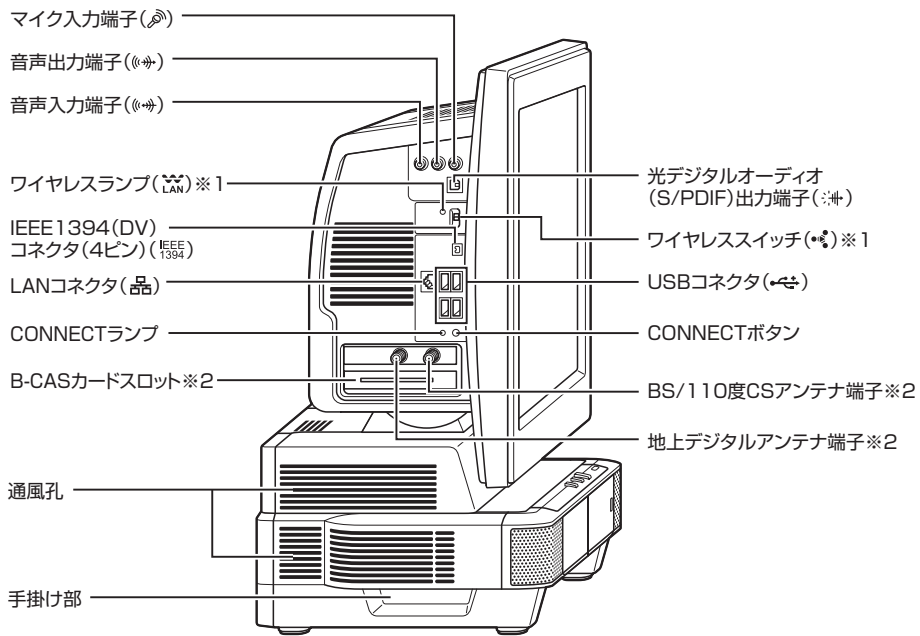
各部の名称（1）

● 本体前面 ●

※:リモコンを添付しているモデルのみ機能します。

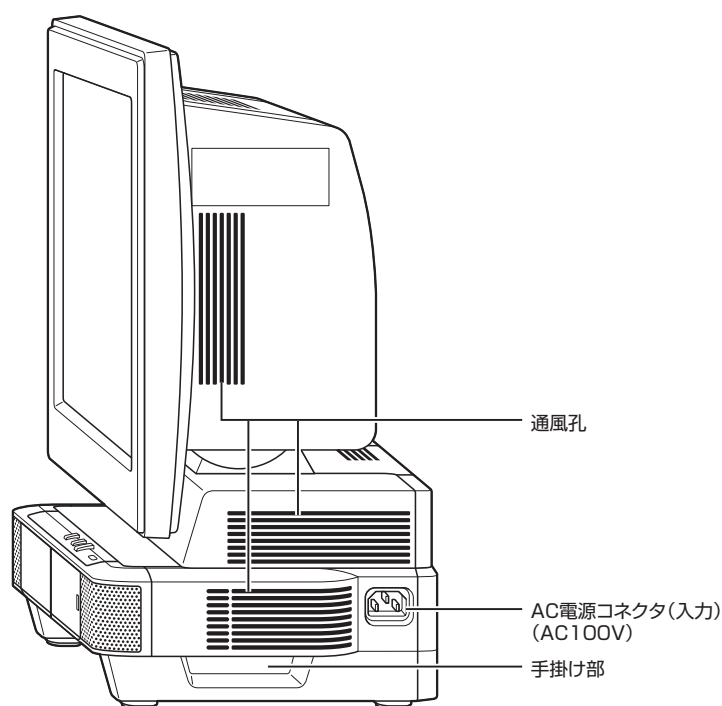
詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（2）

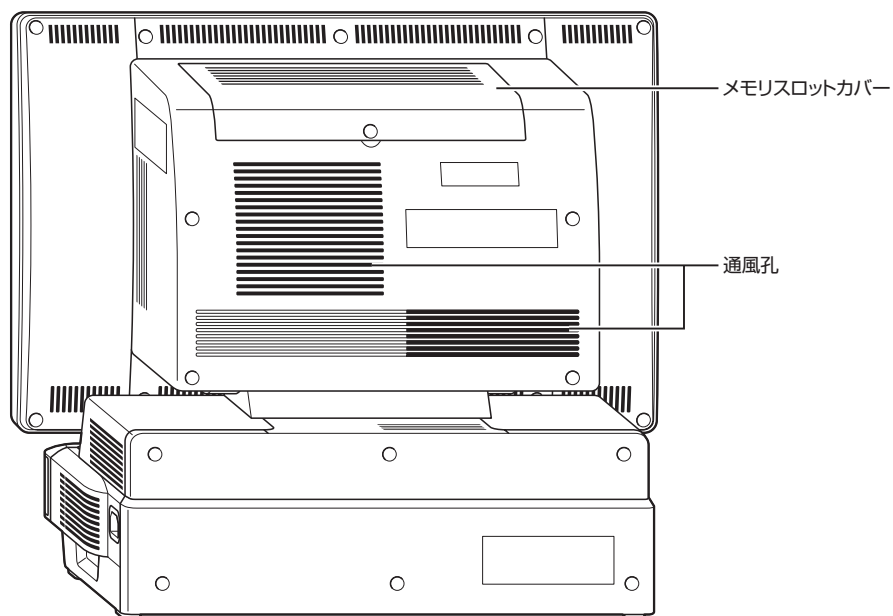
● 本体左側面 ●

※1：ワイヤレスLAN機能を搭載したモデルのみ
※2：デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/110度CS)モデルのみ

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（3）

● 本体右側面 ●

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（4）

● 本体背面 ●

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

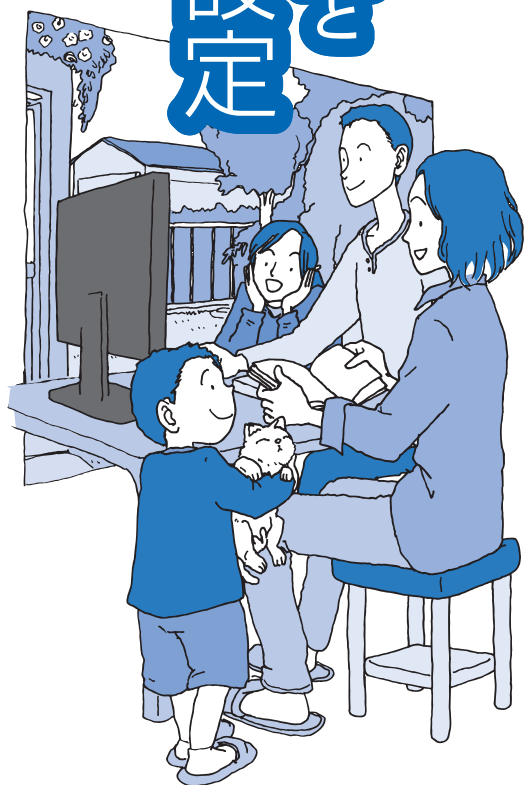
● ソフト＆サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いたいソフトを探したり、パソコンの機能についての説明を見ることができる「ソフト＆サポートナビゲーター」が入っています。

デスクトップにある をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

目的に合わせて、次の4種類の説明をご覧ください。

▶ ソフトを探す	このパソコンに入っているソフトを探して、起動することができます。ソフトについての説明もあります。
▶ 使う	パソコンに周辺機器を取り付ける方法やWindowsの操作、セキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 困った	うまくいかないとき、故障かな？と思ったときにご覧ください。NECのサポート窓口についての情報もこちらです。
▶ パソコンの各機能	このパソコンの各機能や名称についての詳しい情報を記載しています。

VALUESTAR

初版 2009年1月
NEC
853-810601-795-A
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙を使用しています。